

DW-Scan III Service

Version 1.1

取扱説明書



Rev1.3

始めに

このたびは、DW-Scan III Service をご使用 購入いただき、誠にありがとうございます。

- この「取扱説明書」は、DW-Scan III Service の操作方法について記載してあります。
- DW-Scan III Service の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、この「取扱説明書」を最後までお読みください。
- お読みになった後は、大切に保管してください。
- 機械をご使用中、不明な点がございましたら、この「取扱説明書」をご利用ください。

本書の内容は、DocuScan C1500 / DocuWide 6055 の取り扱いと操作について、ご理解いただいていることを前提に記述されています。DocuScan C1500 / DocuWide 6055 の取り扱いと操作で不明な点は、次の説明書を参照してください。

- ・「DocuScan C1500 取扱説明書」
- ・「DocuWide 6055 取扱説明書」

本書の記載事項は、事前通知無しに変更される場合も有りますので、予めご了承ください。

ご注意

- ① 本書の内容の一部または全部を無断で転載することはおやめください。
 - ② 本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。
 - ③ 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
 - ④ お客様が機器を運用された結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。

Windows® 7, Windows Vista(TM), Windows® XP, Windows® Server 2003, Windows® Server 2008, Windows® Server 2008 R2 は Microsoft® 社の登録商標です。
その他の社名・商品名は各社の商標または登録商標です。

目次

第 1 章 概要

1.1 DW-Scan III Service とは.....	2
1.1.1 主な機能	2
1.2 接続構成	4
1.2.1 必要な機器	4

第 2 章 インストール

2.1 インストールの方法.....	8
2.1.1 インストール	8
2.1.2 ハードウェア検索ウィザード.....	13
2.1.3 プログラムを修正する	15
2.1.4 コントロールパネルからアンインストールする	17
2.1.5 インストール CD からアンインストールする	19
2.2 データ実行防止機能 (DEP) への対応	22
2.2.1 DEP 機能サポート状況の確認	23
2.2.2 DW-Scan III Service をハードウェア DEP 機能の監視対象外にする	25
2.3 Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 にデスクトップ エクスペリエンス機能を追加する	27
2.3.1 手順.....	27

第 3 章 操作方法

3.1 起動と終了	32
3.1.1 DW-Scan III Service の起動	32
3.1.2 DW-Scan III Service の終了	33
3.2 ウィンドウの説明	34
3.2.1 メインウィンドウ	34
3.2.2 詳細設定パネル (ログパネル)	38
3.2.3 詳細設定パネル (読み取りサイズパネル)	39
3.2.4 詳細設定パネル (イメージタイプパネル)	42
3.2.5 詳細設定パネル (色別濃度調整パネル)	44
3.3 自動判定 (定形サイズ) で読み取る	45
3.3.1 手順.....	45

3.4 自動判定（シンクロ）で読み取る	48
3.4.1 手順.....	48
3.5 特定サイズ指定で読み取る.....	51
3.5.1 手順.....	51
3.6 任意サイズ指定で読み取る.....	54
3.6.1 手順.....	54
3.7 設定ファイルの保存.....	57
3.7.1 手順.....	57
3.7.2 標準設定として保存	58
3.7.3 標準設定を初期値に戻す	58
3.8 保存した画像ファイルを表示する	59
3.8.1 手順.....	59
3.9 保存した画像ファイルを編集する	60
3.9.1 ページの追加	60
3.9.2 ページの削除	61
3.9.3 ページの入れ替え	62
3.9.4 画像の回転	63
3.9.5 自動傾き補正	64
3.9.6 手動傾き補正 - 水平線を指定	65
3.9.7 手動傾き補正 - 角度を指定	66
3.9.8 ゴミ取り	67
3.9.9 ゴミ取りの性能	68
3.10 画像ファイルのファイル名	69
3.10.1 自動ファイル名.....	69
3.10.2 ファイル名を指定する.....	69
3.10.3 連番最大値を指定する.....	70
3.10.4 表計算のファイルからファイル名を指定する	71
3.10.5 CSV ファイルでファイル名を連番に指定する.....	73
3.10.6 設定ファイルを開くときにファイル名を指定する.....	74
3.10.7 マルチページで保存.....	74
3.10.8 マルチページ形式のファイル名	75
3.10.9 ファイル名に使用できない文字	76
3.11 ヘルプメニュー.....	77
3.11.1 環境設定（自動読み取り中止）	77
3.11.2 環境設定（ログファイルの作成）	78
3.11.3 環境設定（編集初期設定）	79
3.11.4 環境設定（保存ファイルフォーマット）	80
3.11.5 環境設定（濃淡表示初期設定）	82

3.11.6 環境設定（プレビュー表示倍率）	83
3.11.7 環境設定（外部ビューワ）	84
3.11.8 環境設定（プレビュー自動保存）	85
3.11.9 スキャナ情報	86
3.11.10 バージョン情報	87
3.12 LPR プリント	88
3.12.1 LPR プリントの設定	88
3.12.2 読み取りながら LPR プリントを実行する	89
3.12.3 保存した画像ファイルに LPR プリントを実行する	90
3.12.4 Windows Vista で LPR プリントを有効にする	91
3.12.5 Windows 7 で LPR プリントを有効にする	92
3.12.6 Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 で LPR プリント を有効にする	93
3.13 定形サイズ補正	95
3.13.1 定形サイズ補正が必要なとき	95
3.13.2 手順	95
3.13.3 定形サイズと画素数（出荷時の設定）	96
3.14 ファイル名編集ツール	98
3.14.1 ファイル名編集ツールを開く	98
3.14.2 ファイル名編集ツールを使ってファイル変換する	100
3.14.3 ファイル名編集ツールを使ってマルチページに変換する	101
3.15 印刷	102
3.15.1 プリンタの設定	102
3.15.2 印刷プレビュー	103
3.15.3 印刷の実行	104
3.15.4 指定した領域の印刷	105
 第 4 章 エラーメッセージ	
4.1 エラーメッセージ一覧	108
4.1.1 起動時・設定ファイルを開いたとき	108
4.1.2 読み取り	108
4.1.3 その他	111
4.2 ログファイル	112
4.2.1 ジョブログ	112
4.2.2 作業履歴ログ	112
 第 5 章 注意 / 制限事項	
5.1 注意 / 制限事項	114
5.1.1 最大読み取り長について	114

5.1.2 フォルダ・ファイル名の長さ	115
5.1.3 自動傾き補正	116
5.1.4 ゴミ取り	116
5.1.5 画像の編集	117
5.1.6 画像の回転	118
5.1.7 自動傾き補正・手動傾き補正の画質	119
5.1.8 プレビューにおける制限のまとめ	119
5.1.9 保存先	120
5.1.10 LPR プリントが行えない場合	120
5.1.11 LPR プリントのサイズ別振り分けについて	120
5.1.12 MS-DOS デバイス名	121
5.1.13 XDW 形式を扱う場合の注意	122
5.1.14 PDF/XDW マルチページ作成時の注意事項	124
5.1.15 連番最大値を超える読み取り	125
5.1.16 CSV ファイルからファイル名を指定する際の注意事項	125
5.1.17 白黒擬似階調を扱う場合の注意事項	125
5.1.18 定形サイズ補正を行う場合の注意事項	126
5.1.19 スキャナデバイスが認識されない場合	126
5.1.20 メモリ不足が発生する場合	127
5.1.21 64bit OS で使用する場合	127
5.1.22 アップデートインストールする場合の注意事項	128
5.1.23 ファイル保存処理とサムネイル表示処理の競合	129

第 1 章 概要

- 1.1 DW-Scan III Service とは
- 1.2 接続構成

1.1 DW-Scan III Service とは

DW-Scan III Service は、DocuScan C1500 / DocuWide 6055
と接続して効率よく使用することを目的として開発されたソフトウェアで、パーソナル・コンピュータ上で動作します。

1.1.1 主な機能

■ 画像ファイリング機能

スキャナから読み取ったイメージデータを画像ファイルとして保存します。画像ファイルのフォーマットは TIFF/PDF/XDW/JPEG 形式から、色は白黒 2 値・グレイ多値・24 ビットカラーから選択可能です。(JPEG 形式は白黒 2 値不可) 圧縮された白黒 2 値画像で保存すればサイズの大きい原稿でも効率よくファイリングすることができます。また、一度に 1000 枚まで (最大 9999 枚まで設定可能) 自動的にファイル名を付けて保存することができます。ファイリングする書類 (TIFF/PDF/XDW) は複数ページにすることもできます。

Note: XDW 形式で保存を行うには、DocuWorks が設置されている必要があります。

Note: グレイ多値、24 ビットカラー、JPEG 形式のファイルはマルチページで保存できません。

■ 自動読み取り機能

各種系列のサイズ、縦・横を自動判定して読み取ります。スキャナに読み込ませた様々な定形サイズを自動判定してそれぞれのサイズで保存します。

■ 読み取り設定機能

読み取り設定をパーソナル・コンピュータのモニター画面上から行えます。また、読み取り設定を設定ファイルとして保存することもできます。

■ 画像処理機能

粒状のゴミを除去したり、自動で傾きを補正する事ができます。

■ ビュー表示機能

読み取り後のイメージデータをモニター画面上で確認できます。

ビューの結果、保存するかどうか指示する事ができます。ビュー上で画像処理及び複数ページ TIFF/PDF/XDW のページ挿入・削除等の編集を行うことができます。

Note: XDW 形式で編集保存を行うには、DocuWorks が設置されている必要があります。

■ LPR プリント機能

読み取り後のイメージデータを LPR 機能を持つプリンタやサーバーにバックグラウンドで転送することができます。用紙サイズに応じて別々のプリンタやサーバーを指定したり、プリントする部数を指定することができます。

■ ファイル名編集機能

読み取り後のイメージデータを確認しながらファイル名を編集することができます。

■ ファイル変換機能

TIFF/PDF/JPEG/XDW 形式のイメージデータを相互に変換することができます。

Note: イメージデータがマルチページ形式の場合は、JPEG ファイルには変換できません。

■ 印刷機能

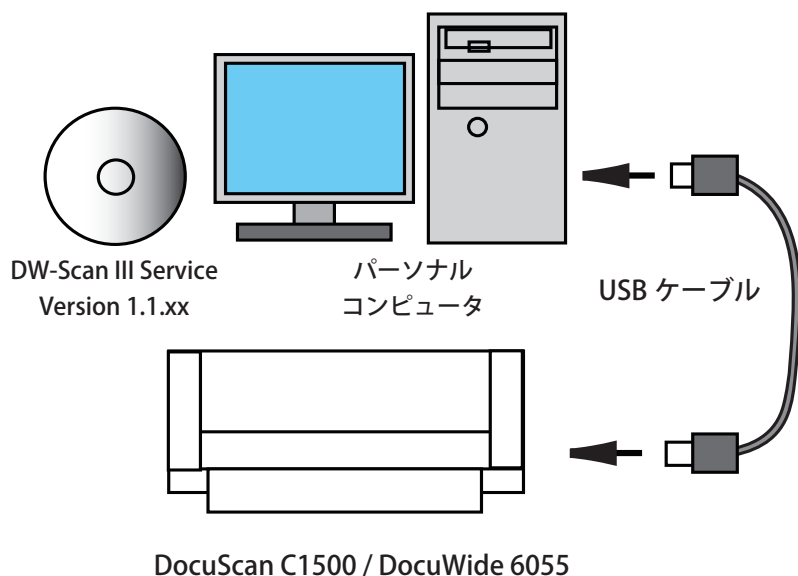
TIFF/PDF/JPEG/XDW 形式のイメージデータを印刷することができます。

1.2 接続構成

DW-Scan III Service を動作させるために必要な構成を以下に記述します。

1.2.1 必要な機器

- | | |
|---|---|
| ■ スキャナ | DocuScan C1500 / DocuWide 6055 |
| ■ CPU | DOS/V 機（NEC の NX シリーズ除く）
Pentium 300MHz 以上 推奨
※ 1 page 5 を参照してください。 |
| ■ メモリ | 512MB 以上
※ 2 page 5 を参照してください。 |
| ■ USB | USB2.0 インターフェース |
| ■ ハードディスク | 500MB 以上の空きがあること
DW-Scan III Service のインストールのみならば、
およそ 42MB 程度です。 |
| ■ ディスプレイ | SVGA 以上（1024x768 以上の解像度） |
| ■ OS | ※ 3 page 5 を参照してください。 |
| ■ DW-Scan III Service アプリケーションプログラム | |
| ■ DocuWorks アプリケーションプログラム（バージョン 6.0 以上） | |
- （※ XDW 形式のファイルを扱う場合のみ必要）



- ※ 1 Microsoft 社の推奨システム要件を満たすシステムで運用してください。
Microsoft 社 Hardware Compatibility List (HCL) に、登録されている、PC 以外での動作は保証できません。
- ※ 2 Windows Vista / Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 をご使用の場合には、2GB 以上のメモリをご使用ください。
A0 サイズ、24 ビットカラーを扱う際は 4 GB を推奨します。
- ※ 3 USB2.0 規格に対応した長さ 5m 以下のケーブルを使用してください。
リピーターケーブルは使用しないでください。
- ※ 4 対応 OS の詳細は以下のようになります。

クライアント OS:

OS	対応
Windows XP (SP2,SP3)	Home Professional / Professional x64 Edition
Windows Vista (SP1,SP2)	Ultimate / Ultimate x64 Edition Business / Business x64 Edition 以下には対応していません。 Home Premium / Home Premium x64 Edition Home Basic / Home Basic x64 Edition
Windows 7 (SP1)	Ultimate (x86,x64) Professional (x86,x64) Enterprise (x86,x64) 以下には対応していません。 Home Premium (x86,x64) Starter

サーバ OS:

OS	対応
Windows Server 2003 R2 (SP2)	Standard Edition Standard x64 Edition 以下には対応していません。 Enterprise Edition / Enterprise x64 Edition Datacenter Edition / Datacenter x64 Edition Web Edition
Windows Server 2008 (SP2)	Standard Edition 以下には対応していません。 Standard x64 Edition Enterprise Edition / Enterprise x64 Edition Datacenter Edition / Datacenter x64 Edition Web Edition
Windows Server 2008 R2 (SP1)	Standard Edition 以下には対応していません。 Enterprise Edition Datacenter Edition Web Server Edition HPC Server Edition ※ 32bit 版はありません。

第 2 章 インストール

- 2.1 インストールの方法
- 2.2 データ実行防止機能 (DEP) への対応
- 2.3 Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 にデスクトップエクスペリエンス機能を追加する

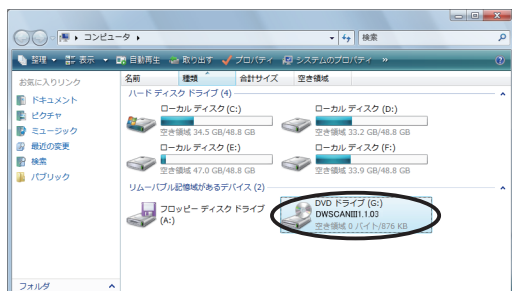
2.1 インストールの方法

インストールを開始する前に、パーソナルコンピュータと "DocuScan C1500" 又は "DocuWide 6055" (以後スキャナ機器と略します。) を USB ケーブルで接続してください。

インストール時にスキャナ機器と接続できない場合は、DW-Scan III Service を起動する前に「2.1.1 インストール」に引き続き、「2.1.2 ハードウェア検索ウィザード」を参照してください。

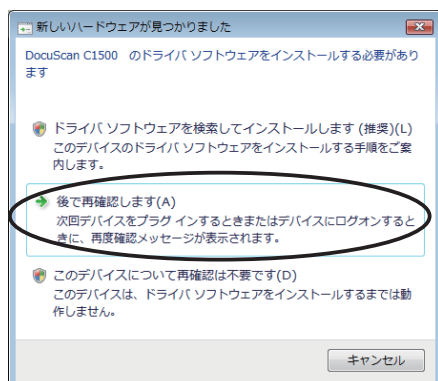
※システム管理者 (Administrator) の権限を持っているユーザーでログインして行ってください。

2.1.1 インストール



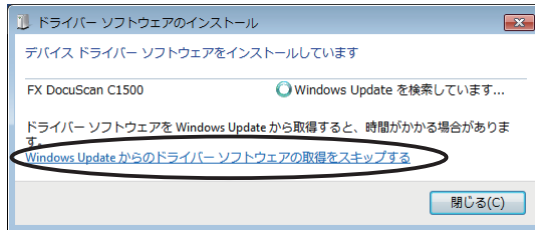
- (1) インストールするパーソナルコンピュータに、システム管理者の権限でログインします。
- (2) インストール CD を CD ドライブに挿入し、“CD-ROM”を開いてディスクの内容を表示させます。

Note: インストール完了前にスキャナ機器を接続した場合、ハードウェアのインストールが開始されます。



• Windows Vista / Windows Server 2008 の場合

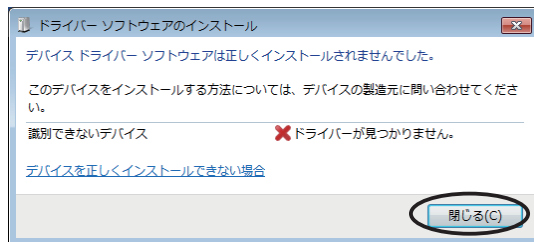
新しいハードウェアのインストールウィザードが開始されます。
"後で再確認します" をクリックしてウィザードを終了してください。



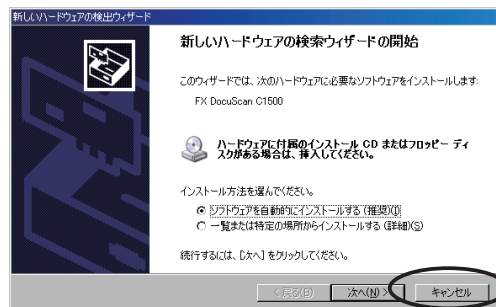
• Windows 7 / Windows Server 2008 R2 の場合

ドライバーソフトウェアのインストールが開始します。

「Windows Updateからのドライバーソフトウェアの取得をスキップする」をクリックしてドライバーソフトウェアの取得をスキップしてください。



「正しくインストールされませんでした」と表示されても問題はありません。「閉じる」ボタンをクリックしてインストールを終了してください。



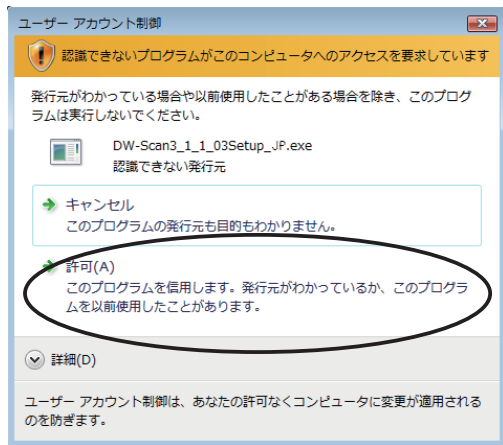
• Windows XP / Windows Server 2003 R2 の場合

新しいハードウェアの検出ウィザードが開始します。

"キャンセル" ボタンをクリックしてウィザードを終了してください。

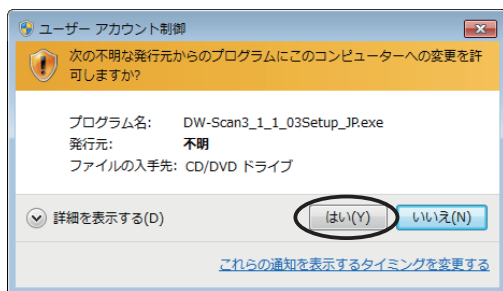


(3) DW-Scan3_1_1_03Setup_JP.exe をダブルクリックしてインストールプログラムを起動します。



(4) Windows Vista / Windows 7 の場合、
ユーザーアカウント制御の確認ダイアログが表示されます。

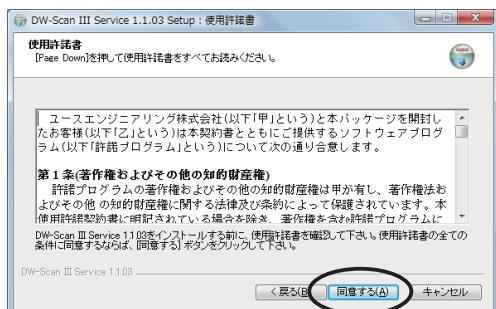
- Windows Vista の場合
" 許可 (A) " を選択してください。



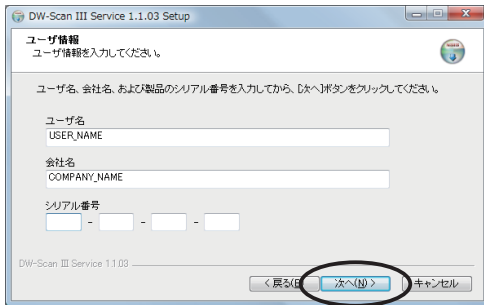
- Windows 7 の場合
" はい (Y) " を選択してください。



(5) セットアップが始まります。
"次へ (N) " ボタンをクリックします。

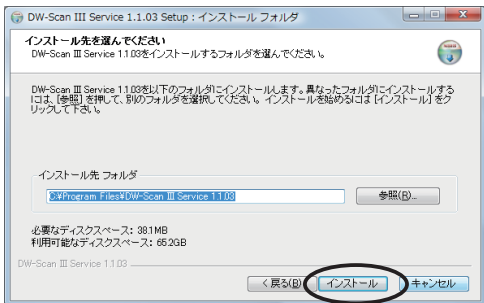


(6) 保証規定が表示されます。規定に同意されるなら、" 同意する (A) " のボタンをクリックします。



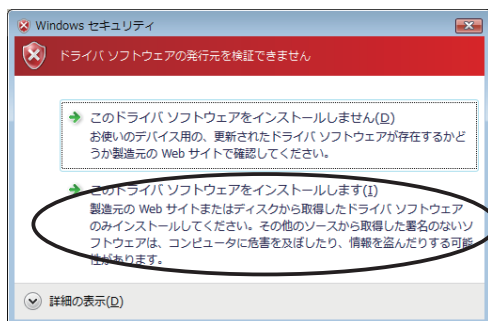
- (7) 使用者の登録を行います。お名前 会社名 シリアル番号を入力します。入力できれば、"次へ (N)" のボタンをクリックします。

Note: シリアル番号は、インストール CD のケースに書かれています。



- (8) インストールするフォルダを指定します。"インストール"のボタンをクリックします。インストールが開始されます。

Note: 再インストールを簡便にするためにこのままのフォルダ名を使用されることをお勧めします。

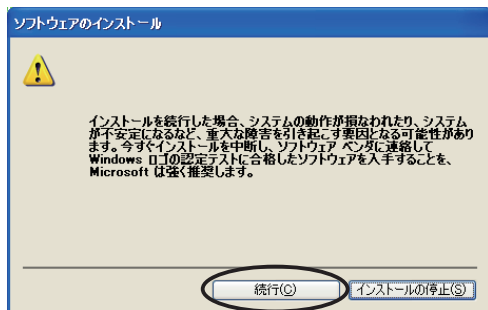


- (9) Windows ログの認定テストに関する警告が表示されます。ログ認定テストに合格していなくても正常に動作可能ですので、インストールを行ってください。

• Windows Vista / Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 の場合

Windows セキュリティのダイアログが表示されます。

"このドライバソフトウェアをインストールします"をクリックしてください。

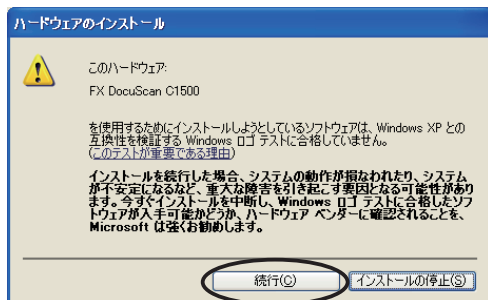


・Windows XP / Windows Server 2003 R2
の場合

1つ又は2つのダイアログが表示されます。

"ソフトウェアのインストール" ダイアログです。

"続行" をクリックしてください。



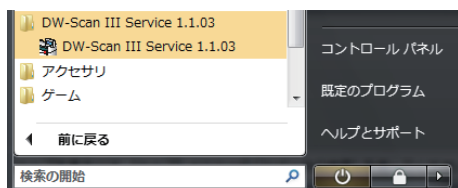
"ハードウェアのインストール" ダイアログです。

"続行" をクリックしてください。

Note: "ハードウェアのインストール" ダイアログはスキャナを接続しているときのみ表示されます。



(10) "完了" をクリックすると DW-Scan III Service のインストールは完了です。



(11) インストール後、スタートメニューから DW-Scan III Service を起動する事ができます。

以上でインストールは終了しました。

Note: スキャナ機器を接続していなかった場合は、DW-Scan III Service で読み取りを開始する前に「2.1.2 ハードウェア検索ウィザード」を参照し、デバイスドライバのインストールを行ってください。

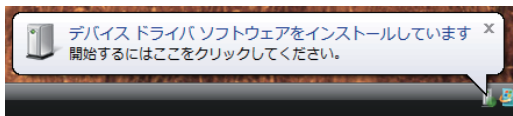
Note: CD-R からインストールを行った際に、ファイルが見つからない またはファイルが壊れている旨のエラーメッセージが表示される時は、CD-R 上のインストーラを一旦ハードディスクにコピーしてから、再度インストールを実行してください。

2.1.2 ハードウェア検索ウィザード

パーソナルコンピュータと "DocuScan C1500" 又は "DocuWide 6055" を USB ケーブルで接続してください。

"DocuWide 6055" が節電状態の場合は節電状態を解除してください。
解除方法については DocuWide 6055 の取扱説明書を参照してください。

Windows Vista / Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 の場合

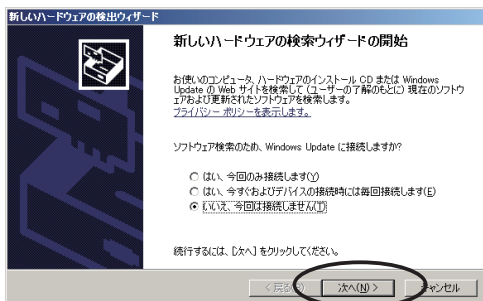


- (1) デバイスドライバは自動的にインストールされます。



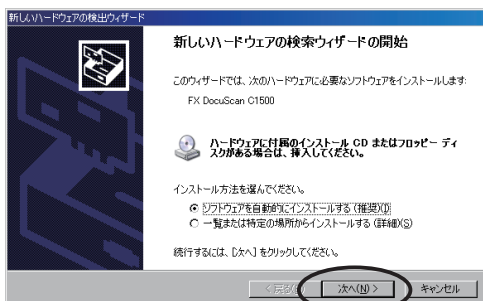
- (2) 左のメッセージが表示されれば、デバイスドライバのインストールは終了です。

Windows XP / Windows Server 2003 R2 の場合

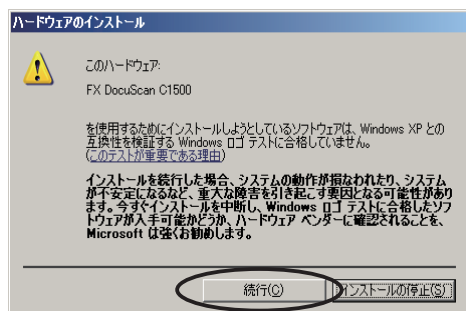


- (1) 新しいハードウェアの検索ウィザードが表示されます。

"いいえ、今回は接続しません" を選択し、"次へボタンをクリックします。"

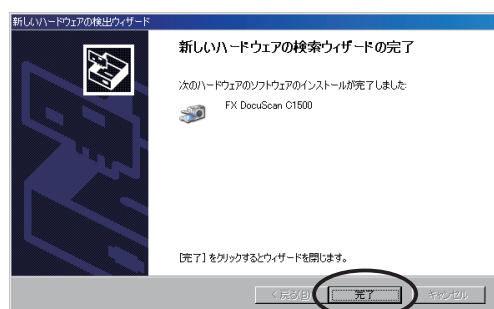


- (2) "ソフトウェアを自動的にインストールする" を選択し、"次へ" ボタンをクリックします。
インストールが開始されます。



(3) Windows ログの認定テストに関する警告が表示されます。

ロゴ認定テストに合格していなくても正常に動作可能ですので、インストールを行ってください。



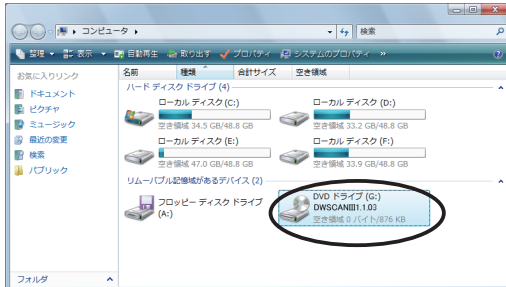
(4) 新しいハードウェアの検索ウィザードが完了します。

"完了" ボタンをクリックします。

以上でスキャナデバイスドライバのインストールは完了です。

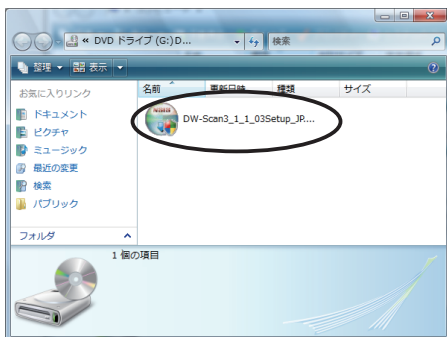
2.1.3 プログラムを修正する

間違えてアプリケーションのファイルを消してしまった場合など、再度インストールプログラムを起動することで、プログラムの修正を行うことができます。

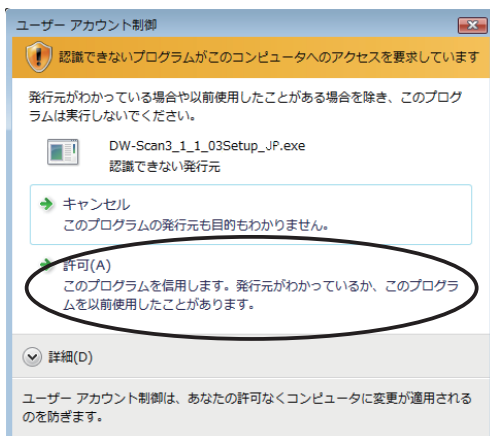


(1) インストールするパーソナルコンピュータに、システム管理者の権限でログインします。

(2) インストール CD を CD ドライブに挿入し、“CD-ROM”を開いてディスクの内容を表示させます。

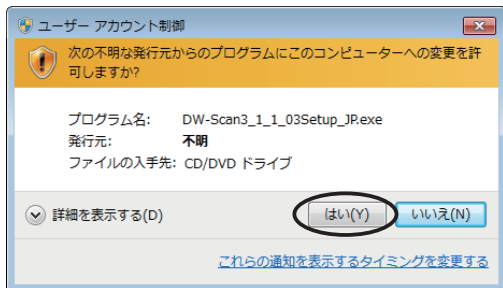


(3) DW-Scan3_1_1_03Setup_JP.exe をダブルクリックしてインストールプログラムを起動します。



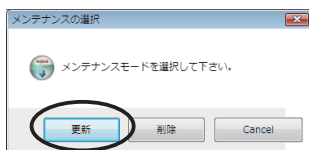
(4) Windows Vista / Windows 7 の場合、ユーザーアカウント制御の確認ダイアログが表示されます。

- Windows Vista の場合
"許可 (A)" を選択してください。

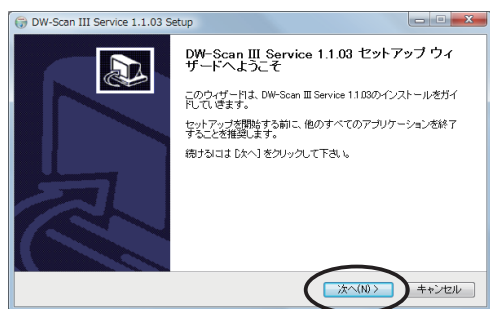


• Windows 7 の場合

" はい (Y) " を選択してください。

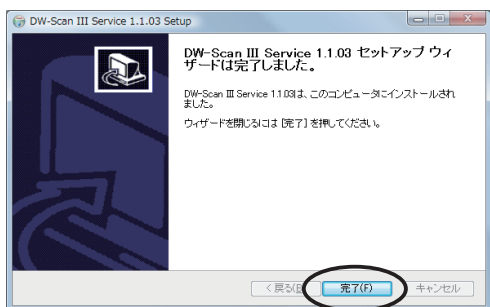


(5) " 更新 " ボタンをクリックします。



(6) メンテナンスが始まります。

" 次へ (N) " ボタンをクリックします。



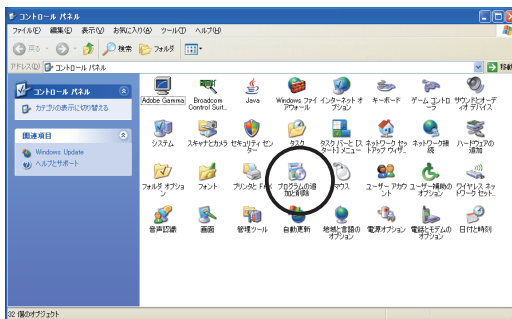
(7) メンテナンス完了のダイアログが表示されたら"完了"をクリックしてインストールプログラムを終了してください。

2.1.4 コントロールパネルからアンインストールする

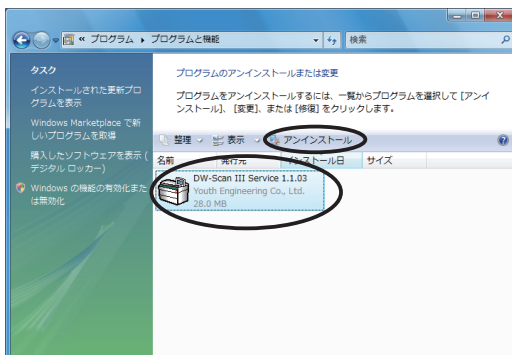
(1) コントロールパネルを開いてプログラムのアンインストールをクリックします。



Note: Windows XP / Windows Server 2003 R2 では、コントロールパネルを開いて“プログラムの追加と削除”をダブルクリックします。

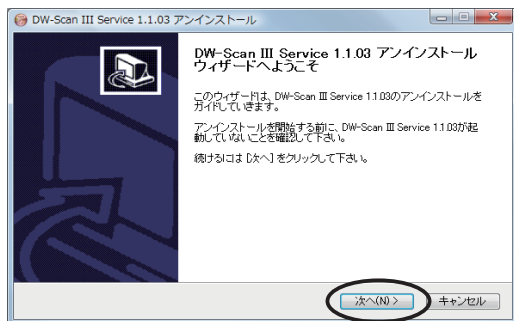


(2) "DW-Scan III Service 1.1.03" を選択してアンインストールをクリックします。



Note: Windows XP / Windows Server 2003 R2 では、"DW-Scan III Service 1.1.03" を選択して“削除”をクリックします。





- (3) アンインストールが始まります。
確認のダイアログが表示されます。
アンインストールを続けるには
"次へ (N)" をクリックします。
アンインストールを取り消すには
"キャンセル" をクリックします。



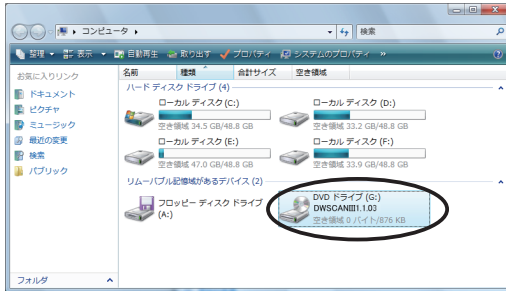
- (4) アンインストール確認のダイアログが表示されます。"アンインストール (U)" をクリックするとアンインストールが開始されます。



- (5) アンインストール完了のダイアログが表示されたら"完了"をクリックしてインストールプログラムを終了してください。

以上でアンインストールは終了しました。

2.1.5 インストール CD からアンインストールする

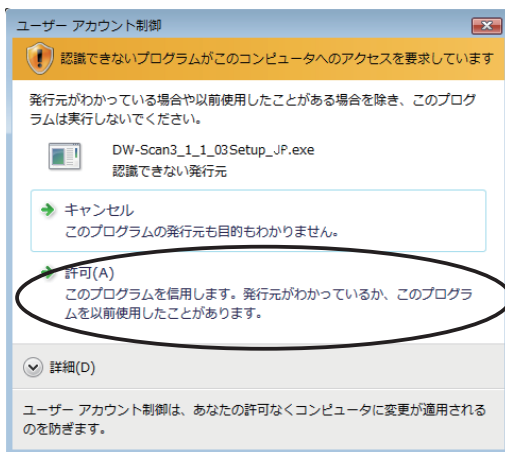


(1) アンインストールするパーソナルコンピュータに、システム管理者の権限でログインします。

(2) インストール CD を CD ドライブに挿入し、“CD-ROM”を開いてディスクの内容を表示させます。



(3) "DW-Scan3_1_1_03Setup_JP.exe" をダブルクリックしてインストールプログラムを起動します。



(4) Windows Vista / Windows 7 の場合、ユーザーアカウント制御の確認ダイアログが表示されます。

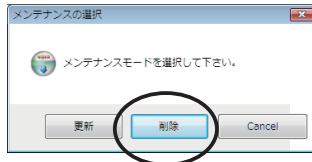
• Windows Vista の場合

"許可 (A)" を選択してください。

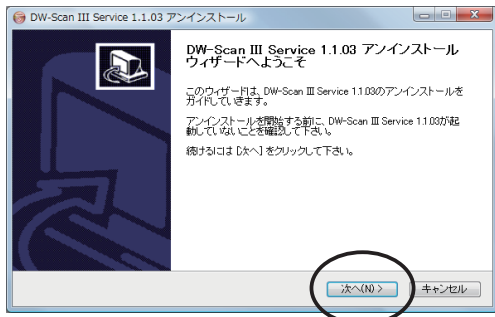


• Windows 7 の場合

"はい (Y)" を選択してください。



(5) "削除" のボタンをクリックします。



(6) アンインストールが始まります。確認のダイアログが表示されます。アンインストールを続けるには "次へ(N)" をクリックします。アンインストールを取り消すには "キャンセル" をクリックします。



(7) アンインストール確認のダイアログが表示されます。"アンインストール (U)" をクリックするとアンインストールが開始されます。



(8) アンインストール完了のダイアログが表示されたら "完了" をクリックしてインストールプログラムを終了してください。

以上でアンインストールは終了しました。

Note: 以下のことを行うとアンインストールを正常に行えない原因となりますので、絶対に行わないでください。

- DW-Scan III Service をインストールしたフォルダを削除。
- DW-Scan III Service をインストールしたフォルダを移動。
- DW-Scan III Service をインストールしたフォルダ名を変更。

(1) DW-Scan III Service をインストールしたフォルダを移動した場合や名前を変えてしまったときはそれを探し、そのフォルダと中味全てを削除します。

※消去するときは、必要なデータなどが残っていないか確認してください。

(2) DW-Scan III Service が使用するレジストリキー情報を消去するために、一旦インストールを行い、その後アンインストールを行います。

Note: アンインストールを行っても下記のフォルダとその中のファイルは削除されません。DW-Scan III Service を完全に削除したいときは下記のフォルダをエクスプローラなどで削除してください。

フォルダのアドレスは使用している OS によって異なります。

- Windows XP / Windows Server 2003 R2 の場合
"C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\
YouthEngineering\DW-Scan III Service1.0\log"
- Windows Vista / Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows Server
2008 R2 の場合
"C:\ProgramData\YouthEngineering\DW-Scan III Service1.0\log"

※オプション商品「CSV 連携 KIT」を使用する場合、上記フォルダに設定ファイル等が保存されています。バージョンアップ等で引き続き「CSV 連携 KIT」を利用される場合は、削除しないでください。

2.2 データ実行防止機能 (DEP) への対応

Windows XP(SP2 以降) , Windows Vista , Windows 7 及び Windows Server 2003 (SP1 以降) , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 では、新たなセキュリティ対策として、データ実行防止機能 (以下 DEP 機能) が提供されています。これはウィルス防止対策の一つで、データ領域にロードされたプログラムの実行を防止することで、いわゆるバッファ・オーバーフローの脆弱性に対応します。特に実行不許可 (NXbit : No eXecute) をサポートする最近のプロセッサと組み合わせた場合、ハードウェア DEP 機能として有効となります。

これに伴い、ハードウェア DEP 機能が有効になっている状態で DW-Scan III Service を使用した場合、以下のような現象が発生することがあります。

- ・起動直後にアプリケーションエラー表示し、強制終了する。
- ・実行したにもかかわらず、立ち上がり何也表示されない。
(画面上何も変化しない)
- ・DEP 機能により起動できないというメッセージが表示される。

本章では、Windows Server 2003 R2 SP2 が適用されている環境を例に挙げて、以下の対応手順を説明します。

1. DEP 機能をサポートするプロセッサか否かの確認
2. ハードウェア DEP 機能の監視対象から、DW-Scan III Service を除外する方法

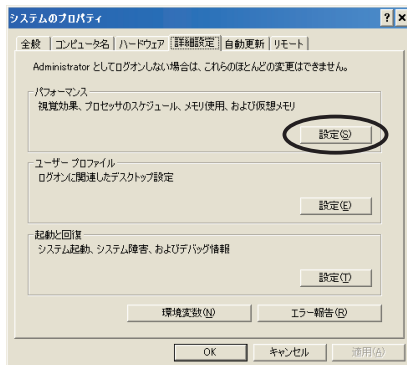
尚、DEP 機能の詳細は、Microsoft 社のホームページ内にある情報をお読みください。

「Windows Server 2003 Service Pack 1 (SP1) 早わかりガイド：データ実行防止機能」
URL : <http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2003/downloads/servicepacks/sp1/sp1guide/page4.mspx>

※この情報は弊社で確認した内容をまとめたものであり、動作を保証するものではありません。

2.2.1 DEP 機能サポート状況の確認

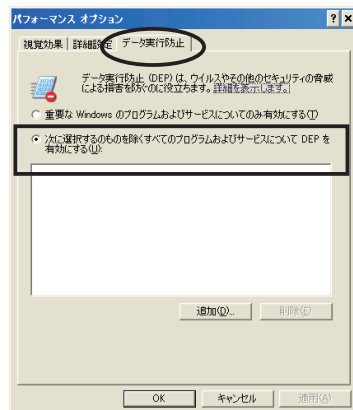
ハードウェア DEP 機能が有効になっているかどうかを確認します。



(1) システム管理者の権限でログインします。

(2) "システムのプロパティ" ダイアログから "詳細設定" タブを開き、"設定" ボタンをクリックします。

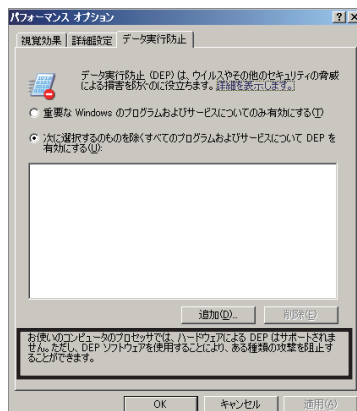
(3) "パフォーマンスのオプション" ダイアログから "データ実行防止" タブを選択します。



Note: Windows Server 2003 R2 SP2 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 では、DEP 機能の初期設定は全てのプログラムやサービスに対して有効となっています。

Windows XP、Windows Vista 及び Windows 7 の初期設定では重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効となっています。

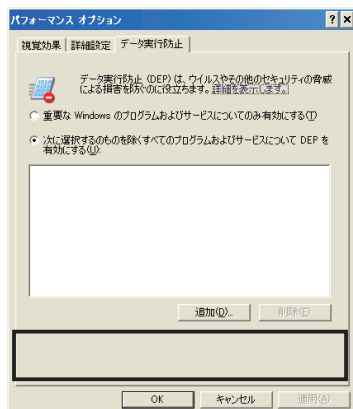
・ハードウェア DEP が有効でない場合



「ハードウェアによる DEP はサポートされません」と表示されます。

有効でない場合は、特に設定変更は必要ありません。

- ・ハードウェア DEP が有効な場合



Windows Server 2003 R2 SP2、Windows XP 及び Windows Vista では、左図のようにメッセージは表示されません。

Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 では、「ハードウェアベースの DEP をサポートしています」と表示されます。

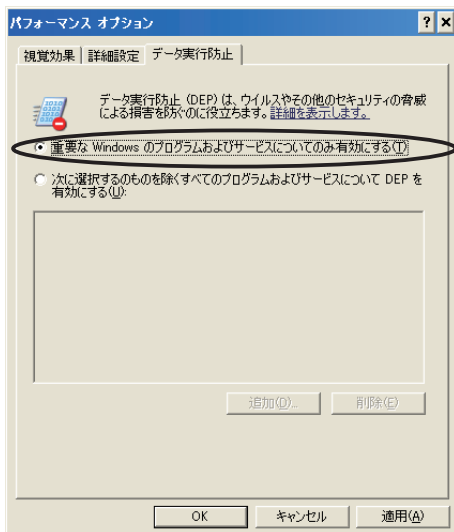
有効な場合は、「2.2.2 DW-Scan III Service
をハードウェア DEP 機能の監視対象外に
する」を参照し、引き続き設定を行ってく
ださい。

2.2.2 DW-Scan III Service をハードウェア DEP 機能の監視対象外にする

2.2.1 DEP 機能サポート状況の確認に引き続き、DW-Scan III Service を起動できるように設定を行います。設定方法は下記の 2 種類があります。

1. DEP 機能を Windows のプログラムまたはサービスにのみ有効にする
2. DW-Scan III Service を DEP 機能の例外として登録する

1. DEP 機能を Windows のプログラムまたはサービスにのみ有効にする

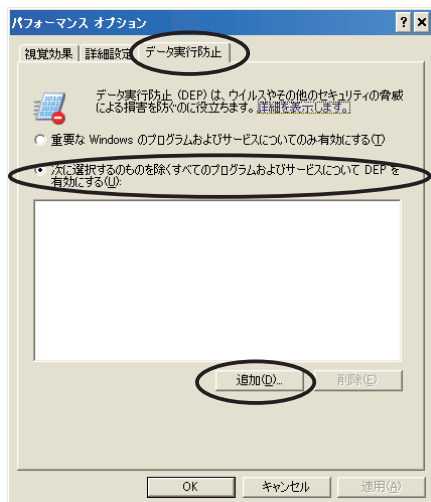


- (1) "パフォーマンスオプション" ダイアログの "データ実行防止" タブを開き、"重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効にする" へチェックをします。

Note: この設定は、Windows のプログラムおよびサービス以外は全て DEP 機能の対象外としますので、DW-Scan III Service も対象外になります。

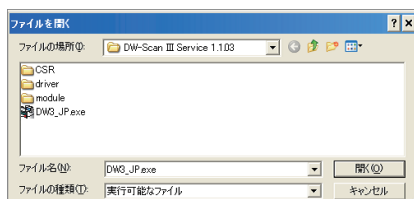
- (2) "OK" ボタンをクリックします。
PC の再起動が要求され、完了すると設定は有効になります。

2. DW-Scan III Service を DEP 機能の例外として登録する

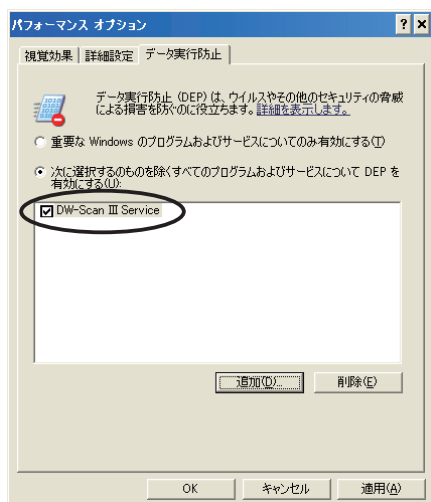


(1) "パフォーマンスオプション" ダイアログの "データ実行防止" タブを開き、"次を選択するものを除くすべてのプログラムおよびサービスについて DEP を有効にする" チェックをします。

(2) "追加" ボタンをクリックします。



(3) ファイルの選択画面が開きます。
DW-Scan III Service をインストールしたフォルダを開いて DW3_JP.EXE を選択し、"開く" ボタンをクリックします。

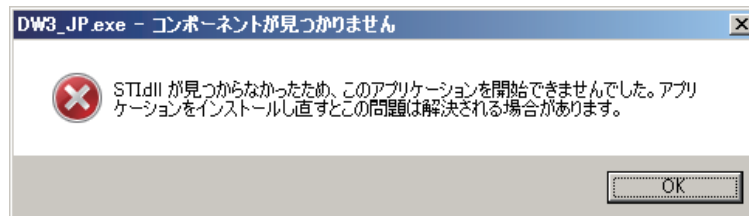


(4) リストに "DW-Scan III Service" が表示されていることを確認し、"OK" ボタンをクリックします。
PC の再起動が要求され、完了すると設定は有効になります。

以上で DEP 機能への対応は完了です。

2.3 Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 にデスクトップエクスペリエンス機能を追加する

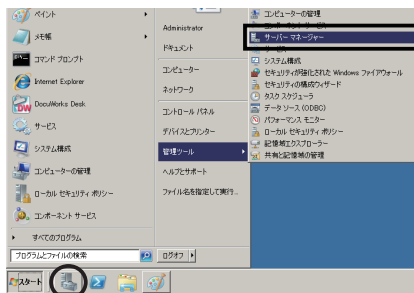
Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 の通常の設定では、DW-Scan III Service を起動したとき、下記のメッセージが表示され、プログラムが起動しません。



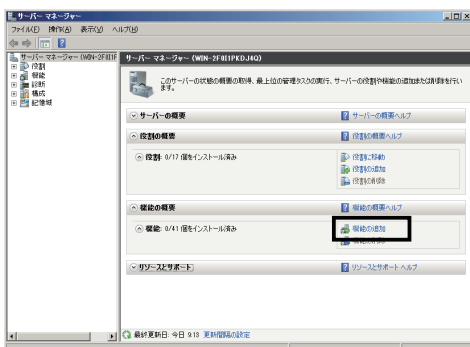
Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 では、DW-Scan III Service を実行するために、デスクトップエクスペリエンス機能の追加が必要です。本章では、Windows Server 2008 R2 を例に挙げて、手順を説明します。

※システム管理者 (Administrator) の権限を持っているユーザーでログインして行ってください。

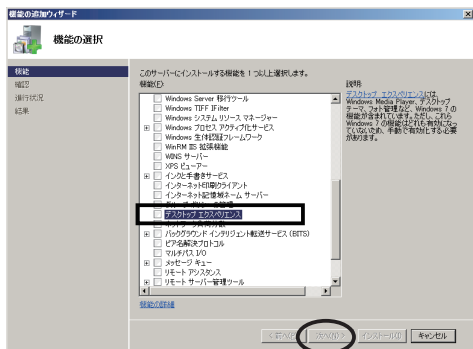
2.3.1 手順



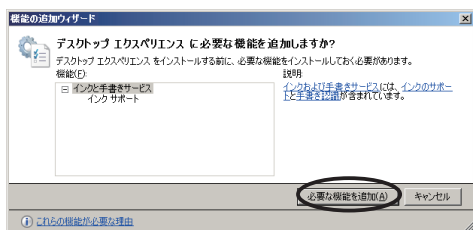
(1) スタートメニューから「管理ツール」－「サーバーマネージャー」を選択します。または、タスクバーの「サーバーマネージャー」アイコンをクリックします。



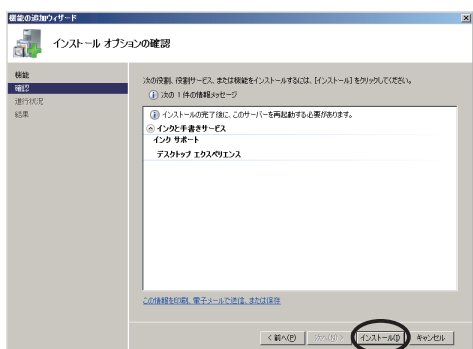
(2) サーバーマネージャーの「機能の追加」をクリックします。



- (3) 「機能の追加ウィザード」の機能の選択にて「デスクトップエクスペリエンス」にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。

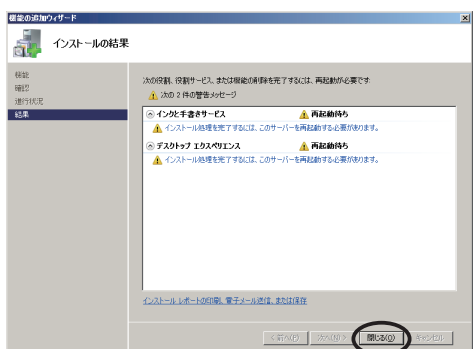


Note:Windows Server 2008 R2の場合、「デスクトップエクスペリエンス」と併せて、「インクと手書きサービス」－「インクサポート」の追加が必要です。「必要な機能を追加」ボタンをクリックします。

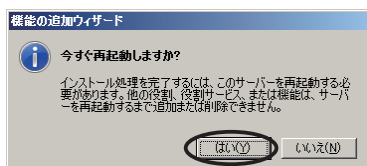


- (4) 「インストール」ボタンをクリックします。

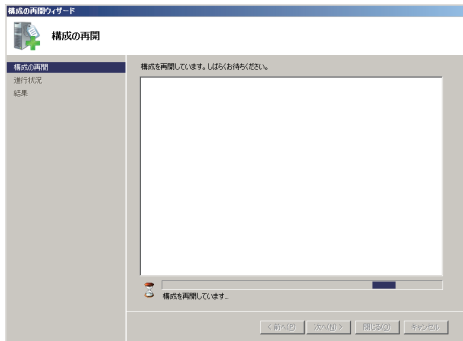
Note:Windows Server 2008 の場合、「インクと手書きサービス」－「インクサポート」は追加されません。



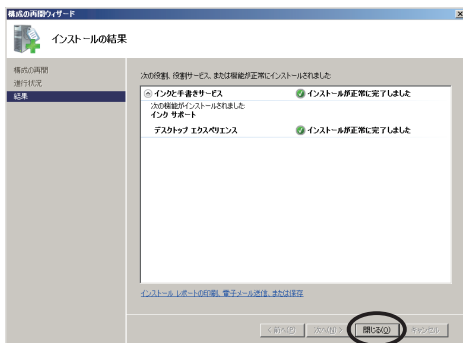
- (5) インストール中、再起動待ちになります。「閉じる」ボタンをクリックします。



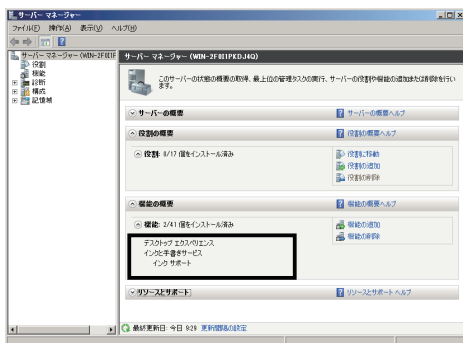
- (6) 「はい」ボタンをクリックし、再起動を行います。



(7) サーバーの再起動により、自動でインストールが再開します。



(8) 構成の再開後、インストールが完了します。「閉じる」ボタンをクリックします。



(9) 以上で、デスクトップエクスペリエンス機能がインストールされました。

第 3 章 操作方法

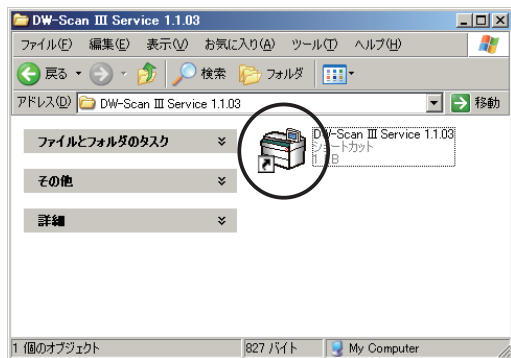
- 3.1 起動と終了
- 3.2 ウィンドウの説明
- 3.3 自動判定（定形サイズ）で読み取る
- 3.4 自動判定（シンクロ）で読み取る
- 3.5 特定サイズ指定で読み取る
- 3.6 任意サイズ指定で読み取る
- 3.7 設定ファイルの保存
- 3.8 保存した画像ファイルを表示する
- 3.9 保存した画像ファイルを編集する
- 3.10 画像ファイルのファイル名
- 3.11 ヘルプメニュー
- 3.12 LPR プリント
- 3.13 定形サイズ補正
- 3.14 ファイル名編集ツール
- 3.15 印刷

3.1 起動と終了

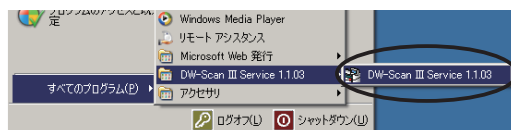
DW-Scan III Service の起動方法、終了方法について記述します。

"DocuScan C1500"/"DocuWide 6055"（以降スキャナ機器と略します）は使用可能な状態で、原稿読み取り開始までにパーソナルコンピュータと接続してください。

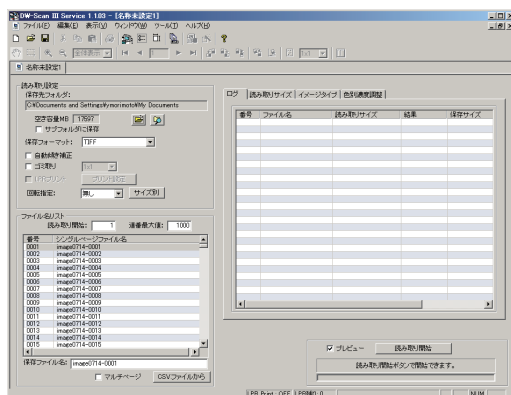
3.1.1 DW-Scan III Service の起動



- (1) ショートカットアイコン "DW-Scan III Service 1.1.03" をダブルクリックすると起動することができます。



- または、スタートメニューから "DW-Scan III Service 1.1.03" を選択することでも起動できます。

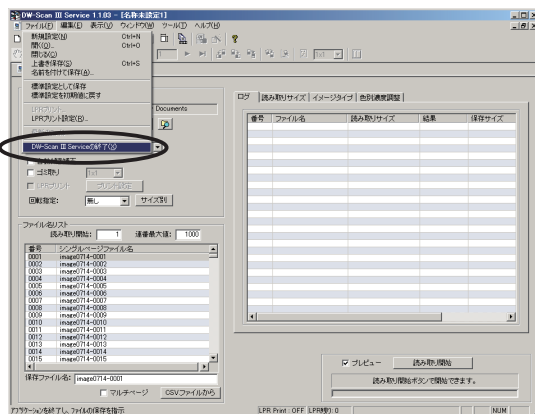


- (2) DW-Scan III Service が起動してウィンドウが表示されます。
スキャナ機器は使用可能な状態で、原稿読み取り開始までに接続してください。

注意：起動時に、以下のようなことが起こる場合は「2.2 データ実行防止機能 (DEP) への対応」を参照し、設定を行ってください。

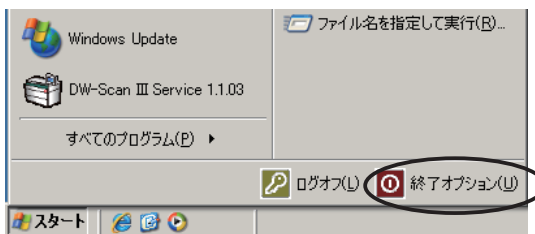
- ・起動時に "データ実行防止機能 (DEP)" に関するメッセージが表示される。
- ・起動直後にエラーが発生し、強制終了する。
- ・実行したにもかかわらず、アプリケーションが起動しない。

3.1.2 DW-Scan III Service の終了



- (1) ファイルメニューから、"DW-Scan III Service の終了" を選択します。DW-Scan III Service が終了したことを確認後、スキャナ機器の電源を切ってください。

Note: 読み取り中であれば、"読み取り中止" のボタンを押して読み取りを止めなければ、"DW-Scan III Service の終了" メニューが選択できません。



- (2) スタートメニューの "終了オプション" を選択して Windows の終了メニューを表示させます。

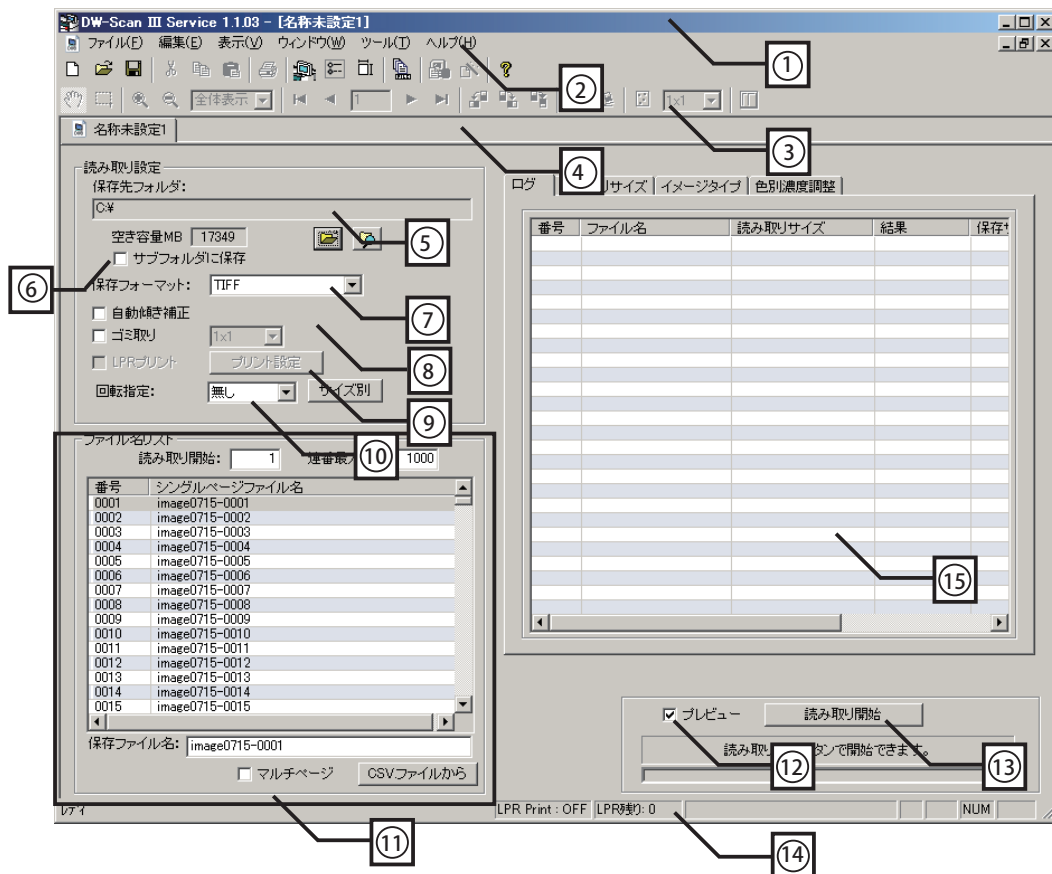


- (3) "電源を切る" ボタンをクリックし、パーソナルコンピュータを終了させます。

3.2 ウィンドウの説明

DW-Scan III Service のウィンドウの各部について記述します。

3.2.1 メインウィンドウ



- ① タイトル
アプリケーションのタイトルと開いている設定ファイルの名前が表示されます。
- ② メニューバー
アプリケーションへの各指示を行います。
- ③ ツールバー
クリックすることでメニューバーと同様の指示を行います。
- ④ 設定ウィンドウ
現在開いている設定ファイルの内容をグラフィックスで表示します。

- ⑤ 保存先フォルダ 読み取ったイメージを保存するフォルダを指定します。
-  保存先フォルダを指定します。
-  保存先フォルダをエクスプローラで表示します。
- ⑥ サブフォルダに保存 読み取り毎に、⑤の保存先に指定したフォルダの中に新たなフォルダを作成して、そこに読み取りイメージを保存します。作成されるフォルダの名前は、設定ファイル名 + " 月日時分秒 " の形式になります。
- ⑦ 保存フォーマット 保存するファイルの種類を TIFF、PDF、JPEG、XDW から指定します。
- ※ DocuWorks が設置されていない場合は TIFF/ PDF/JPEG の選択となり、XDW は表示されません。
 ※ JPEG 形式の場合、イメージタイプをグレイ多値または 24 ビットカラーにする必要があります。
 ※ グレイ多値、24 ビットカラー、JPEG 形式のファイルはマルチページで保存できません。
- ⑧ 画像処理
- 自動傾き補正 -- 傾いて読み込んだ読み取り画像をまっすぐに補正します。
- ゴミ取り -- 読み取り画像から粒状のゴミを除去します。
- ※自動傾き補正、ゴミ取りはイメージタイプが白黒 2 値または白黒擬似階調でなければ機能しません。
- ⑨ LPR プリント LPR プリントするかどうかを指定します。
 読み取りを行いながら LPR プリントを行う場合は、「3.12.2 読み取りながら LPR プリントを実行する」を参照してください。

⑩ 回転指定

原稿を回転して保存します。" サイズ別 " ボタンでサイズ毎に指定するダイアログが表示されます。



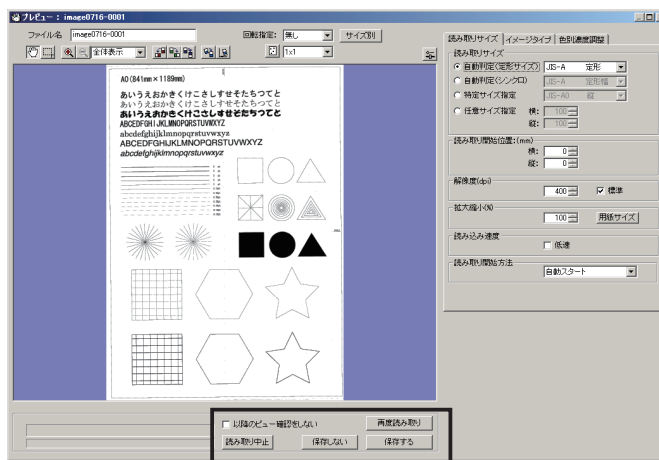
⑪ ファイル名リスト

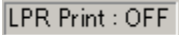
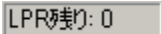
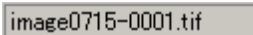
読み取り毎の保存ファイル名を指定します。シングルページで保存するか、マルチページで保存するか選択できます。ファイル名をCSVファイルから読み込む場合は CSV ファイルからのボタンをクリックします。

保存ファイル名指定の詳細については「3.10 画像ファイルのファイル名」を参照してください。

⑫ プレビューあり

イメージの読み取り後、保存する前に画像を表示して確認するかどうかを指定します。" プレビューあり " のチェック時には、ビューウィンドウの " 保存する "、" 保存しない "、" 読み取り中止 " のボタンで読み取った原稿を保存するかどうか指示できます。

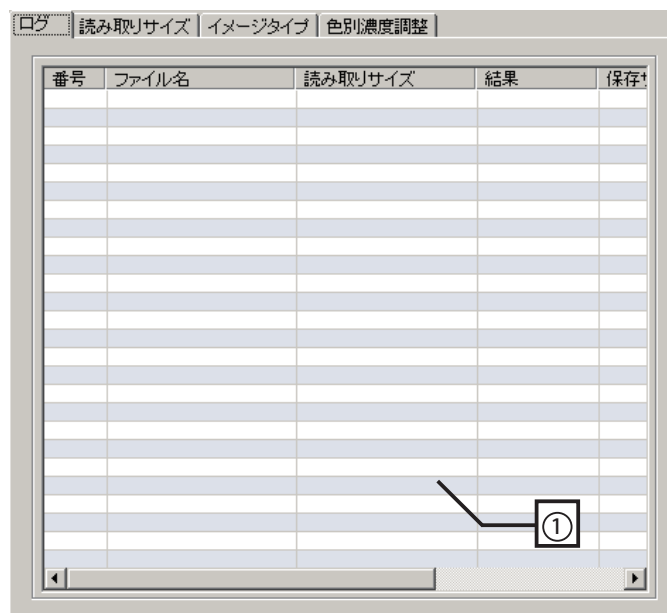


- ⑬ 読み取り開始 指定された設定で読み取りを開始します。
読み取り中は " 読み取り中止 " の表示になります。
- ⑭ LPR ステータス LPR プリントの各状態を表示します。
 LPR プリント設定の状態を示します。
 LPR プリントの残りページ数を示します。
 LPR プリント中のファイル名を表示します。
- ⑮ 詳細設定パネル 詳細設定を行います。
 タブをクリックすることで、"ログパネル"、"読み取りサイズパネル"、"イメージタイプパネル"、"色別濃度調整パネル" を切り替えることができます。
 詳細については 3.2.2 ～ 3.2.5 の詳細設定パネルについての説明を参照してください。

注意

- ・読み取り開始できない時について
 スキャナ機器が次のような場合は読み取り開始することができません。
 - (1) コピーで使用中。
 - (2) エラー発生状態のとき。
 - (3) 立ち上げ起動中。
 - (4) USB ケーブルで接続していないとき。
 - (5) 原稿がセットされたまま、または詰まったまま。
 - (6) TWAIN で使用しているとき。
 - (7) スタンプ転送ツールがスキャナ機器に接続しているとき。

3.2.2 詳細設定パネル (ログパネル)



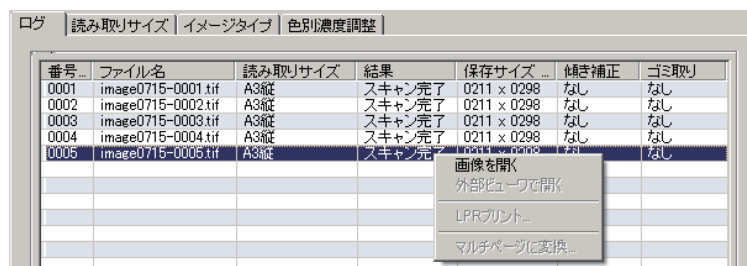
① ログ

読み取りの結果が表示されていきます。
表示される結果は番号、ファイル名、読み取りサイズ、結果、保存サイズ、傾き補正、ゴミ取りの情報が表示されます。

Note: 正常に読み取りが終了したログのリストをダブルクリックすると画像イメージを表示することができます。

SHIFT キーを押しながらダブルクリックすると、環境設定で指定した外部ビューワによって画像イメージが表示されます。

これらの操作は、ログリスト上の開きたいファイルを右クリックすることでも可能です。



3.2.3 詳細設定パネル (読み取りサイズパネル)

- ① 読み取りサイズ 自動判定 (定形サイズ) ・自動判定 (シンクロ) ・特定サイズ指定 ・任意サイズ指定から選択します。

自動判定 (定形サイズ) ・自動判定 (シンクロ) ではサイズ系列を以下から選択します。

JIS-A ・ JIS-B ・ ISO-B ・ 特 A880mm ・ 特 A870mm ・ 特 860mm ・ ANSI ・ Arch ・ Arch30

特定サイズ指定 ・ 任意サイズ指定のときは、読み込まれた原稿は全て指定したサイズで保存されます。

自動判定 (シンクロ) の場合、幅はスキャナ機器が判定した定形幅になり、長さは原稿自体の長さとなりますが、読み取り可能な最大長を超えた部分はカットされます。

任意サイズ指定時は以下の寸法指定が可能です。

縦 100 ～ 15000mm まで

横 100 ～ 914mm まで

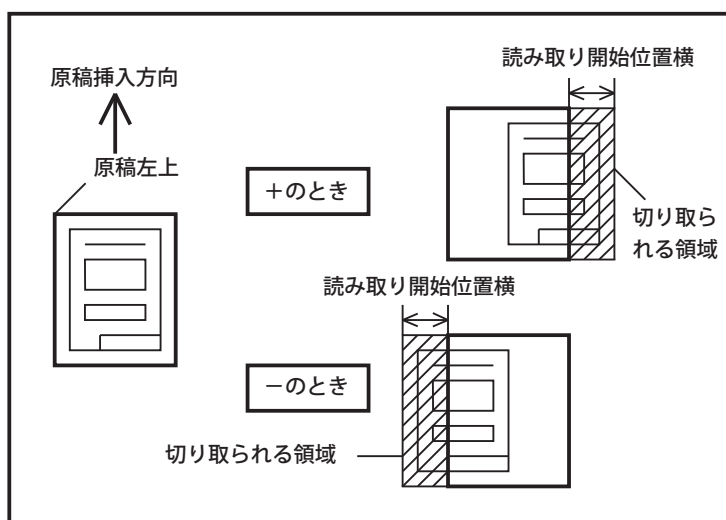
Note: 任意サイズ指定可能な縦の長さは画素数により制限されます。
詳しくは、「5.1.1 最大読み取り長について」を参照してください。

- ② 読み取り開始位置 原稿を読み取る際の、原稿左上角からの読み取り開始位置を指定します。指定可能な範囲は以下の通りです。

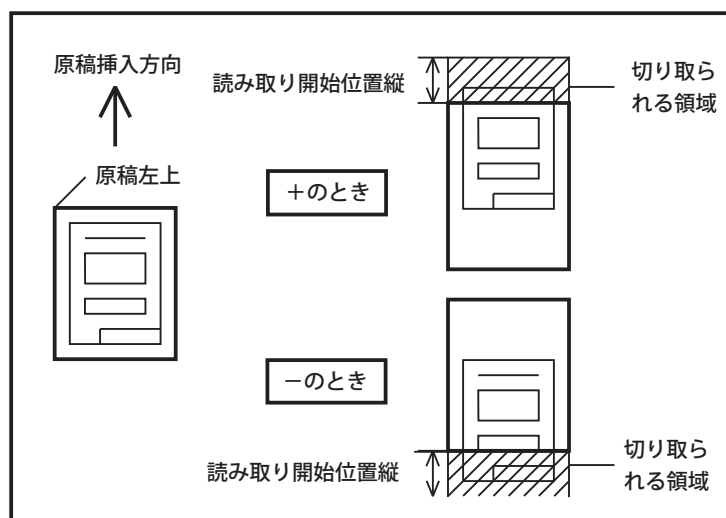
縦：－ 999 から＋ 999mm まで

横：－ 500 から＋ 500mm まで

横の値を設定する場合



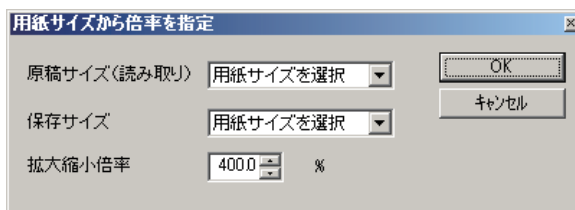
縦の値を設定する場合



- ③解像度 (dpi) 100 ～ 600dpi までの解像度を指定します。
1dpi 単位での指定が有効です。
" 標準 " チェックボックスにチェックを入れると、標準値 (400dpi) に戻すことができます。
- ④拡大縮小 (%) ①の読み取りサイズで指定されたサイズを拡大縮小して保存します。
指定可能な範囲は 25.0 ～ 400.0% です。" 用紙サイズ " ボタンをクリックすると、用紙サイズで指定できるダイアログが開きます。

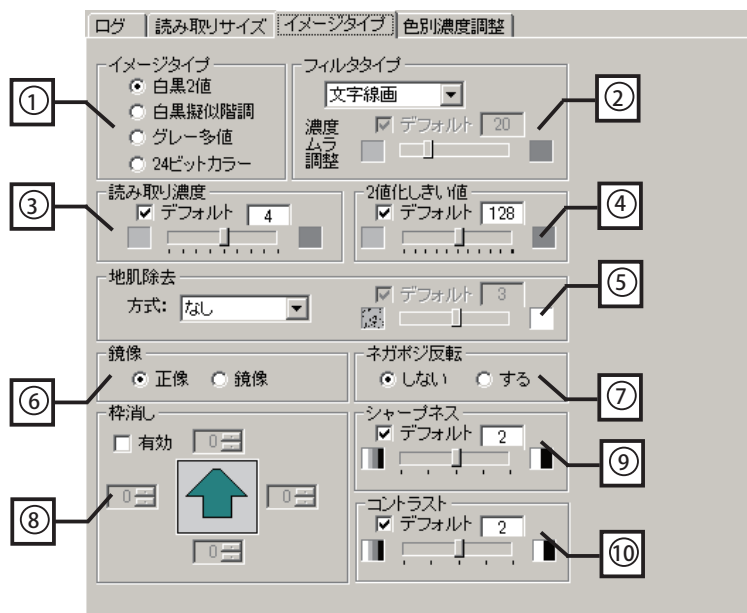
※解像度や読み取りサイズ指定によって、指定できる拡大縮小率が変わります。

※ 25.0 ～ 400.0% の範囲外となるために、指定できない用紙サイズの組み合わせがあります。



- ⑤読み込み速度 原稿の読み取り速度を遅くします。
痛みやすい原稿の読み取りのときに使用します。
- ⑥読み取り開始方法 原稿挿入してからの読み取り方法を指定します。
- 本体の設定に依存
スキャナ機器の本体設定で読み取りを開始します。
 - 自動スタート
原稿挿入するとすぐに読み取りを開始します。
 - マニュアルスタート
原稿を挿入してから、スキャナのスタートボタンで読み取りを開始します。

3.2.4 詳細設定パネル (イメージタイプパネル)



① イメージタイプ

読み込む原稿の種類にあわせて指定します。
選択できるイメージタイプは " 白黒 2 値 "、
" 白黒擬似階調 "、" グレー多値 "、" 24 ビットカ
ラー " の 4 つです。

② フィルタタイプ

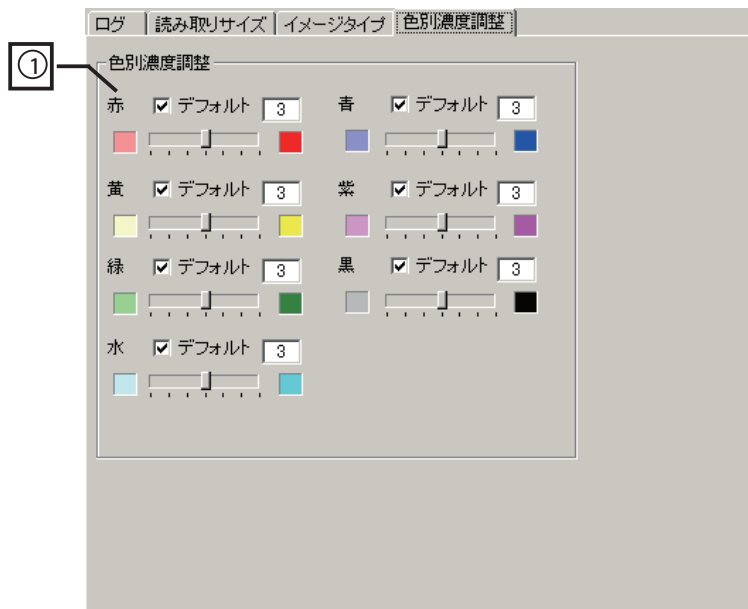
読み込む原稿の種類にあわせてフィルタの方式
を指定します。イメージタイプごとに選択でき
るフィルタタイプが異なります。イメージタイ
プにより、指定可能なフィルタタイプは以下の
表のように変わります。

	白黒 2 値	白黒擬似階調	グレイ多値	24 ビットカラー
文字線画	○	○	○	×
文字写真	○	○	○	○
印刷写真	×	○	○	○
印画紙写真	×	○	○	○
青焼き原稿	○	○	○	×
濃度ムラ原稿	○	○	○	×
透過原稿	○	○	○	×

Note: 濃度ムラ原稿のときは濃度ムラを調整できます。調整範囲は 80
段階です。スライダーの刻みが段階の境を表します。

- ③ 読み取り濃度 読み取り時の全体的な濃度を指定します。
調整範囲は 9 段階です。スライドバーの刻みが段階の境を表します。
- ④ 2 値化しきい値 イメージタイプが "白黒 2 値" のときに有効です。
2 値化するときのしきい値を指定します。
イメージタイプが "白黒擬似階調"、"グレー多値"、"24 ビットカラー" のときは指定できません。
調整範囲は 255 段階です。スライドバーの刻みが段階の境を表します。
- ⑤ 地肌除去 黄ばんだ原稿などの地色を除去する方式を指定します。
- 自動・・・地肌の濃度が均一な場合
手動・・・地肌の濃度むらがある場合
- 調整範囲は自動のとき 7 段階、手動のとき 39 段階です。スライドバーの刻みが段階の境を表します。フィルタタイプが、"印刷写真"または"印画紙写真"のときは、地肌除去 自動を指定できません。
- ⑥ 鏡像 読み取り原稿を鏡像で読み取ります。
任意サイズの場合は、鏡像は指定できません。
- ⑦ ネガポジ反転 読み取ったイメージの白黒を反転して保存します。
- ⑧ 枠消し 読み取り原稿の上下左右端を消します。調整範囲は 0 ～ 50mm です。
- ⑨ シャープネス 原稿の輪郭線の鮮明度を指定します。
調整範囲は 5 段階です。スライドバーの刻みが段階の境を表します。
- ⑩ コントラスト 原稿の明暗の差を調整します。調整範囲は 5 段階です。スライドバーの刻みが段階の境を表します。

3.2.5 詳細設定パネル (色別濃度調整パネル)



① 色別濃度指定

イメージタイプが 24 ビットカラーのとき：
それぞれの色の濃度を調整します。

イメージタイプが 24 ビットカラー以外のとき：
白黒またはグレイ多値に変換するときにその色
を強めたり、弱めたりします。

調整範囲は 7 段階です。スライドバーの刻みが
段階の境を表します。

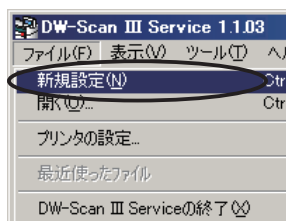
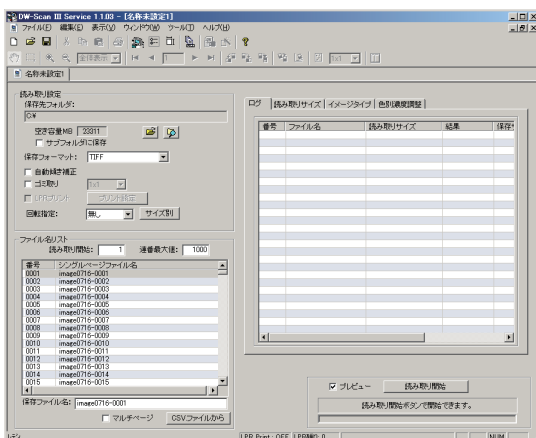
3.3 自動判定（定形サイズ）で読み取る

自動判定（定形サイズ）で読み取る操作方法について記述します。
読み取る原稿が各種系列（JIS-A・JIS-B・ISO-B・特 A880mm・特 A870mm・特 860mm・ANSI・Arch・Arch30）の定形の場合に使用します。

3.3.1 手順

- (1) DW-Scan III Service を起動すると、自動的に新規読み取り設定ウィンドウが開きます。

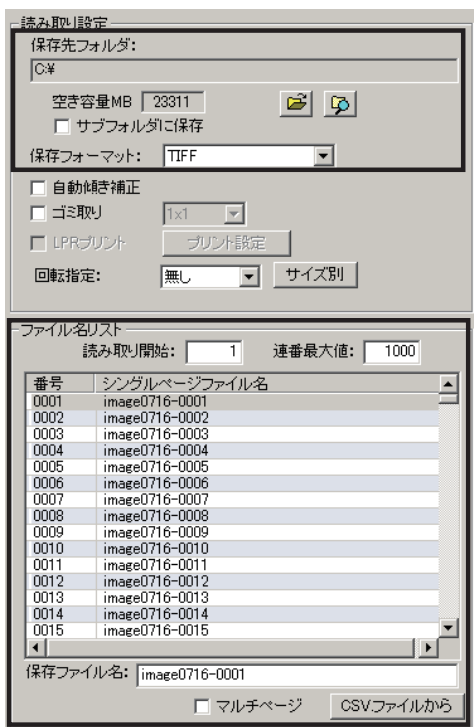
Note: 既に DW-Scan III Service を起動しているときは、ファイルメニューから新規作成を選択して新規設定ウィンドウを開きます。

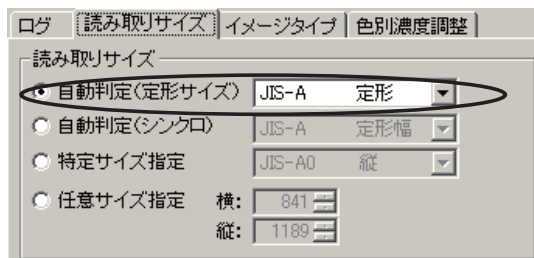


- (2) 保存するファイル名やフォルダを必要に応じて指定します。

Note: ファイル名は新規設定ウィンドウを作成したときに、以下のような名前を自動的に生成します。

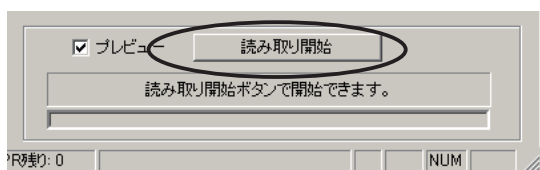
imageXXYY-0001.tif
XX, YY は月日





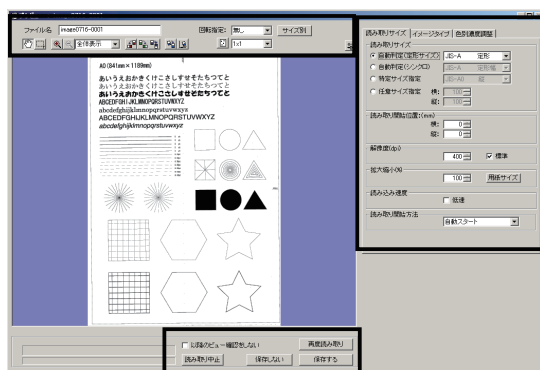
(3) 詳細設定パネルのタブをクリックして読み取りサイズパネルを表示させます。

(4) 自動判定（定形サイズ）をクリックします。必要に応じて読み取りする原稿の系列を選択します。



(5) イメージの読み取り後、保存する前に画像を表示して確認したい場合は、"プレビュー"をチェックしてください。(6)、(7)の手順は"プレビュー"がチェックされている場合の説明となります。

読み取り開始ボタンをクリックしてから、スキャナ機器に原稿を読み込ませます。



(6) 読み取り中のインジケータが表示された後、読み取った原稿のプレビューが表示されます。

Note: プレビュー中は以下の操作が行えます。

ファイル名変更・傾き補正・ゴミ取り・回転・コピー・切り取り・削除・貼り付け

Note: 詳細設定パネルの設定を変更することで、再読み取り、または次回読み込みの際に設定が反映されます。これは 3.2.3 ~ 3.2.5 で説明している 詳細設定パネルと同様の機能です。色別濃度調整パネルの設定については、24 ビットカラーで読み取りを行った場合を除いて、次回読み取り時からのみ有効になります。

- (7) 読み取りの指示を行います。
- " 保存する "-- 読み取った原稿を保存して次の読み取りを開始します。
- " 保存しない "-- 読み取りの保存をキャンセルします。
(ファイル名番号は次に進みます)
- " 再度読み取り "-- 詳細設定の内容を変更して再読み取りができます。
(ファイル名番号は進みません)
- " 読み取り中止 "-- 読み取りを中止します。

Note: 以降のビュー確認をしないを選ぶと、ビュー確認無しで読み取りを行います。



番号	ファイル名	読み取りサイズ	結果	保存サイズ
0001	image0716-0001.tif	10000 x 10000	スキャン完了	100112 x 100112

- (8) 設定ファイル画面のログに結果が表示されます。

Note: 読み取りを終了した後、このログのリストをダブルクリックすると、読み取ったイメージを表示することができます。ウィンドウタイトルに表示される寸法は読み取りで指定した解像度換算での値です。

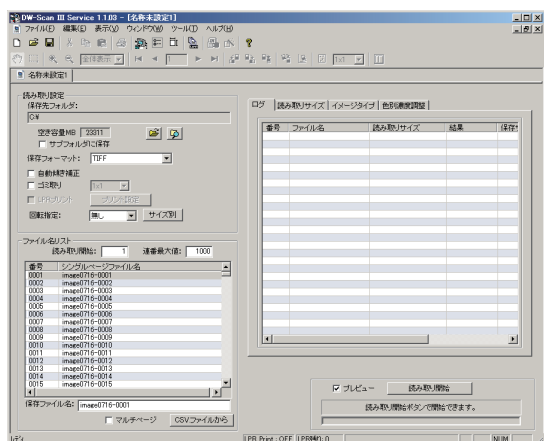
- (9) 読み取る原稿がまだある場合は、スキャナ機器に次の原稿を読み込ませます。
もう無い場合は、読み取り中止ボタンをクリックして、終了させます。
- (10) この様にして、1000 枚（最大 9999 枚まで変更可能）まで連続して読み取らせながら保存する作業を続けることができます。
- (11) お使いのコンピュータのハードディスクの空き容量が許す限り先に連続して読み取らせておくことができます。ハードディスクの空き容量は、保存先フォルダの欄に表示されています。

3.4 自動判定（シンクロ）で読み取る

自動判定（シンクロ）で読み取る操作方法について記述します。

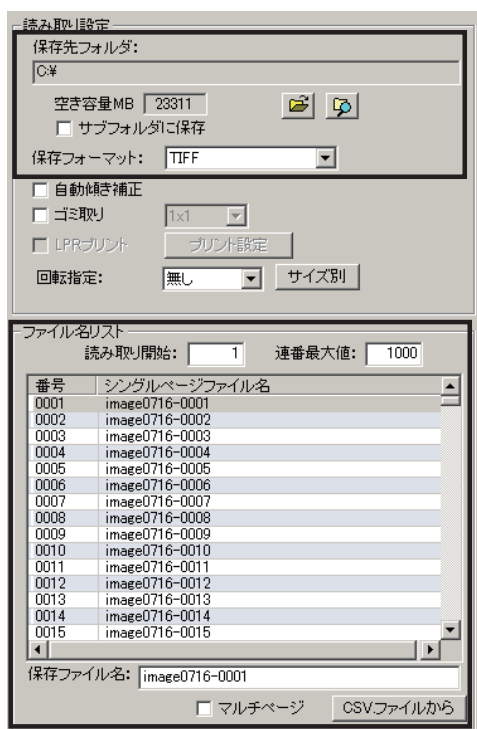
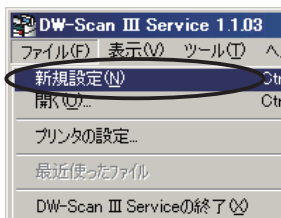
原稿が各種系列（JIS-A・JIS-B・ISO-B・特 A880mm・特 A870mm・特 860mm・ANSI・Arch・Arch30）の定形幅で、長さが任意のときに使用します。

3.4.1 手順



(1) DW-Scan III Service を起動すると、自動的に新規読み取り設定ウィンドウが開きます。

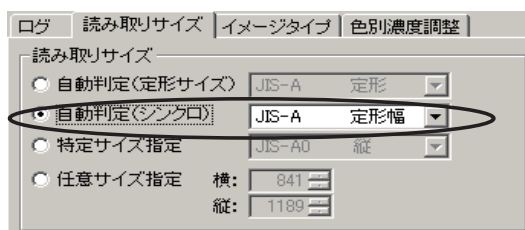
Note: 既に DW-Scan III Service を起動しているときは、ファイルメニューから新規作成を選択して新規設定ウィンドウを開きます。



(2) 保存するファイル名やフォルダを必要に応じて指定します。

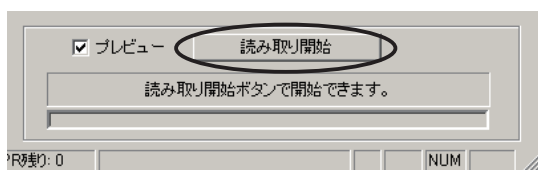
Note: ファイル名は新規設定ウィンドウを作成したときに、以下のような名前を自動的に生成します。

imageXXYY-0001.tif
XX、YY は月日



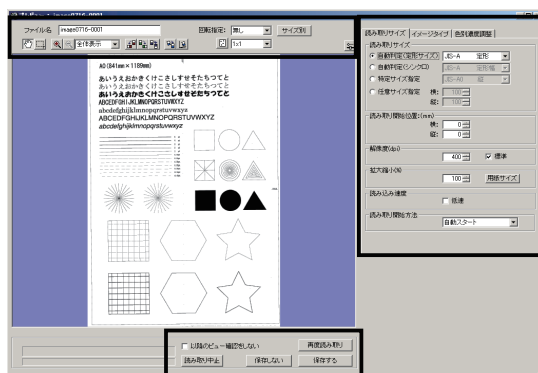
(3) 詳細設定パネルのタブをクリックして読み取りサイズパネルを表示させます。

(4) 自動判定（シンクロ）をクリックします。必要に応じて読み取りする原稿の系列を選択します。



(5) イメージの読み取り後、保存する前に画像を表示して確認したい場合は、"プレビュー"をチェックしてください。

(6)、(7) の手順は "プレビュー" がチェックされている場合の説明となります。読み取り開始ボタンをクリックしてから、スキャナ機器に原稿を読み込ませます。



(6) 読み取り中のインジケータが表示された後、読み取った原稿のプレビューが表示されます。

Note: プレビュー中には以下の操作が行えます。

ファイル名変更・傾き補正・ゴミ取り・回転・コピー・切り取り・削除・貼り付け

Note: 詳細設定パネルの設定を変更することで、再読み取り、または次回読み込みの際に設定が反映されます。これは 3.2.3 ～ 3.2.5 で説明している 詳細設定パネルと同様の機能です。色別濃度調整パネルの設定については、24 ビットカラーで読み取りを行った場合を除いて、次回読み取り時からのみ有効になります。

(7) 読み取りの指示を行います。

" 保存する "-- 読み取った原稿を保存して次の読み取りを開始します。

" 保存しない "-- 読み取りの保存をキャンセルします。

(ファイル名番号は次に進みます)

" 再度読み取り "-- 詳細設定の内容を変更して再読み取りができます。

(ファイル名番号は進みません)

" 読み取り中止 "-- 読み取りを中止します。

Note: 以降のビュー確認をしないを選ぶと、ビュー確認無しで読み取りを行います。

番号	ファイル名	読み取りサイズ	結果	保存サイズ
0001	image0716-0001.tif	0000 x 0000	スキャン完了	0211 x 0211

(8) 設定ファイル画面のログに結果が表示されます。

Note: 読み取りを終了した後、このログのリストをダブルクリックすると、読み取ったイメージを表示することができます。ウィンドウタイトルに表示される寸法は読み取りで指定した解像度換算での値です。

(9) 読み取る原稿がまだある場合は、スキャナ機器に次の原稿を読み込ませます。もう無い場合は、読み取り中止ボタンをクリックして、終了させます。

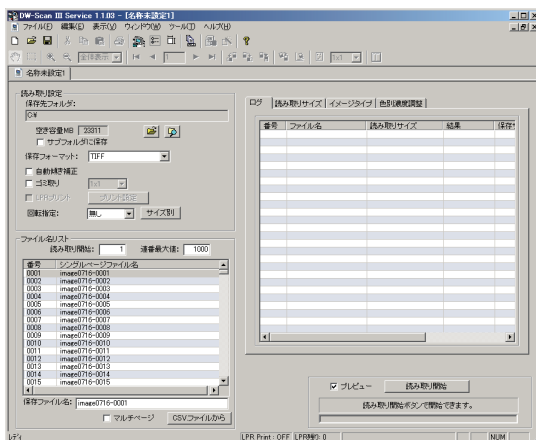
(10) この様にして、1000 枚（最大 9999 枚まで変更可能）まで連続して読み取らせながら保存する作業を続けることができます。

Note: 自動判定（シンクロ）で読み取り可能な縦の長さは画素数により制限されます。長さは原稿自体の長さとなりますが、読み取り可能な最大長を超えた部分はカットされます。
詳しくは、「5.1.1 最大読み取り長について」を参照してください。

3.5 特定サイズ指定で読み取る

特定サイズ指定で読み取る操作方法について記述します。
特定のサイズで読み取りするときには使用します。

3.5.1 手順

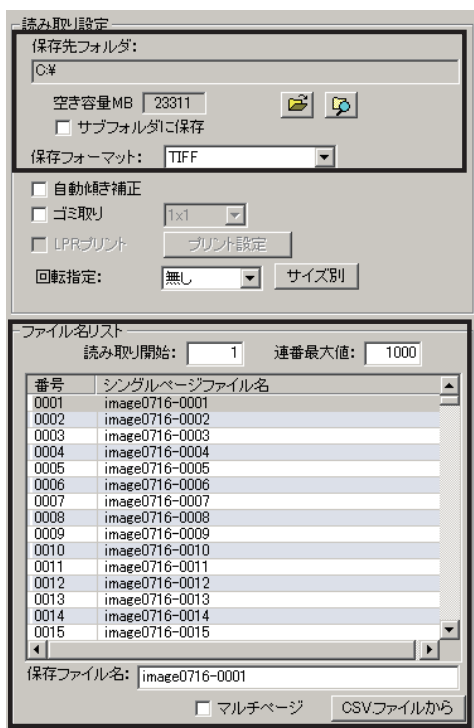


(1) DW-Scan III Service を起動すると、自動的に新規読み取り設定ウィンドウが開きます。

Note: 既に DW-Scan III Service を起動しているときは、ファイルメニューから新規作成を選択して新規設定ウィンドウを開きます。

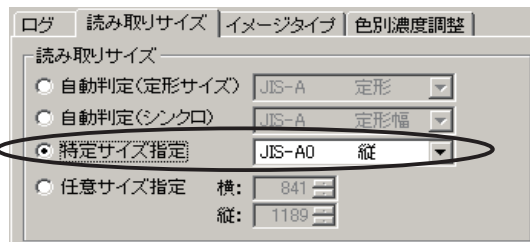


(2) 保存するファイル名やフォルダを必要に応じて指定します。



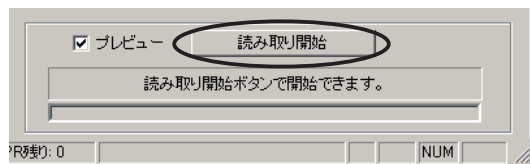
Note: ファイル名は新規設定ウィンドウを作成したときに、以下のような名前を自動的に生成します。

imageXXYY-0001.tif
XX, YY は月日



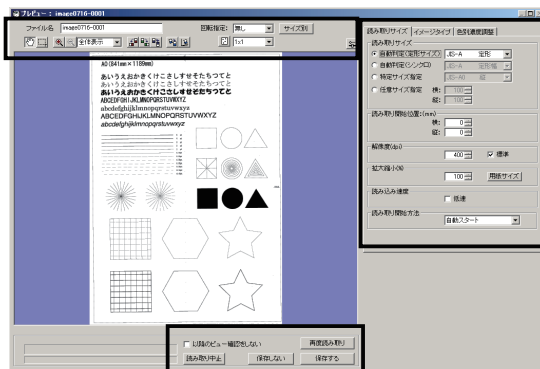
(3) 詳細設定パネルのタブをクリックして読み取りサイズパネルを表示させます。

(4) 特定サイズ指定をクリックして、読み取るサイズを指定します。



(5) イメージの読み取り後、保存する前に画像を表示して確認したい場合は、"プレビュー"をチェックしてください。

(6)、(7)の手順は"プレビュー"がチェックされている場合の説明となります。読み取り開始ボタンをクリックしてから、スキャナ機器に原稿を読み込ませます。



(6) 読み取り中のインジケータが表示された後、読み取った原稿のプレビューが表示されます。

Note: プレビュー中には以下の操作が行えます。

ファイル名変更・傾き補正・ゴミ取り・回転・コピー・切り取り・削除・貼り付け

Note: 詳細設定パネルの設定を変更することで、再読み取り、または次回読み込みの際に設定が反映されます。これは 3.2.3 ~ 3.2.5 で説明している 詳細設定パネルと同様の機能です。色別濃度調整パネルの設定については、24 ビットカラーで読み取りを行った場合を除いて、次回読み取り時からのみ有効になります。

- (7) 読み取りの指示を行います。
- " 保存する "-- 読み取った原稿を保存して次の読み取りを開始します。
- " 保存しない "-- 読み取りの保存をキャンセルします。
(ファイル名番号は次に進みます)
- " 再度読み取り "-- 詳細設定の内容を変更して再読み取りができます。
(ファイル名番号は進みません)
- " 読み取り中止 "-- 読み取りを中止します。

Note: 以降のビュー確認をしないを選ぶと、ビュー確認無しで読み取りを行います。



番号	ファイル名	読み取りサイズ	結果	保存サイズ
0001	image0716-0001.tif	0000 x 0000	スキャン完了	0211 x 0211

- (8) 設定ファイル画面のログに結果が表示されます。

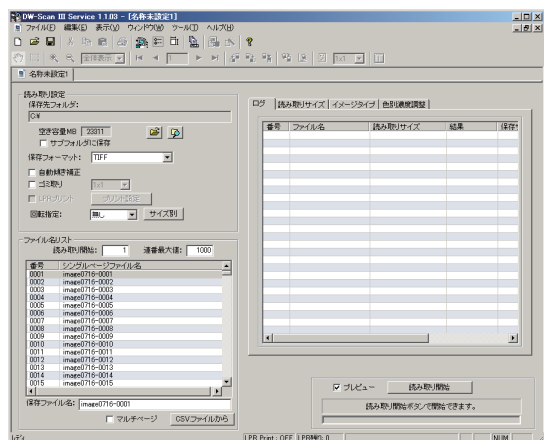
Note: 読み取りを終了した後、このログのリストをダブルクリックすると、読み取ったイメージを表示することができます。ウィンドウタイトルに表示される寸法は読み取りで指定した解像度換算での値です。

- (9) 読み取る原稿がまだある場合は、スキャナ機器に次の原稿を読み込ませます。もう無い場合は、読み取り中止ボタンをクリックして、終了させます。
- (10) この様にして、1000 枚（最大 9999 枚まで変更可能）まで連続して読み取らせながら保存する作業を続けることができます。

3.6 任意サイズ指定で読み取る

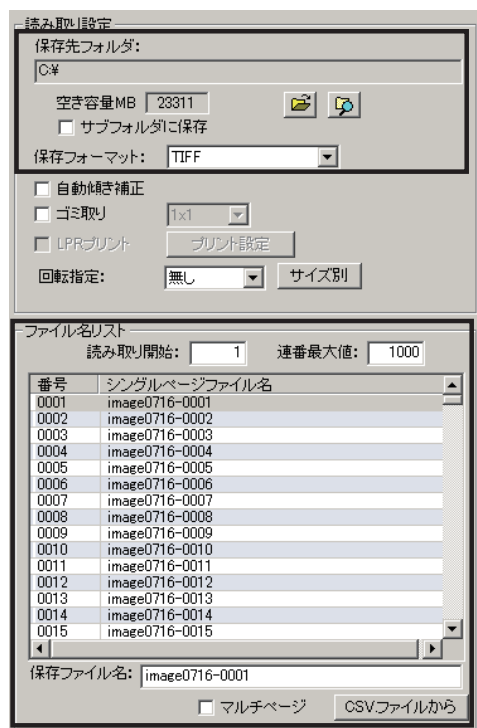
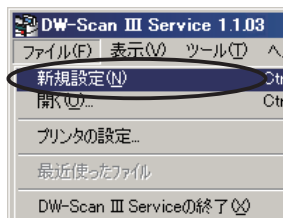
任意サイズ指定で読み取る操作方法について記述します。
 任意のサイズで読み取りするときに使用します。

3.6.1 手順



(1) DW-Scan III Service を起動すると、自動的に新規読み取り設定ウィンドウが開きます。

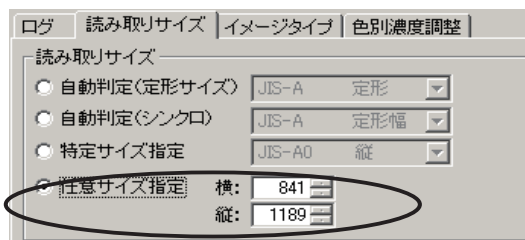
Note: 既に DW-Scan III Service を起動しているときは、ファイルメニューから新規作成を選択して新規設定ウィンドウを開きます。



(2) 保存するファイル名やフォルダを必要に応じて指定します。

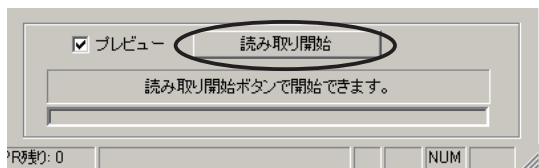
Note: ファイル名は新規設定ウィンドウを作成したときに、以下のような名前を自動的に生成します。

imageXXYY-0001.tif
 XX、YY は月日



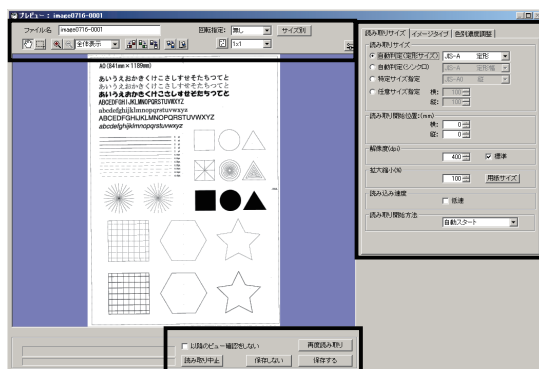
(3) 詳細設定パネルのタブをクリックして読み取りサイズパネルを表示させます。

(4) 任意サイズ指定をクリックして、読み取るサイズ（縦・横）を指定します。



(5) イメージの読み取り後、保存する前に画像を表示して確認したい場合は、"プレビュー"をチェックしてください。

(6)、(7) の手順は "プレビュー" がチェックされている場合の説明となります。読み取り開始ボタンをクリックしてから、スキャナ機器に原稿を読み込ませます。



(6) 読み取り中のインジケータが表示された後、読み取った原稿のプレビューが表示されます。

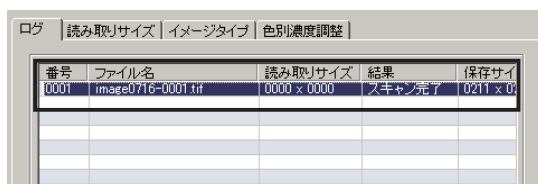
Note: プレビュー中には以下の操作が行えます。

ファイル名変更・傾き補正・ゴミ取り・回転・コピー・切り取り・削除・貼り付け

Note: 詳細設定パネルの設定を変更することで、再読み取り、または次回読み込みの際に設定が反映されます。これは 3.2.3 ~ 3.2.5 で説明している 詳細設定パネルと同様の機能です。色別濃度調整パネルの設定については、24 ビットカラーで読み取りを行った場合を除いて、次回読み取り時からのみ有効になります。

- (7) 読み取りの指示を行います。
- " 保存する "-- 読み取った原稿を保存して次の読み取りを開始します。
 - " 保存しない "-- 読み取りの保存をキャンセルします。
(ファイル名番号は次に進みます)
 - " 再度読み取り "-- 詳細設定の内容を変更して再読み取りができます。
(ファイル名番号は進みません)
 - " 読み取り中止 "-- 読み取りを中止します。

Note: 以降のビュー確認をしないを選ぶと、ビュー確認無しで読み取りを行います。



番号	ファイル名	読み取りサイズ	結果	保存サイズ
0001	image0716-0001.tif	0000 x 0000	スキャン完了	0211 x 0211

- (8) 設定ファイル画面のログに結果が表示されます。

Note: 読み取りを終了した後、このログのリストをダブルクリックすると、読み取ったイメージを表示することができます。ウィンドウタイトルに表示される寸法は読み取りで指定した解像度換算での値です。

- (9) 読み取る原稿がまだある場合は、スキャナ機器に次の原稿を読み込ませます。もう無い場合は、読み取り中止ボタンをクリックして、終了させます。
- (10) この様にして、1000 枚（最大 9999 枚まで変更可能）まで連続して読み取らせながら保存する作業を続けることができます。

Note: 任意サイズ指定で指定可能な縦の長さは画素数により制限されます。

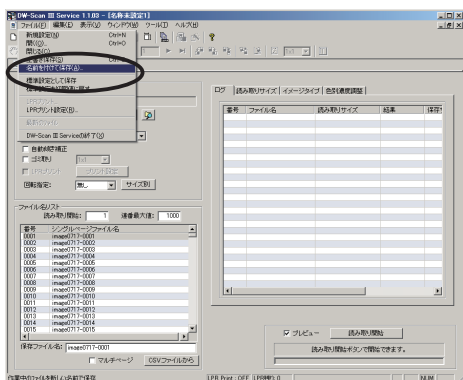
詳しくは、「5.1.1 最大読み取り長について」を参照してください。

3.7 設定ファイルの保存

読み取りで使用した設定をファイルとして保存することで、次回読み取り時に再利用することができます。

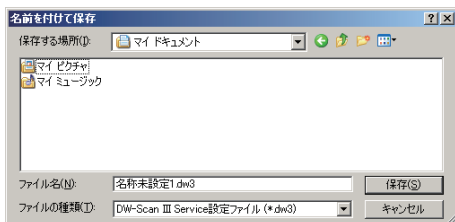
設定ファイルの保存方法について記述します。

3.7.1 手順



(1) ファイルメニューから名前を付けて保存を選択します。

Note: 一度保存した設定ファイルは上書き保存でも保存できます。上書き保存はツールバーの保存ボタンでも同様に行えます。

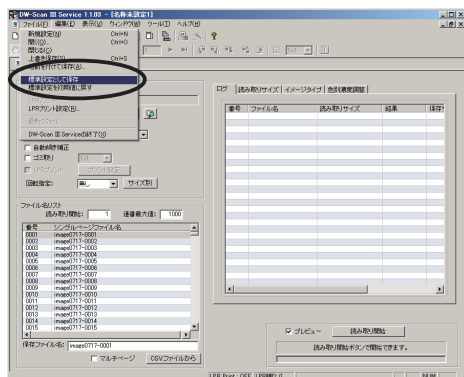


(2) 保存するダイアログが表示されます。

(3) 保存するフォルダ、ファイル名を指定して保存を行います。

(4) 保存した設定ファイルのアイコンをダブルクリックするか、ファイルメニューの開くを選択して、設定を呼び出すことができます。

3.7.2 標準設定として保存

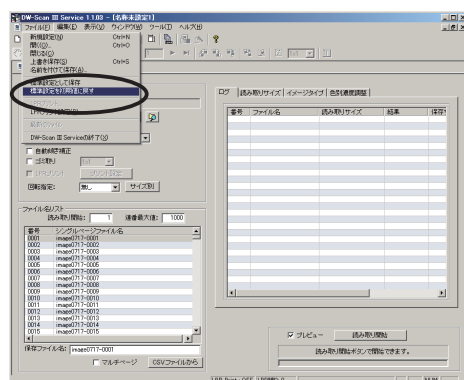


(1) 標準設定に適用したい読み取り設定を開きます。または新規設定を開いて、標準設定として設定を行います。

(2) ファイルメニューから“標準設定として保存”を選択します。

Note: ファイル名リストは、標準設定として保存されません。
保存ファイル形式は、環境設定の保存ファイル形式が適用されます。

3.7.3 標準設定を初期値に戻す



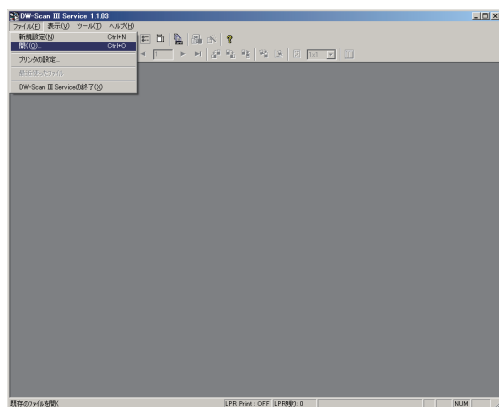
(1) ファイルメニューから“標準設定を初期値に戻す”を選択します。

Note: 標準設定を初期値に戻すと、次回新規設定を作成したときは、出荷時の設定が適用されます。

3.8 保存した画像ファイルを表示する

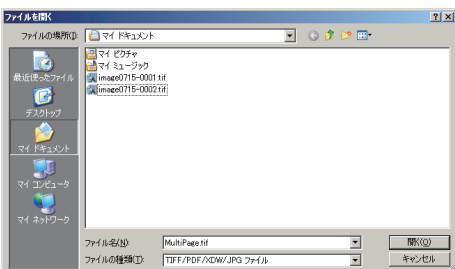
保存した画像ファイルの表示方法について記述します。

3.8.1 手順



- (1) ファイルメニューから開くを選択します。

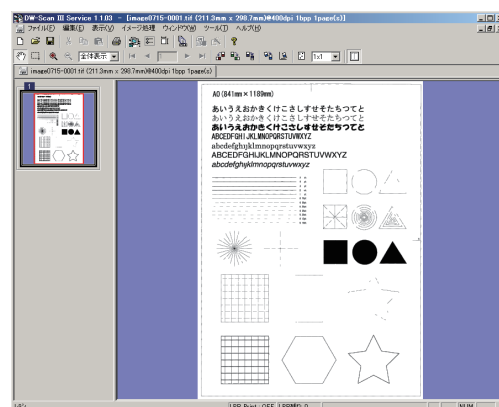
Note: ツールバーの開くボタンでも同様の操作ができます。



- (2) ファイルの種類から TIFF/PDF/XDW/JPEG ファイルを選択します。

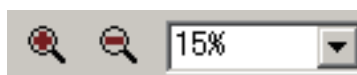
- (3) 開きたい画像ファイルを選択して、"開く" ボタンをクリックします。

- (4) 画像ファイルがウィンドウ内に表示されます。



Note: エクスプローラで画像ファイルをダブルクリックしたり、DW-Scan III Service のウィンドウにドラッグ&ドロップすることでも同様の操作ができます。

- (5) ツールバーの表示倍率を変えることで画像を拡大縮小して表示することができます。(1 ~ 100%)



Note: 指定された倍率が、全体表示より小さくなる場合は全体表示になります。



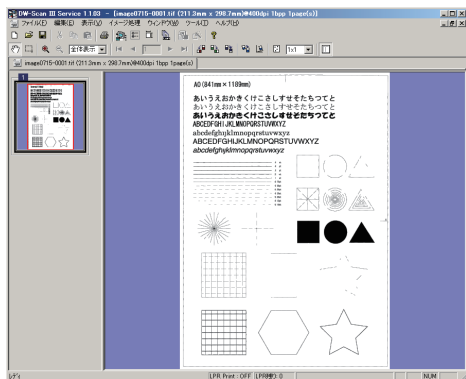
- (6) ツールバーのサムネイル表示切り替えアイコンをクリックすることでサムネイル画像の表示・非表示を切り替えることができます。

3.9 保存した画像ファイルを編集する

保存した画像ファイルにページを追加 / 削除する方法や画像処理の方法について記述します。

3.9.1 ページの追加

画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
「3.11.3 環境設定 (編集初期設定)」を参照してください。



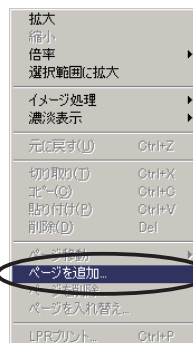
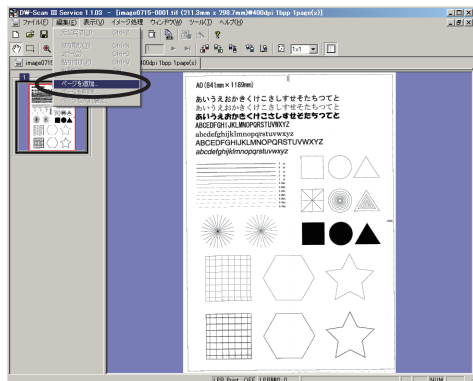
(1) 編集する TIFF/PDF/XDW ファイルを開きます。

Note: グレー多値・24ビットカラー・
JPEG形式のファイルはページ操作できません。

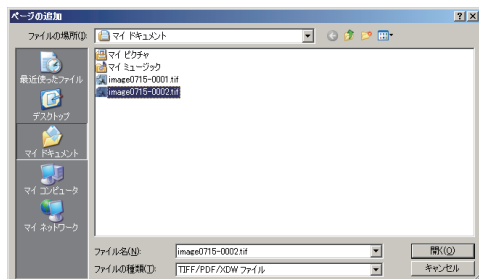
(2) 追加したい位置のページを表示させて、
編集メニューから "ページを追加" を
選択します。

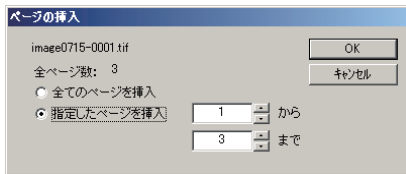
Note: TIFF ファイルを PDF ファイルに、
PDF ファイルを XDW ファイルに、
といった様に異なる形式のファイル
を追加する事も可能です。

Note: 開いている画像の上で右クリックする
ことでも行えます。



(3) 追加する TIFF/PDF/XDW ファイルを
指定します。





Note: 追加する TIFF/PDF/XDW ファイルが複数ページの場合は、挿入するページを指定するダイアログが表示されます。表示中のページの後ろにページが追加されます。

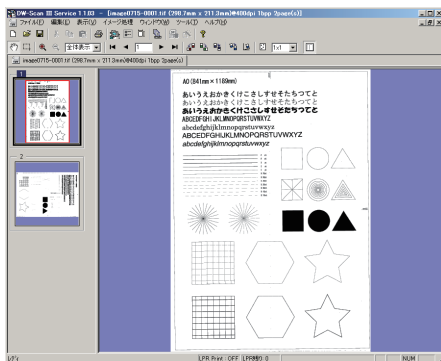
Note: DW-Scan III Service 以外で作成または保存されたファイルは、追加の保証はできません。

最大ページ数は、65535(XDW は 10000) ページ までです。

また、追加先が XDW の場合は、画像サイズによっては、保存する際にエラーが表示され XDW 形式で保存できないことがあります。詳しくは、「5.1.13 XDW 形式を扱う場合の注意」を参照してください。エクスプローラから TIFF、PDF、XDW ファイルをドラッグ & ドロップすることでもページの追加が行えます。

3.9.2 ページの削除

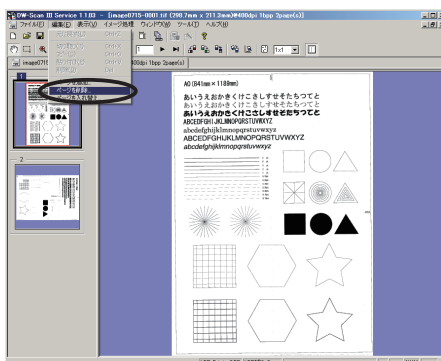
画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。「3.11.3 環境設定 (編集初期設定)」を参照してください。



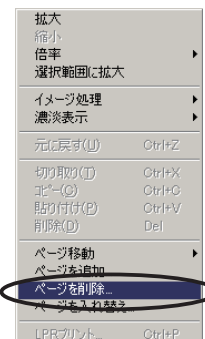
(1) 編集する TIFF/PDF/XDW ファイルを開きます。

Note: グレー多値・24 ビットカラー・JPEG 形式のファイルはページ操作できません。

(2) 削除するページを表示させて、編集メニューから、「ページを削除」を選択します。

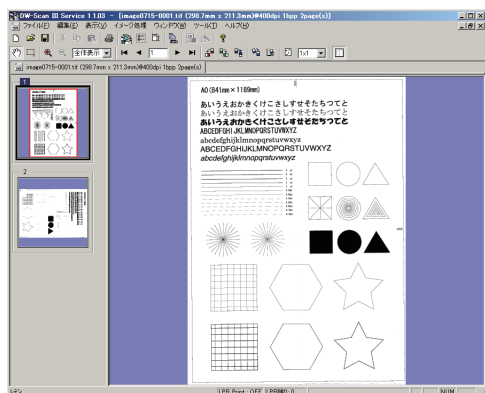


Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。



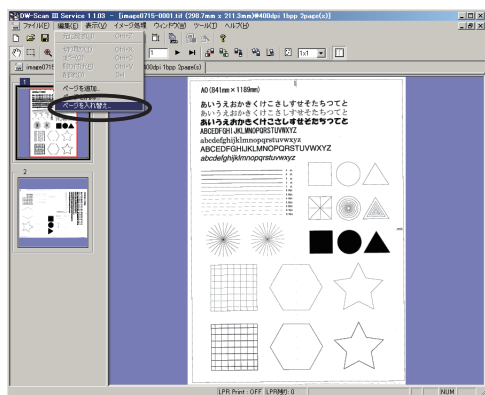
3.9.3 ページの入れ替え

画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
「3.11.3 環境設定 (編集初期設定)」を参照してください。



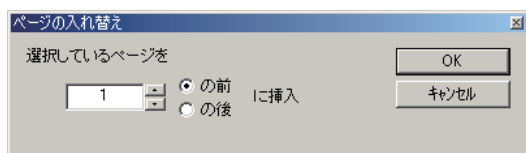
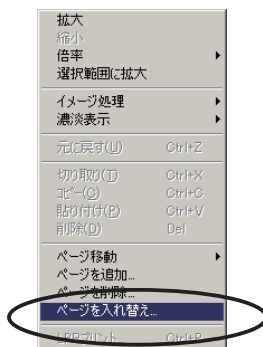
- (1) 編集する TIFF/PDF/XDW ファイルを開きます。

Note: グレー多値・24 ビットカラー・
JPEG 形式のファイルはページ操作
できません。



- (2) 入れ替えたいページを表示させて、編集メニューから、"ページを入れ替え"を選択します。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。



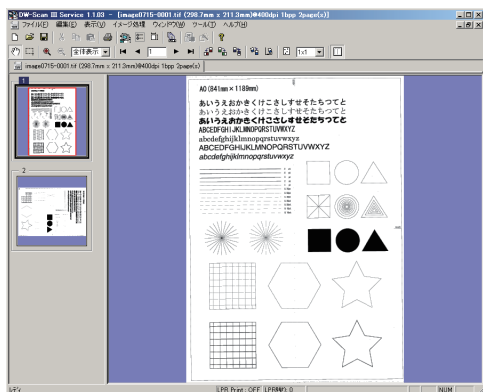
- (3) 入れ替え先のページを指定して、"OK" ボタンをクリックします。

Note: ページの入れ替えができる画像ファイルは白黒 2 値 / 白黒擬似
階調の TIFF/PDF/XDW ファイルに限られます。

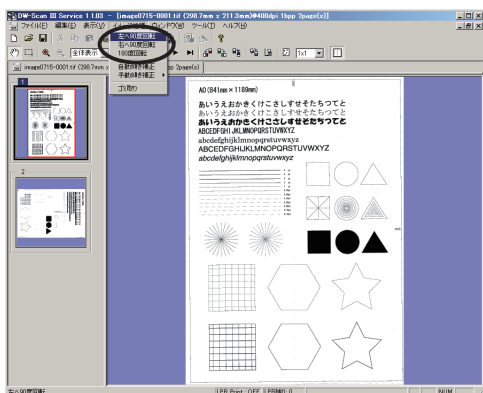
Note: サムネイルをドラッグ&ドロップすることでも、ページの入
れ替えが行えます。この際 SHIFT キーでサムネイルを複数選択
することも可能です。

3.9.4 画像の回転

画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
「3.11.3 環境設定 (編集初期設定)」を参照してください。

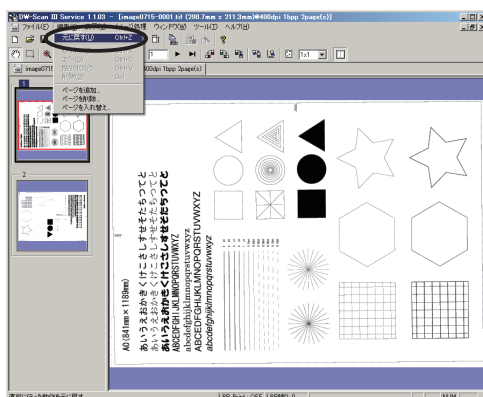
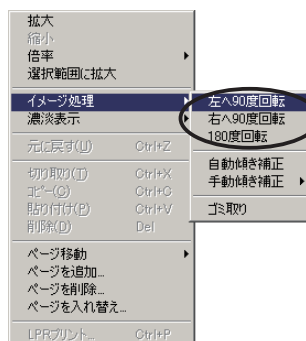


(1) 編集する TIFF/PDF/JPEG/XDW ファイルを開きます。



(2) 回転させるページを表示させて、イメージ処理メニューから、"左へ90度回転"、"右へ90度回転"、"180度回転"を選択します。

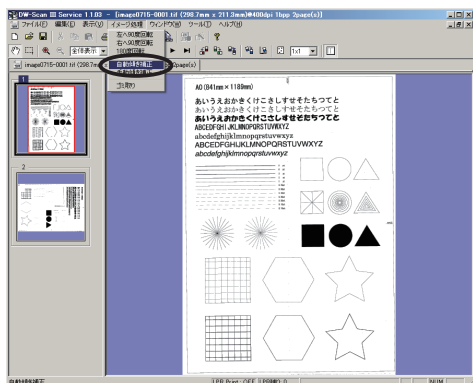
Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。



(3) 編集メニューから "元に戻す" を選択すると回転させる前の状態に戻すことができます。

3.9.5 自動傾き補正

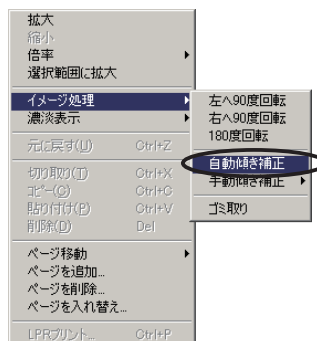
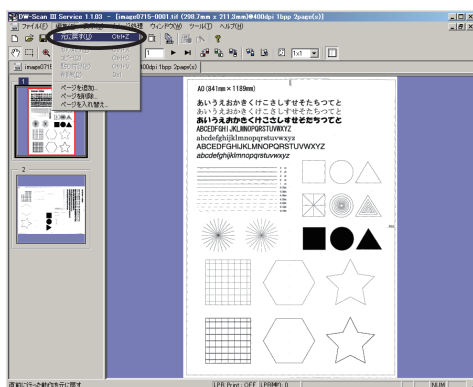
画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
「3.11.3 環境設定 (編集初期設定)」を参照してください。



- (1) 傾きを補正するページを表示させて、
イメージ処理メニューから、"自動傾き補正"を選択します。

Note: グレー多値・24ビットカラー・
JPEG形式のファイルは自動傾き補正は行えません。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。



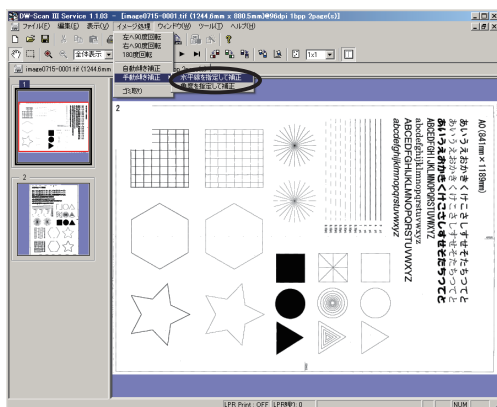
- (2) 編集メニューから "元に戻す" を選択すると補正前の状態に戻すことができます。

Note: 自動傾き補正は、画像の特徴を捕らえて自動的に行いますが、次のような画像に対しては機能しないことがあります。
自動傾き補正ができないときは、手動傾き補正を行ってください。

- ・ほとんど真っ白、あるいは真っ黒の画像
- ・枠のない写真等が配置された画像
- ・枠が端から 50mm の範囲にない原稿
- ・傾きが 4.3 度以上の原稿
- ・傾きが 0.063 度以下の原稿
- ・平行となる線分がいくつも存在するような原稿
- ・ネガポジ反転を行い、枠が白くなっているような画像

3.9.6 手動傾き補正 - 水平線を指定

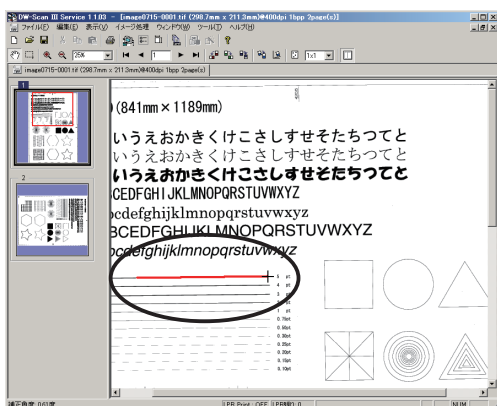
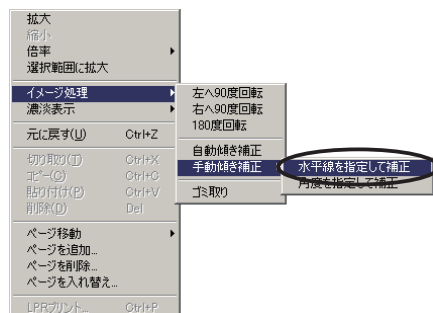
画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
「3.11.3 環境設定 (編集初期設定)」を参照してください。



- (1) 傾きを補正するページを表示させて、
イメージ処理メニューから、"手動傾き補正" -> "水平線を指定して補正" を
選択します。

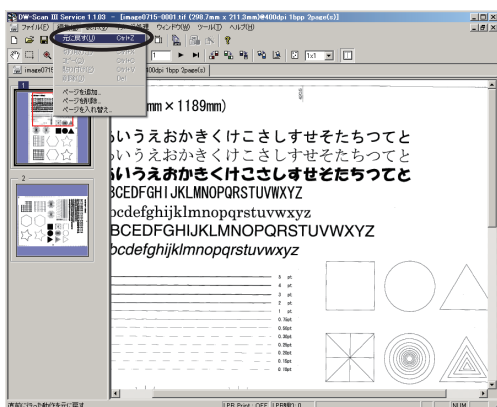
Note: グレー多値・24ビットカラー・
JPEG形式のファイルは処理に時間
がかかることがあります。

Note: 開いている画像の上で右クリックす
ることも行えます。

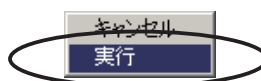


- (2) 十字カーソルで画像上の水平にしたい
線分を左クリックします。

- (3) 十字カーソルで画像上の水平にしたい
線分をなぞり、赤線が画像上の水平
にしたい線分に一致させるようにしま
す。



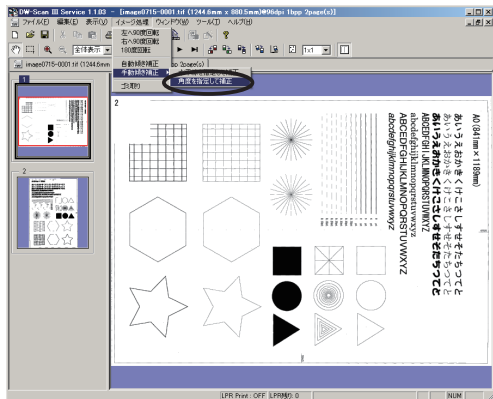
- (4) 再びクリックをするとメニューが表示
されて、"実行" を選択すると補正が
行われます。



- (5) 編集メニューから "元に戻す" を選択
すると補正前の状態に戻すことができ
ます。

3.9.7 手動傾き補正 - 角度を指定

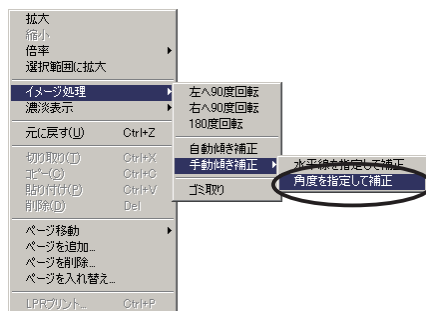
画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
「3.11.3 環境設定 (編集初期設定)」を参照してください。



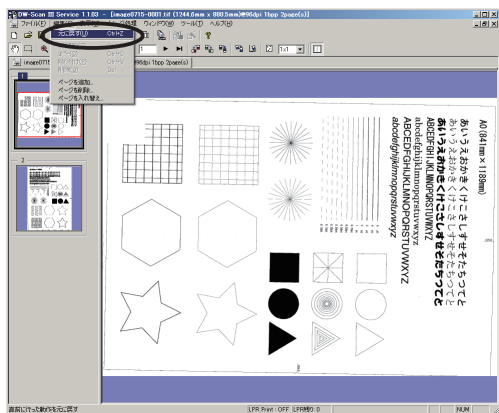
- (1) 傾き補正させるページを表示させて、
イメージ処理メニューから、"手動傾き補正" -> "角度を指定して補正" を選択します。

Note: グレー多値・24ビットカラー・
JPEG形式のファイルは処理に時間
がかかることがあります。

Note: 開いている画像の上で右クリックする
ことでも行えます。



- (2) 回転したい角度を入力します。単位は
0.01度の単位まで指定することができます。

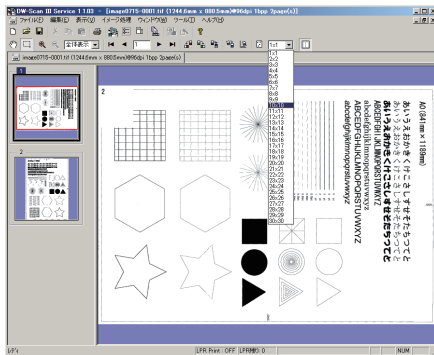


- (3) "OK" ボタンをクリックすると回転が実
行されます。

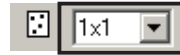
- (4) 編集メニューから "元に戻す" を選択
すると補正前の状態に戻すことができ
ます。

3.9.8 ゴミ取り

画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
「3.11.3 環境設定 (編集初期設定)」を参照してください。

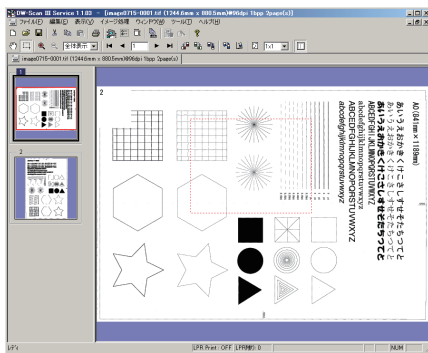


- (1) ゴミ取りさせるページを表示させて、ゴミ取りのサイズを指定します。

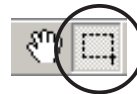


指定したサイズ (N × N) 以下の粒状のゴミを取り除きます。

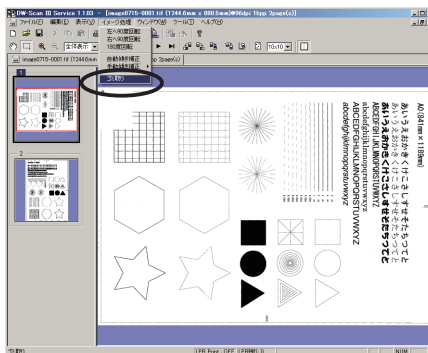
Note: グレー多値・24ビットカラー・JPEG形式のファイルはゴミ取りは行えません。



- (2) 領域選択を行うと指定した領域のみゴミ取りを行わせることができます。

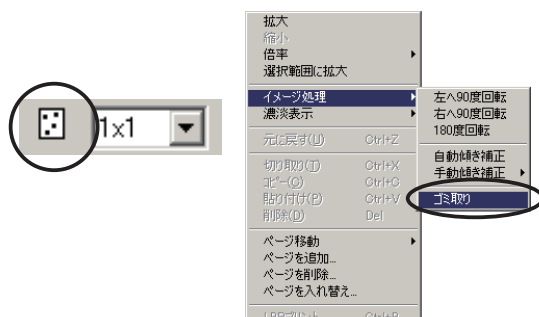


Note: ツールバーの領域選択ボタンをクリックしてから、ゴミ取りを行う領域をマウスでドラッグして選択します。



- (3) イメージ処理メニューから、" ゴミ取り " を選択するとゴミ取りが実行されます。

Note: ツールバーの " ゴミ取り " ボタンのクリック、または開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。



Note: ネガポジ反転を行った画像については、ネガポジ反転後の黒い点をゴミと見なし、ゴミ取りを行います。

- (4) 編集メニューから "元に戻す" を選択すると補正前の状態に戻すことができます。

3.9.9 ゴミ取りの性能

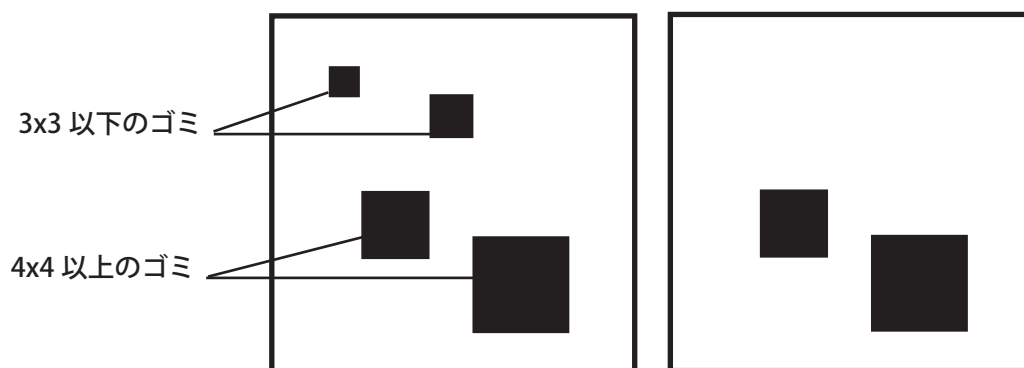
ゴミ取りは、画像から指定した画素サイズ（N x N）以下の粒状のゴミを取り除きますが、詳しい性能を以下に示します。

ゴミとみなすかどうかの基準は、指定されたサイズの周囲が全て白いかどうかで決まります。

サイズを 3x3 に指定：

ゴミ取り前

ゴミ取り後

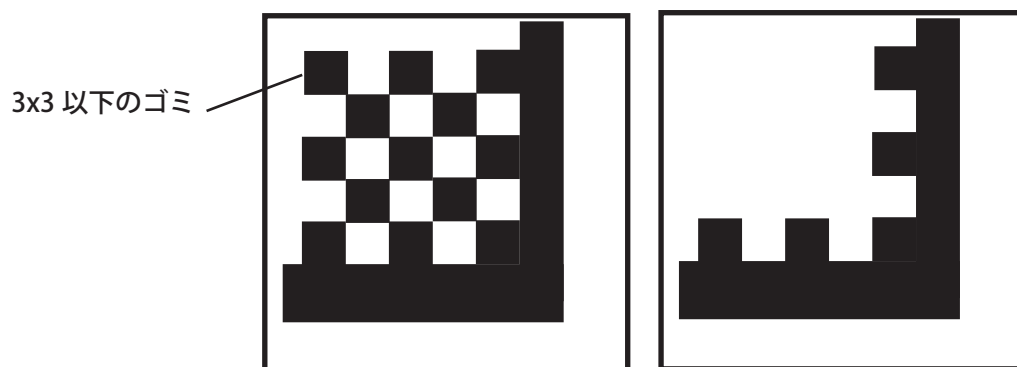


以下のような市松模様の場合も除去されます。

サイズを 3x3 に指定：

ゴミ取り前

ゴミ取り後



3.10 画像ファイルのファイル名

保存するときの画像ファイルのファイル名について記述します。

3.10.1 自動ファイル名

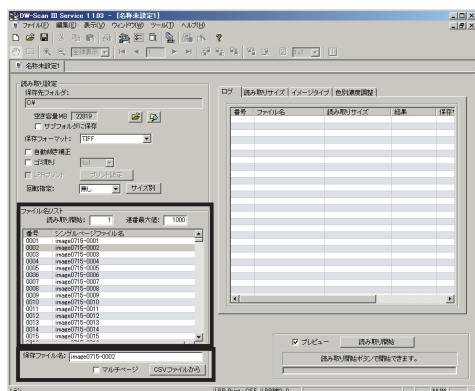
複数の画像ファイルを保存するときは、以下のようにしてファイル名が自動的に付けられて保存されます。

■ 新規に設定ファイルを作成した場合、作成した日付と連番を利用した "imageXXXX-YYYY.tif"(XXXX は月日、YYYY は連番) という形式のファイル名が自動的に生成されます。

例) 7月15日に設定ファイル作成したとき、一枚目のファイル名は "image0715-0001" になります。

3.10.2 ファイル名を指定する

通常は自動的にファイル名を生成しますが、各々のファイル名を指定することもできます。

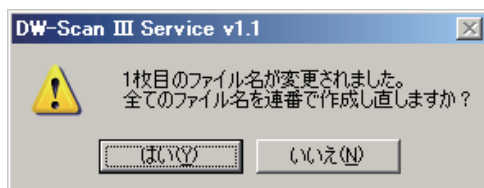


(1) 設定ウィンドウの、ファイル名リストから変更したい行をクリックします。

(2) 下の編集欄 "保存ファイル名" でファイル名を変更し、Enter キーを押します。

Note: "読み取り開始" 指定欄で、ファイル名リスト中の番号を入力することによって、読み取り開始した時に最初に保存するときのファイル名を指定できます。(読み取りを一時中止した時は次の読み取り番号が表示されません。)

■ ファイル名を一括して変更したい場合は、リストの1枚目(番号 "0001")のファイル名を変更します。次のようなダイアログが表示されます。



"はい" を選ぶと一枚目はその指定したファイル名に連番を付けたファイル名に変わり、二枚目以降も連番を付加したファイル名が自動的に作成されます。

例えば、保存ファイル名として "sample" を指定した場合、

1 枚目のファイル名は	"sample-0001.tif"
2 枚目のファイル名は	"sample-0002.tif"
3 枚目のファイル名は	"sample-0003.tif"

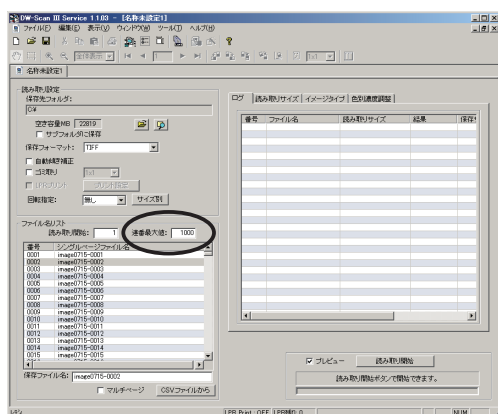
1000 枚目のファイル名は "sample-1000.tif" というふうになります。

"いいえ" を選ぶと一枚目はそのまま、二枚目以降のファイル名も変更されません。

■ このようにして、任意の名前で始まる連番のファイル名を 1000 枚目（連番最大値欄にて最大 9999 枚まで変更可能）まで自動的に生成します。

3.10.3 連番最大値を指定する

新規に設定ファイルを開いたときは、自動的にファイル名を連番で 1000 まで生成しますが、連番の最大値を指定することもできます。



(1) 設定ウィンドウのファイル名リストにある、連番最大値欄に読み取りの最大連番数を入力します。指定できる範囲は 1 ～ 9999 までです。

Note: 連番最大値を増やした場合、変更前の連番の最後のファイル名が "XXXXXX-YYYY.tif" (YYYY は 4 桁の連番) のフォーマットになっているときは、最後のファイル名の連番を利用して増やされたファイル名を自動的に生成します。

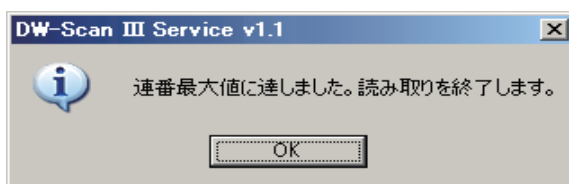
例) 連番最大値を 1000 から 2000 に変更

0999	sample-0999.tif	0999	sample-0999.tif
1000	sample-1000.tif	1000	sample-1000.tif
		1001	sample-1001.tif
		1002	sample-1002.tif
		1003	sample-1003.tif
		...	
		2000	sample-2000.tif

Note: 読み取りが連番最大値に達したときは、以下のダイアログが現れ読み取りを終了します。

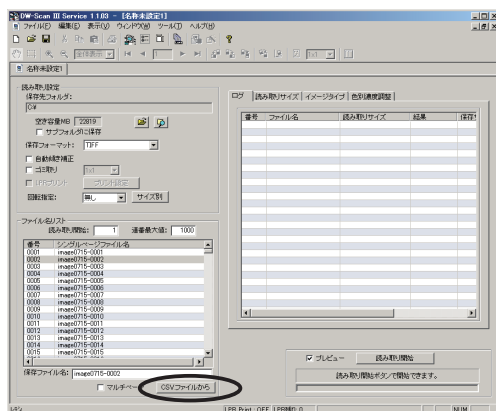
但し、読み取りのプレビュー画面を表示している場合は、ダイアログが表示されません。その場合、連番最大値以後に読み取ったデータは破棄されてしまいますので注意してください。

詳細は「5.1.15 連番最大値を超える読み取り」を参照してください。

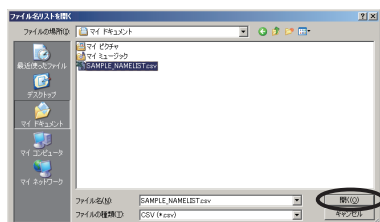


3.10.4 表計算のファイルからファイル名を指定する

テキストエディタや、Excel 等の表計算アプリケーションで編集した CSV ファイル (カンマ区切りのテキストファイル) をファイル名指定として利用できます。



(1) 設定ウィンドウのファイル名リストにある、"CSV ファイルから" のボタンをクリックします。



- (2) テキストエディタ、Excel 等で保存した CSV ファイルを選択して "開く" ボタンをクリックします。
- (3) CSV ファイルに「.tif」が含まれる場合、列確認ダイアログが現れます。
"はい" をクリックするとファイル名が設定され、ファイル名の指定が終了します。

Note: このとき選択される列は、1 行目にあるファイル名の中に「.tif」が含まれている最初の列になります。

Note: DW-Scan III Service で扱うことのできるファイルフォーマットの拡張子「.tif / .tiff」「.pdf」「.xdw」「.jpg / .jpeg」が CSV ファイル内に記載されていた場合、CSV ファイル読み込み時に拡張子部分が削除されます。

< 例 >

以下のように記述された CSV ファイルの場合は Sample001.tif の列が選択されることになります。

A, Sample001.tif, test1.tif
B, Sample002.tif, test1.tif
C, Sample003.tif, test1.tif
⋮

A の列もしくは、test1 の列をファイル名として使用したい場合は、列確認ダイアログで"いいえ"を選択していただくか、CSVファイルを変更してください。



- (4) 「.tif」が無い CSV ファイルを選択した場合、もしくは(3)で"いいえ"を選択した場合は、CSV ファイルの列を選択するダイアログが表示されます。ファイル名にしたい列を選択してください。
- "読み込み開始行"に読み込ませたい行番号を入力することで、CSV ファイルの行オフセットが指定できます。

- (5) "OK" ボタンをクリックすると、読み込み開始行から 選択した列をファイル名として読み込みます。
- "キャンセル" ボタンをクリックすると、ファイルリストの指定を取り止めます。

Note: シングルページのファイル名として使用する場合は、同じ文字列の行が含まれていると、読み込み開始時点でエラー表示になり、スキャンが開始されません。

マルチページのファイル名として使用する場合は、同時文字列の行が同一のマルチページファイルに記録されます。

< 例 >

次のような CSV ファイルは、シングルページのファイル名として使用できません。

```
sample.tif
sample.tif
sample.tif
test.tif
test.tif
```

マルチページのファイルとして使用した場合は、3 ページの sample.tif ファイルと、2 ページの test.tif ファイルが保存されることになります。

CSV ファイルと保存する画像ファイルの整合性を高めたい場合は、オプション商品の「CSV 連携 KIT」をご購入ください。

3.10.5 CSV ファイルでファイル名を連番に指定する

CSV ファイルでファイル名を指定する際に、未入力の行がある場合には自動的に以前のファイル名に連番を付けたファイル名を生成します。また、次の行に有効なファイル名が入力されている場合には、連番付けを中止します。

この様にして、ファイル名の指定を簡便に行うことができます。

例えば、1 枚目から 5 枚目までは 1 枚目のファイル名の連番でファイル名を指定し、6 枚目からは別のファイル名で連番を再開する場合は、以下ようになります。

CSV ファイルの内容	ファイル名指定の結果
Sample.tif (改行)	Sample.tif
(改行)	Sample-0002.tif
(改行)	Sample-0003.tif
(改行)	Sample-0004.tif
(改行)	Sample-0005.tif
NewSample.tif	NewSample.tif
(改行)	NewSample-0002.tif
(改行)	NewSample-0003.tif

3.10.6 設定ファイルを開くときにファイル名を指定する

設定ファイルを開くときに、設定ファイルのファイル名指定の代わりに Excel 等の表計算アプリケーションの出力するカンマ区切りのテキストファイルをファイル名として指定できます。

設定ファイルと同じ名前のファイルで、拡張子が「.csv」のファイル
が同じフォルダに有る場合には、設定ファイルのファイル名指定を使用せず
そのファイルからファイル名を読み込みます。

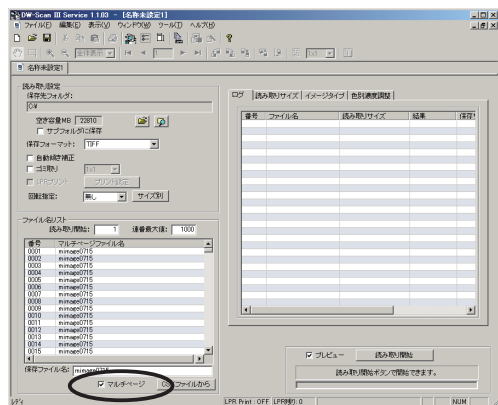
例えば、設定ファイルが「Sample.dw3」という名前であるときに、「Sample.csv」という名前のファイルを同じフォルダに置いておけば、「Sample.dw3」のファイル名指定の代わりに、「Sample.csv」からファイル名を読み込むようになります。

この機能は、3.10.4 での操作を設定ファイルを開くときに自動実行することと同様な機能になります。

3.10.7 マルチページで保存

TIFF/PDF/XDW ファイルを保存する際に、一つのファイルに複数のページをもつ形式で保存することができます。

Note: グレー多値、24ビットカラー、JPEG形式のファイルはマルチページで保存できません。



- (1) 設定ウィンドウの、ファイル名リストから "マルチページ" をチェックします。ファイル名は、マルチページファイル名に切り替わります。
- (2) マルチページの場合は、ファイル名が同一であればページの追加として読み取り保存が進み、読み取り番号に対するファイル名が変わった場合に、そのマルチページが終了となります。
次節 3.10.8 を参照してください。

※ PDF/XDW形式のマルチページファイルを保存する場合は、スキャナのバッファが限界に達するのを防ぐため、ページごとにTIFFファイルを保存し、"読み取り中止"ボタンを押すとPDF/XDWマルチページへ変換が行われるようになっています。

上記処理を行うため、Windowsディスク、保存先ディスクに保存するデータの3倍（Windowsディスク、保存先ディスクが同じ場合は6倍）の空き容量が必要になります。

読み取り中または、PDF/XDWマルチページ変換中にアプリケーションエラーなどで不正終了した場合は保存先「MULTIPAGETEMP」フォルダ内に、ページごとのTIFFファイルが保存されています。このTIFFファイルを、ファイル名編集ツールを使用してPDF/XDWマルチページに変換してください。

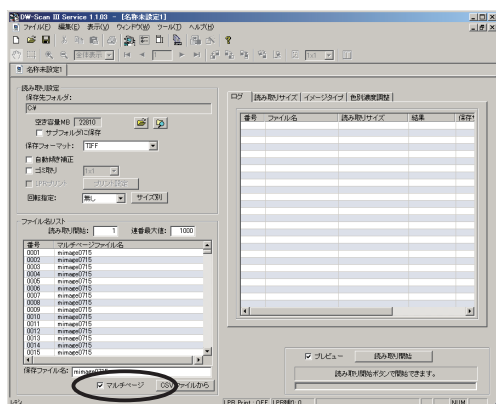
詳しくは「5.1.14 PDF/XDW マルチページ作成時の注意事項」を参照してください。

3.10.8 マルチページ形式のファイル名

複数のページをもつ TIFF/PDF/XDW 形式で保存する場合、読み取り番号に対してファイル名を変えることができます。

Note: グレー多値、24 ビットカラー、JPEG 形式のファイルはマルチページで保存できません。

ここでは例として、読み取り番号の1～5を"page1-5.tif"のTIFFファイルにページとして保存し、読み取り番号の6～10を"page6-10.tif"のTIFFファイルに指定する方法を説明します。



- (1) 設定ウィンドウの、ファイル名リストから"マルチページ"をチェックします。ファイル名は、マルチページファイル名に切り替わります。

ファイル名リスト

読み取り開始: 連番最大値:

番号	マルチページファイル名
0001	mimage0715
0002	mimage0715
0003	mimage0715
0004	mimage0715
0005	mimage0715
0006	mimage0715
0007	mimage0715
0008	mimage0715
0009	mimage0715
0010	mimage0715

保存ファイル名:

☒ マルチページ

(2) マウスで読み取り番号 1 ～ 5 までを選択します。

ファイル名リスト

読み取り開始: 連番最大値:

番号	マルチページファイル名
0001	page1-5
0002	page1-5
0003	page1-5
0004	page1-5
0005	page1-5
0006	mimage0715
0007	mimage0715
0008	mimage0715
0009	mimage0715
0010	mimage0715

保存ファイル名:

☒ マルチページ

(3) 下の保存ファイル名欄に、"page1-5" と入力して Enter キーを押します。

ファイル名リスト

読み取り開始: 連番最大値:

番号	マルチページファイル名
0001	page1-5
0002	page1-5
0003	page1-5
0004	page1-5
0005	page1-5
0006	page6-10
0007	page6-10
0008	page6-10
0009	page6-10
0010	page6-10

保存ファイル名:

☒ マルチページ

(4) 同様にして読み取り番号の 6 ～ 10 を選択し直して、ファイル名を "page6-10" と入力します。

(5) このようにファイル名を指定した後、読み取りを開始します。

1 枚目から 5 枚目までは、"page1-5" のファイルにページ 1 ～ 5 として保存され、6 枚目から 10 枚目までは、"page6-10" のファイルにページ 1 ～ 5 として保存されるようになります。

Note: 既存のファイルにページを追加していく場合、最大のページ数は 65535 ページ (XDW の場合は 10000 ページ) までです。

3.10.9 ファイル名に使用できない文字

保存する TIFF/PDF/XDW/JPEG ファイル名に、以下の文字は使用できません。

¥ \ / : , ; * ? " < > | ~

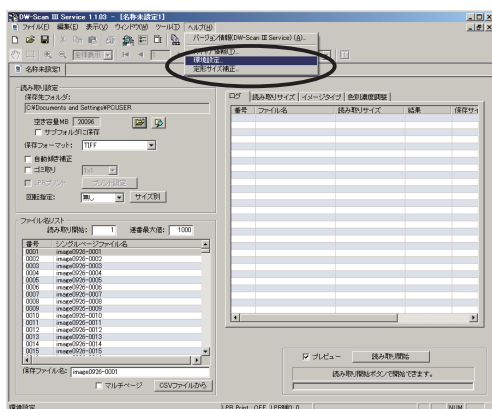
3.11 ヘルプメニュー

ヘルプメニューの内容と操作方法について記述します。

※環境設定のダイアログ右側に表示される CSV 連携設定については、別売の「CSV 連携 KIT」取扱説明書を参照してください。「CSV 連携 KIT」がインストールされていない場合は、設定は無視されます。

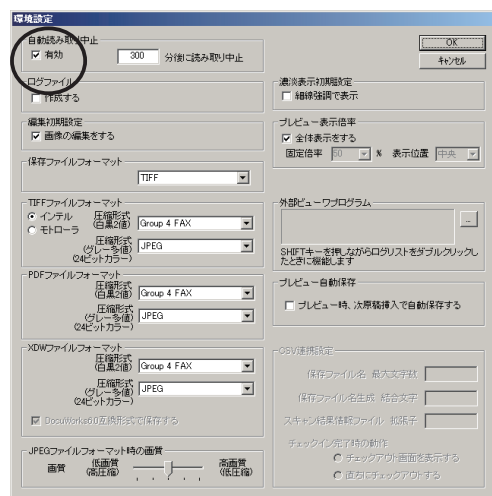
3.11.1 環境設定（自動読み取り中止）

通常は読み取り開始ボタンを押して読み取り中になるとスキャナ機器を占有したままになってしまいますが、原稿の読み取りを行わないまま一定時間経過すると自動的に読み取り中止させることができます。



(1) ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作ができます。



(2) 環境設定のダイアログが表示されます。

(3) 自動読み取り中止を有効にするには、" 有効 " をチェックします。

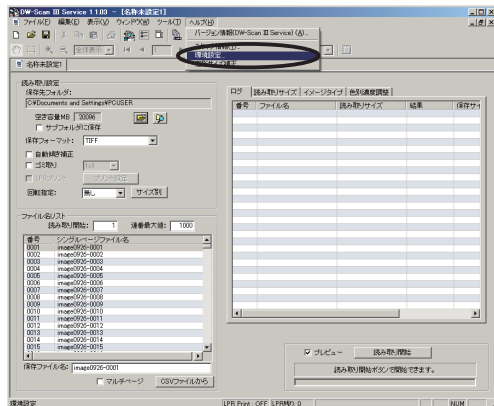
(4) 最後の原稿の読み取りを行ってから自動的に読み取り中止になるまでの時間を設定します。
有効な設定範囲は 1 ～ 300（分）です。

Note: 自動読み取り中止が働いたときは、" 読み取り中止 " ボタンを押した場合と同じになります。

3.11.2 環境設定（ログファイルの作成）

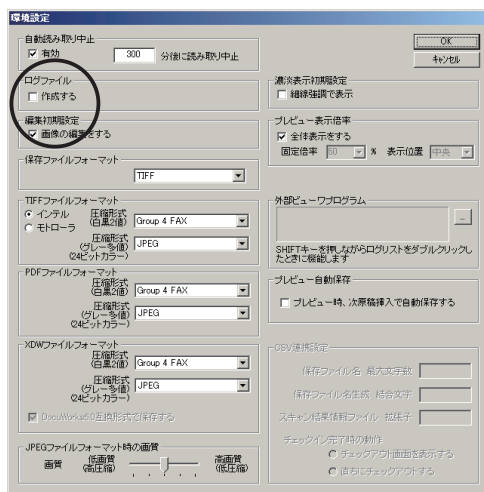
読み取りが進んでいくと設定ウィンドウに読み取り結果が表示されますが、これと同じ内容のテキストファイルをログファイルとして保存させることができます。

ログファイルの保存先は設定ウィンドウで指定したフォルダになります。



(1) ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作ができます。



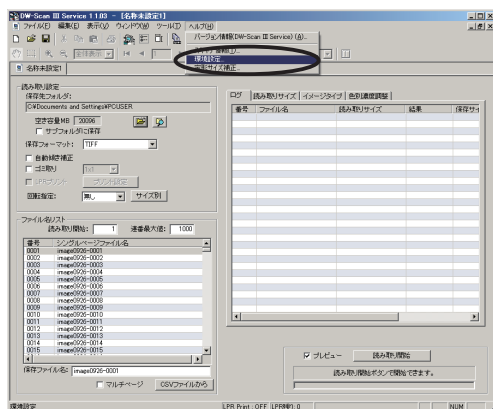
(2) 環境設定のダイアログが表示されます。

(3) ログファイル作成を有効にするには、" ログファイルを作成する " をチェックします。

Note: 詳細については「4.2.1 ジョブログ」を参照してください。

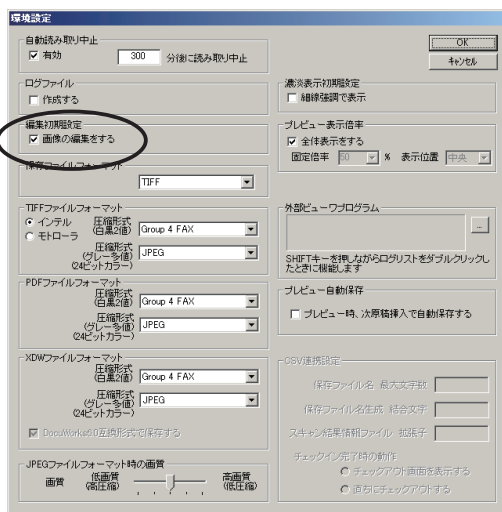
3.11.3 環境設定（編集初期設定）

TIFF/PDF/JPEG/XDW 画像を編集可能にするかどうかを設定します。
自動傾き補正・ゴミ取りなどの画像の編集を行うことができるようになります。



(1) ヘルプメニューの "環境設定" を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作ができます。



(2) 環境設定のダイアログが表示されます。

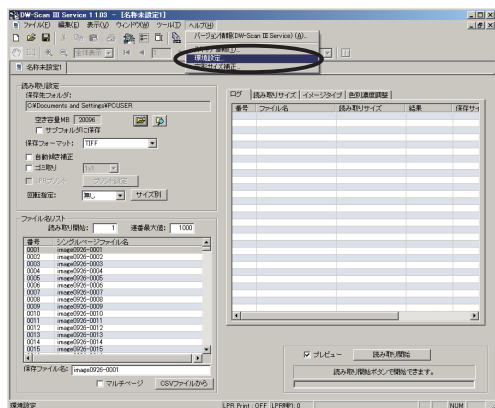
(3) 画像の編集を行うには、"画像の編集をする" をチェックします。

Note: 現在開いてる画像には適用されません。編集を行うには画像を閉じた後、再度開いてください。

3.11.4 環境設定（保存ファイルフォーマット）

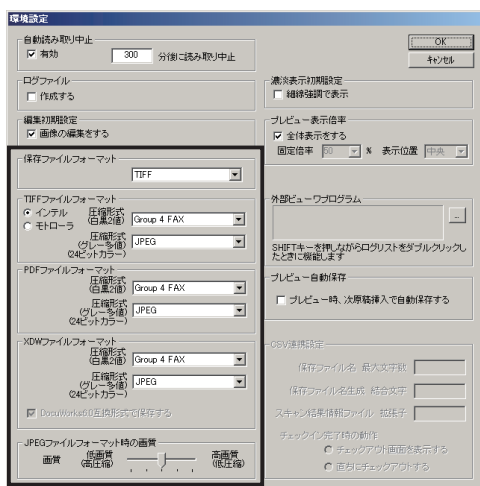
DW-Scan III Service で新規設定ウィンドウを作成したときの保存形式を指定します。

保存形式については、TIFF、PDF、JPEG、XDWをサポートしています。JPEG 形式の場合は " グレー多値 ", " 24 ビットカラー " のみ選択できます。



- (1) ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作ができます。



- (2) 環境設定のダイアログが表示されます。

- (3) 「TIFF」、「PDF」、「JPEG」または「XDW」から保存ファイルフォーマットを指定します。

- (4) 各ファイルフォーマットの保存時の圧縮形式を設定します。ファイルフォーマットに対応する圧縮形式については次ページの圧縮形式対応表をご覧ください。

TIFF ファイルについては、他のアプリケーションで利用する際に都合がよいようにファイル構造を指定することができます。

インテル形式は、TIFF の 16 ビット以上のデータの並び方が下位から上位、またモトローラ形式では、上位から下位の並びになっています。

Note: 通常はインテル形式で問題ありません。ご使用の他アプリケーションが対応していない場合に変更を行ってください。

Note: DocuWorks Ver.7.x が設置されている場合でも、初期の設定では DocuWorks Ver.6.0 互換形式で保存します。"DocuWorks6.0 互換形式で保存する" のチェックを外すことで、DocuWorks Ver.7.x 形式で保存することが可能になります。

圧縮形式対応表

白黒2値・白黒擬似階調

	圧縮なし	RLE	Pack Bits	G3 FAX	G3 MH	G4 FAX
TIFF	○	○	○	○	○	◎
PDF						◎
XDW						◎

グレイ多値・24ビットカラー

	圧縮なし	Pack Bits	LZW	JPEG
TIFF	○	○	○	◎
PDF			○	◎
XDW				◎
JPEG	圧縮率を5段階で設定可能			

Note: 白黒2値・白黒擬似階調の場合、JPEG ファイルで保存できません。

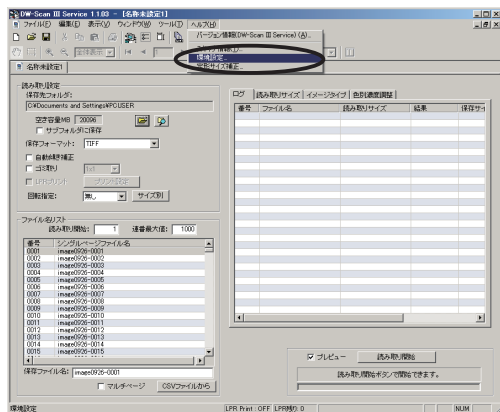
Note: "G3 FAX" は "Group 3 FAX"、"G3 MH" は "Group 3 Modified Huffman"、"G4 FAX" は "Group 4 FAX" です。

Note: "○" は対応する圧縮形式、"◎" は標準設定時の圧縮形式です。

Note: グレイ多値・24ビットカラーのTIFF ファイル、PDF ファイル、XDW ファイルの圧縮形式を "JPEG" 圧縮で保存する場合の圧縮率は、JPEG ファイルフォーマット時の画質を変更することで設定可能です。

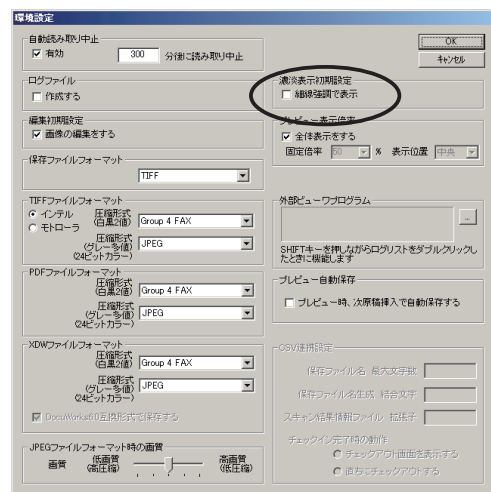
3.11.5 環境設定（濃淡表示初期設定）

画像を表示する際に表示を細線強調で行うかどうかを指定します。



- (1) ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

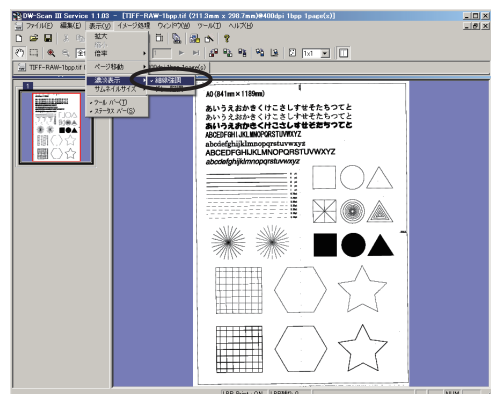
Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作ができます。



- (2) 環境設定のダイアログが表示されます。

- (3) 細線強調で表示を行うには、" 細線強調で表示 " をチェックします。

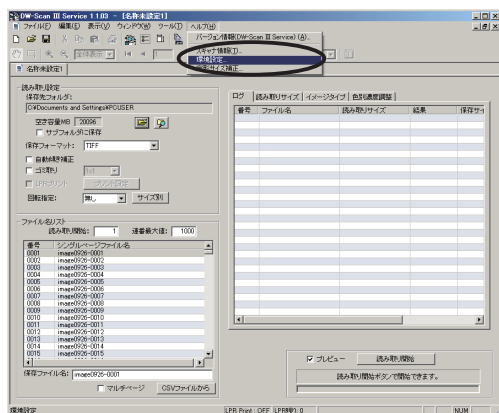
Note: 読み取りプレビューや画像を開いて表示する際の初期設定になります。



Note: 表示メニューの濃淡表示を選択することで、個別に切り変えることができます。

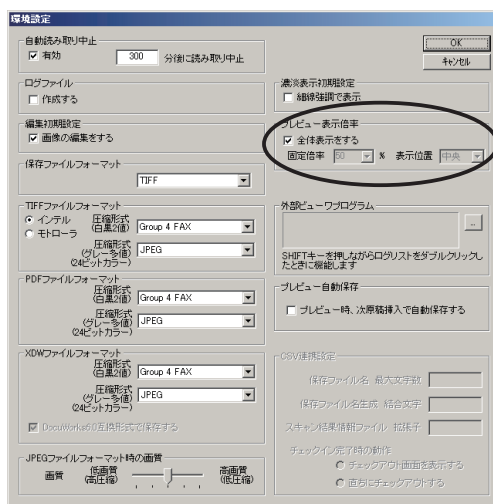
3.11.6 環境設定（プレビュー表示倍率）

プレビュー時の表示方法を指定します。必ず全体表示にしたり、特定の倍率で読み取った原稿の場所を表示するようにできます。



(1) ヘルプメニューの "環境設定" を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作ができます。



(2) 環境設定のダイアログが表示されます。

(3) プレビュー開始時に必ず全体表示にする場合は、"全体表示をする" をチェックします。

プレビューを特定の表示倍率で行う場合は、"全体表示をする" のチェックを外して、固定倍率を指定します。

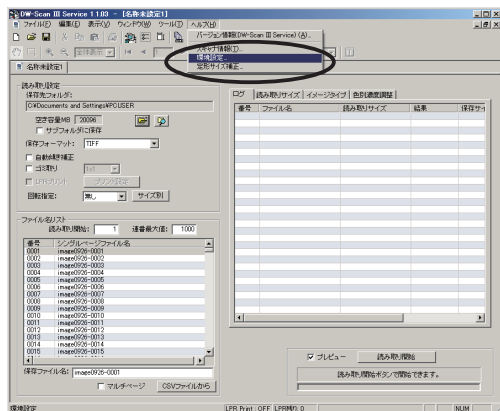
また、読み取った原稿の特定の場所を表示させるには、表示位置から場所を選択します。

表示位置は中央／左上／右上／左下／右下の内から選びます。

Note: 指定された倍率が、全体表示より小さくなる場合は全体表示になります。

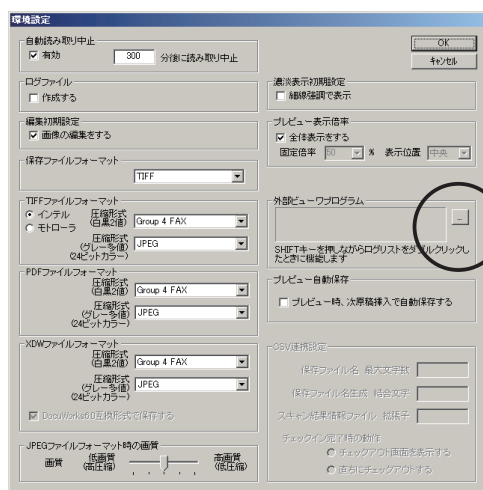
3.11.7 環境設定（外部ビューワ）

読み取りが済んだ画像を見るときに（ログリストをシフトキーを押しながらダブルクリック）、DW-Scan III Service で表示させずに、他のアプリケーションで表示させることができます。



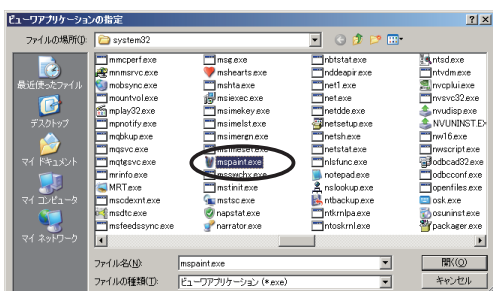
(1) ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作ができます。



(2) 環境設定のダイアログが表示されます。

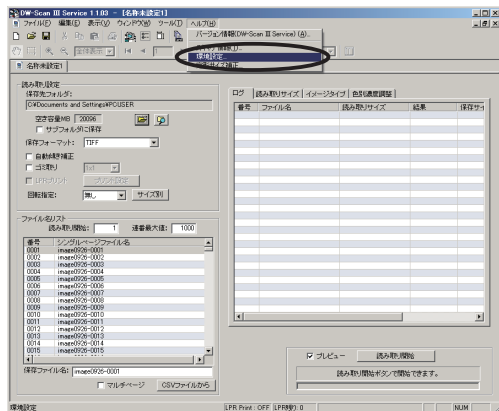
(3) ビューワ指定ボタンをクリックして外部ビューワを指定します。



Note: 外部ビューアとして、例えば Windows XP の場合、"mspaint.exe (ペイント)" が "C:\WINDOWS\system32" フォルダにインストールされています。

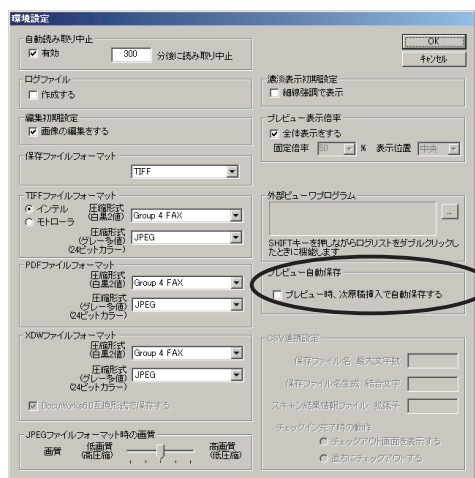
3.11.8 環境設定（プレビュー自動保存）

読み取り後のプレビュー中に、スキャナ機器に次原稿を挿入すると自動で保存するように設定できます。



(1) ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作ができます。

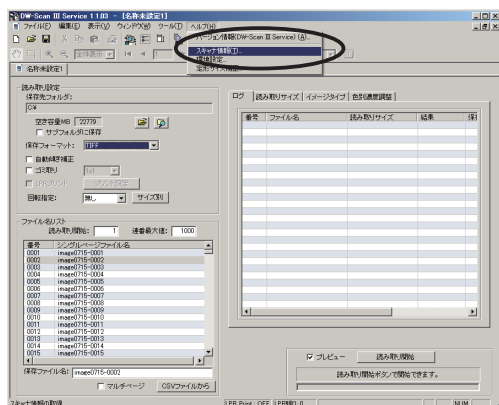


(2) 環境設定のダイアログが表示されます。

(3) プレビュー自動保存を行うには、" プレビュー時、次原稿挿入で自動保存する " をチェックをします。

3.11.9 スキャナ情報

スキャナ機器に関する情報を確認できます。



- (1) ヘルプメニューから "スキャナ情報" を選択します。

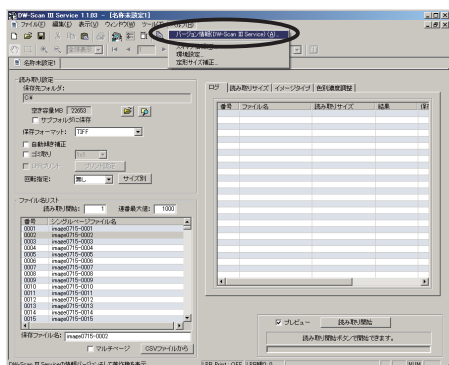
Note: ツールバーのスキャナ情報ボタンでも同様の操作ができます。



- (2) 接続されているスキャナに関する情報がダイアログに表示されます。

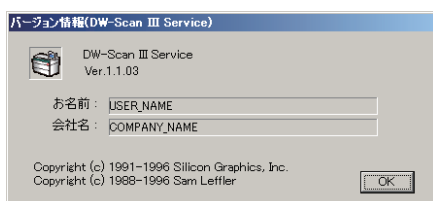
3.11.10 バージョン情報

DW-Scan III Service のバージョン情報を表示します。



(1) ヘルプメニューから "バージョン情報" を選択します。

Note: ツールバーのヘルプボタンでも同様の操作ができます。



(2) バージョン情報のダイアログが表示されます。

インストールするときに入力した情報も併せて表示されます。

3.12 LPR プリント

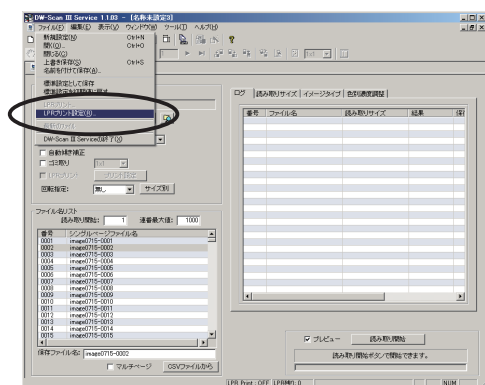
LPR プリントの内容と操作方法について記述します。

Windows Vista / Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 で LPR プリントを行うには、まず 3.12.4 ～ 3.12.6 を参照し、設定を行ってください。

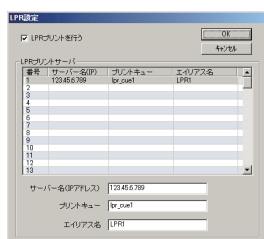
3.12.1 LPR プリントの設定

LPR プリントを使用するには、お使いになっている PC のネットワークに関する情報が必要になります。設定に必要な情報がわからないときは、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

TIFF ファイル、PDF ファイル、JPEG ファイル、XDW ファイルの LPR プリントが可能です。(TIFF ファイル以外は、内部的に TIFF ファイルに変換してから LPR プリントされます。)



(1) ファイルメニューの "LPR プリント設定" を選択します。



(2) LPR 設定のダイアログが表示されます。

Note: リスト上で右クリックすると、項目のコピー・貼り付け・削除が行えます。

(3) "LPR プリントを行う" をチェックします。

(4) サーバー名 (IP アドレス) :

LPR サーバーの名前または IP アドレスを入力します。

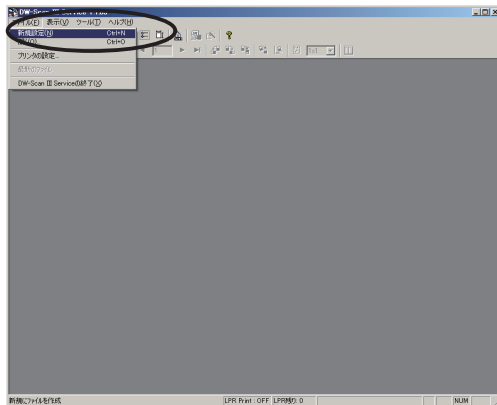
(5) プリントキュー :

LPR サーバーで TIFF ファイルを処理できるキュー名を指定します。

(6) エイリアス名 :

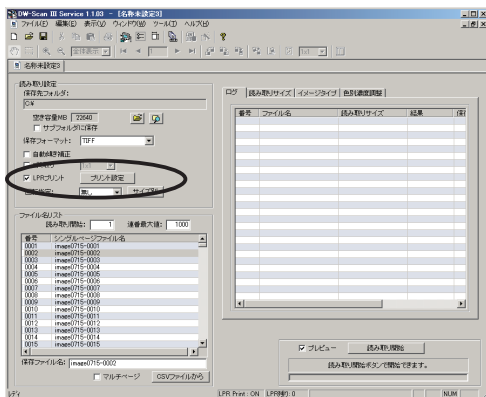
指定した LPR サーバーを覚えやすい名称にするために指定します。

3.12.2 読み取りながら LPR プリントを実行する



(1) DW-Scan III Service を起動して、ファイルメニューから "新規設定" を選択します。

Note: ツールバーの新規設定ボタンでも同様の操作ができます。

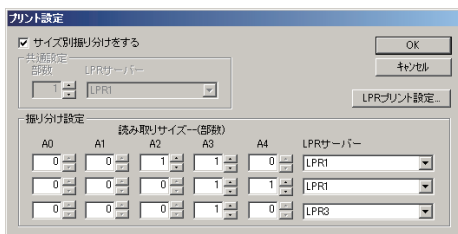


(2) 保存するファイル名やフォルダを必要に応じて指定します。

(3) "LPR プリント" をチェックして、"プリント設定" ボタンをクリックします。



(4) LPR 設定で指定したどの LPR サーバーに対してプリントを行うかを指定します。同時に部数を指定します。

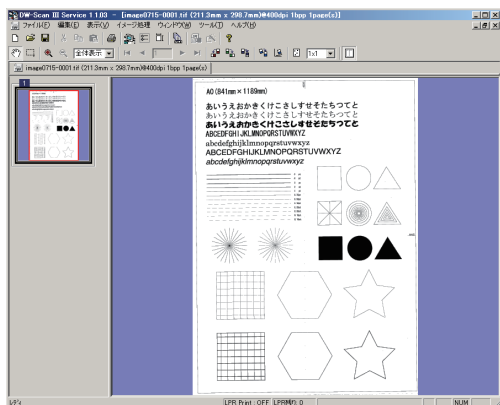


(5) 読み取りサイズによって、LPR サーバーを切り替えるときは、"サイズ別振り分けをする" をチェックして、サイズ毎にどの LPR サーバーに対してプリントを行うかを指定します。サイズ別振り分けに関する注意 / 制限事項については「5.1.11 LPR プリントのサイズ別振り分けについて」を参照してください。

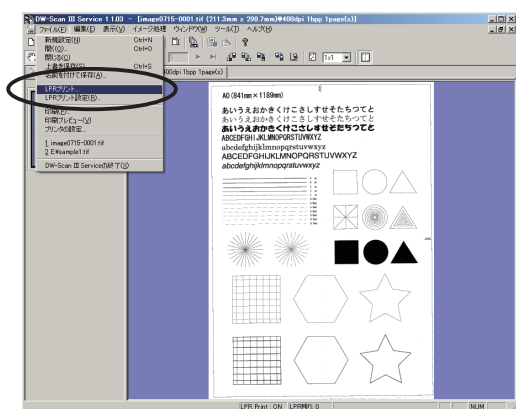
(6) 読み取り開始ボタンをクリックしてから、スキャナ機器に原稿を読み込ませます。

(7) 読み取りが終了したファイルが、逐次 LPR プリントされます。

3.12.3 保存した画像ファイルに LPR プリントを実行する

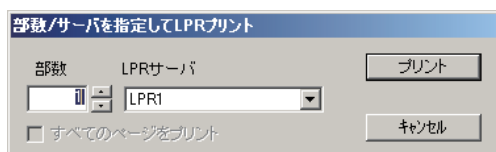
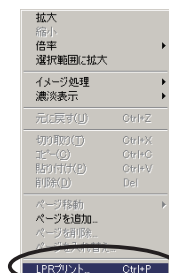


- (1) 保存した TIFF/PDF/JPEG/XDW ファイルを開きます。
- 保存したファイルの開く方法については「3.8 保存した画像ファイルを表示する」を参照してください。



- (2) ファイルメニューから "LPR プリント" を選択します。

Note: 画像を表示しているウィンドウ上で右クリックすることでも、LPR プリントを実行できます。



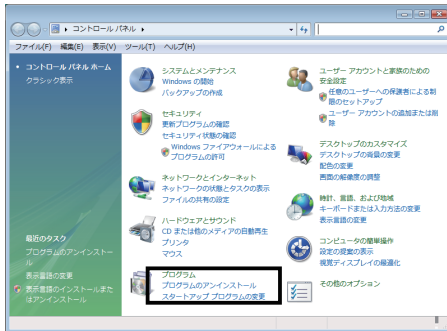
- (3) 部数 / サーバを指定するダイアログが表示されます。
- "プリント" ボタンをクリックすると LPR プリントが行われます。



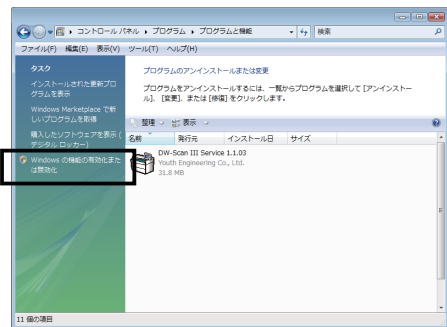
Note: 読み取り設定ウィンドウにある、ログリストに読み取りが完了している画像ファイルがあるときは、項目を右クリックで選択することで、LPR プリントを直接実行することができます。

3.12.4 Windows Vista で LPR プリントを有効にする

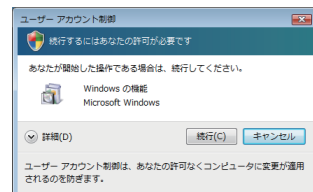
Windows Vista の通常の設定では、LPR プリントが行えません。
LPR プリントを行えるようにするには、下記の手順に従って設定を行ってください。



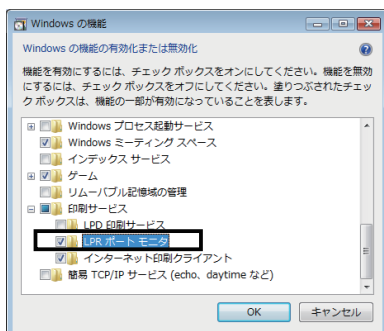
(1) "コントロールパネル"を開き、"プログラムのアンインストール"を選択します。



(2) "Windows の機能の有効化または無効化"を選択します。



(3) "続行" ボタンをクリックします。



(4) "印刷サービス"の左の"+"をクリックし、印刷機能の項目を表示します。
"LPR ポートモニタ"のチェックを入れます。

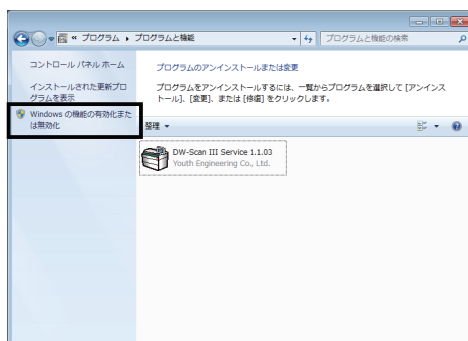
以上の手順で LPR プリント機能が有効になります。
実際に LPR プリントを行うには 3.12.1 ～ 3.12.3 の設定、印刷方法を参照してください。

3.12.5 Windows 7 で LPR プリントを有効にする

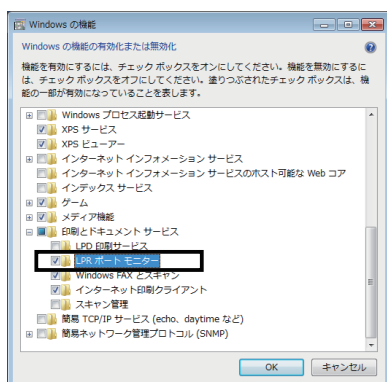
Windows 7 の通常の設定では、LPR プリントが行えません。
LPR プリントを行えるようにするには、下記の手順に従って設定を行ってください。



(1) "コントロールパネル"を開き、"プログラムのアンインストール"を選択します。



(2) "Windows の機能の有効化または無効化"を選択します。



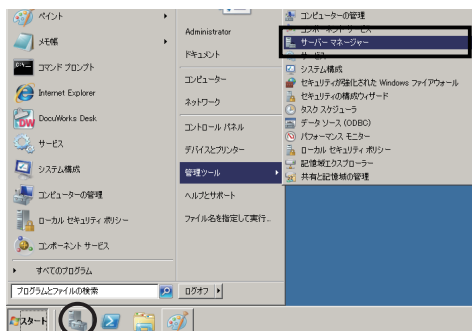
(3) "印刷とドキュメントサービス"の左の "+" をクリックし、印刷機能の項目を表示します。
"LPR ポートモニター"のチェックを入れます。

以上の手順で LPR プリント機能が有効になります。
実際に LPR プリントを行うには 3.12.1 ～ 3.12.3 の設定、印刷方法を参照してください。

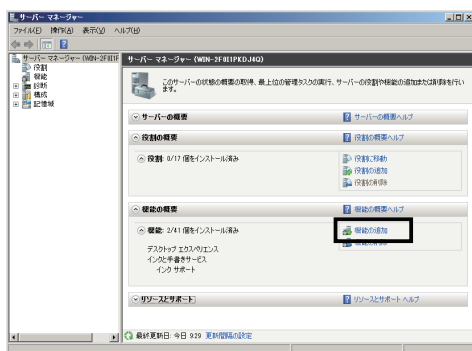
3.12.6 Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 で LPR プリントを有効にする

Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 の通常の設定では、LPR プリントが行えません。

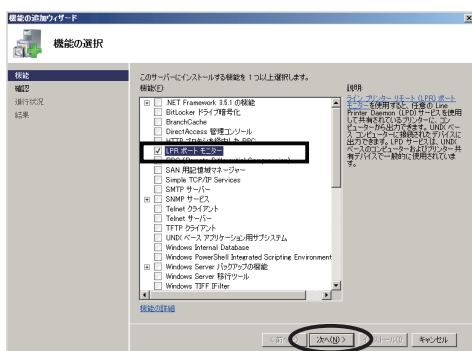
LPR プリントを行えるようにするには、下記の手順に従って設定を行ってください。



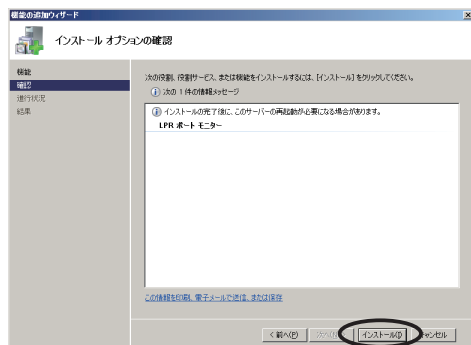
- (1) スタートメニューから「管理ツール」
—「サーバーマネージャー」を選択します。または、タスクバーの「サーバーマネージャー」アイコンをクリックします。



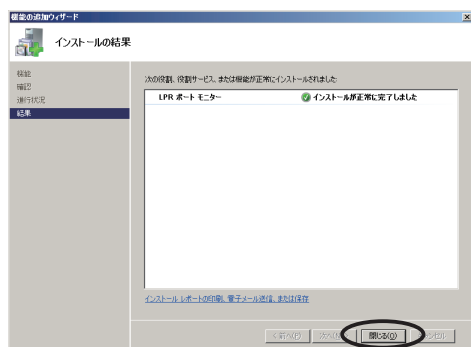
- (2) サーバーマネージャーの「機能の追加」をクリックします。



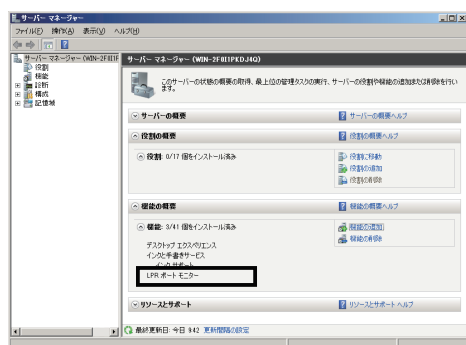
- (3) 「機能の追加ウィザード」の機能の追加にて「LPRポートモニター」のチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。



(4) 「インストール」 ボタンをクリックします。



(5) インストールが完了しました。「閉じる」 ボタンをクリックします。



(6) 以上で、LPR ポートモニターがインストールされました。

以上の手順で LPR プリント機能が有効になります。
実際に LPR プリントを行うには 3.12.1 ～ 3.12.3 の設定、印刷方法を参照してください。

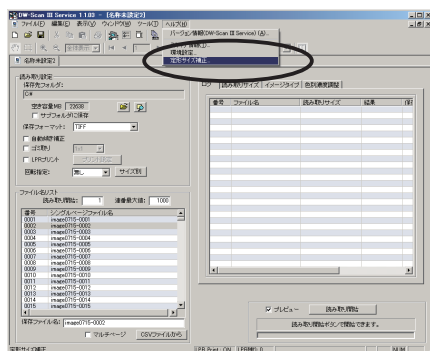
3.13 定形サイズ補正

定形サイズ補正の内容と操作方法について記述します。

3.13.1 定形サイズ補正が必要なとき

DW-Scan III Service で作成される定形サイズと違うサイズ（画素数）でイメージファイルを保存したい場合に指定します。

3.13.2 手順

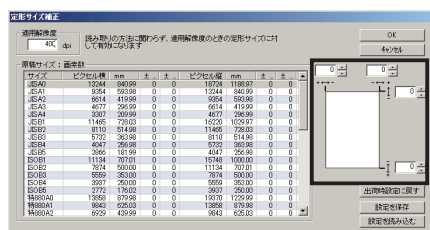


(1) ヘルプメニューから " 定形サイズ補正 " を選択します。

Note: ツールバーの定形サイズ補正ボタンでも同様の操作ができます。



(2) 定形サイズ補正ダイアログが表示されます。



適用解像度：

この欄で指定した解像度で拡大縮小率が 100% のときだけ補正が有効になります。詳細設定 (読み取りサイズ) パネルの解像度と一致している必要があります。

原稿サイズ 画素数リスト：

原稿サイズ別に補正した指定を一覧表示します。

画素数指定欄：

リストの中から選択した原稿サイズに対する上下端左右端を指定します。画素数で指定を行い、-100 から +100 まで指定できます。

出荷時設定に戻す：

インストール直後の状態に戻します。

設定を保存：

現在の定形サイズ補正設定をファイルとして書き出して保存します。

設定を読み込む：

過去に保存した定形サイズ補正設定を読み込んで適用します。

Note: 一度定形サイズ補正を行うと、以降にスキャンする全ての (ファイルフォーマットに関わらず) ファイルが補正した値でスキャンされます。

3.13.3 定形サイズと画素数（出荷時の設定）

DW-Scan III Service で作成される定形サイズ（出荷時の設定）は以下の通りです。

いずれも解像度が 400dpi のときの画素数で示しています。（各サイズは全て縦向きのものです。）

定形サイズ	画素数 (横)	寸法 mm(横)	画素数 (縦)	寸法 mm(縦)
JIS A0	13244	840.99	18724	1188.97
JIS A1	9354	593.98	13244	840.99
JIS A2	6614	419.99	9354	593.98
JIS A3	4677	296.99	6614	419.99
JIS A4	3307	209.99	4677	296.99
JIS B1	11465	728.03	16220	1029.97
JIS B2	8110	514.99	11465	728.03
JIS B3	5732	363.98	8110	514.99
JIS B4	4047	256.98	5732	363.98
JIS B5	2866	181.99	4047	256.98
ISO B1	11134	707.01	15748	1000.00
ISO B2	7874	500.00	11134	707.01
ISO B3	5559	353.00	7874	500.00
ISO B4	3937	250.00	5559	353.00
ISO B5	2772	176.02	3937	250.00
特 880A0	13858	879.98	19370	1230.00
特 880A1	9843	625.03	13858	879.98
特 880A2	6929	439.99	9843	625.03
特 880A3	4921	312.48	6929	439.99
特 880A4	3464	219.96	4921	312.48
特 870A0	13700	869.95	19527	1239.96
特 870A1	9763	619.95	13700	869.95
特 870A2	6866	435.99	9779	620.97
特 870A3	4897	310.96	6866	435.99
特 870A4	3433	218.00	4881	309.94
特 860A0	13543	859.98	19055	1209.99
特 860A1	9764	620.01	13717	871.03
特 860A2	6850	434.98	9764	620.01
特 860A3	4882	310.01	6850	434.98

定形サイズ	画素数 (横)	寸法 mm(横)	画素数 (縦)	寸法 mm(縦)
E-ANSI	13600	863.60	17600	1117.60
D-ANSI	8800	558.80	13600	863.60
C-ANSI	6800	431.80	8800	558.80
B-ANSI	4400	279.40	6800	431.80
A-ANSI	3400	215.90	4400	279.40
E-Arch	14400	914.40	19200	1219.20
D-Arch	9600	609.60	14400	914.40
C-Arch	7200	457.20	9600	609.60
B-Arch	4800	304.80	7200	457.20
A-Arch	3600	228.60	4800	304.80
E-Arch30	12000	762.00	16800	1066.80
D-Arch30	8400	533.40	12000	762.00
C-Arch30	6000	381.00	8400	533.40
B-Arch30	4200	266.70	6000	381.00

Note: 拡大縮小率が 100%以外のときは定形サイズ補正は機能しません。

Note: 24 ビットカラーでサイズの大きい読み取りの場合（例えば、600dpi A0 サイズの場合）、メモリが不足するために、定形サイズ補正が機能しない場合があります。この時、読み取った原稿は定形補正なしのサイズで保存されます。

3.14 ファイル名編集ツール

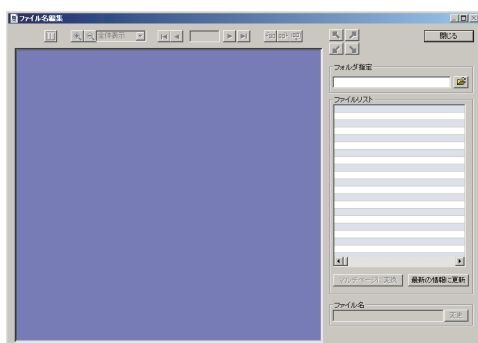
読み取り保存を行った後、画像を確認しながら TIFF/PDF/JPEG/XDW
ファイルの名前を編集する事ができます。

3.14.1 ファイル名編集ツールを開く

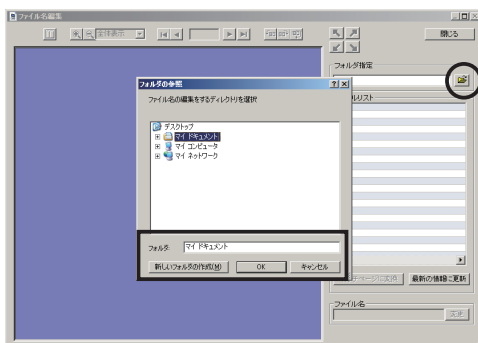


- (1) ツールメニューから "ファイル名編集ツール" を選択します。

Note: 画像ファイル表示している場合は、
画像ファイルを閉じてください。
表示している画像は、ファイル名編集
ツールで見ることができません。



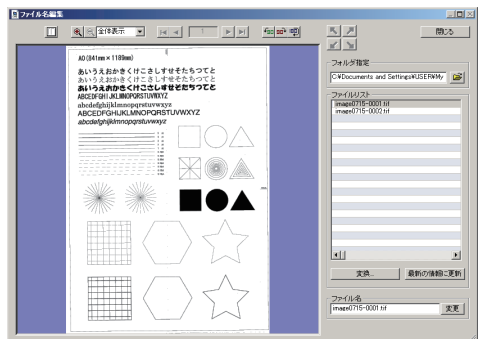
- (2) ファイル名編集ウィンドウが開きます。



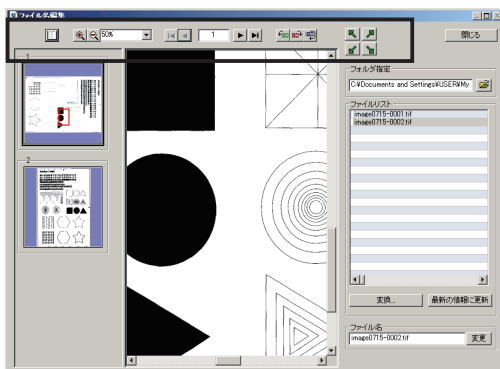
- (3) フォルダ指定ボタンをクリックして
ファイル名編集の対象となるフォルダ
を指定します。

Note: 初起動時以後は、前回使用したフォルダが指定されます。

Note: フォルダ指定欄にフォルダの場所を
直接入力して、Enter キーを押下する
ことでも指定できます。

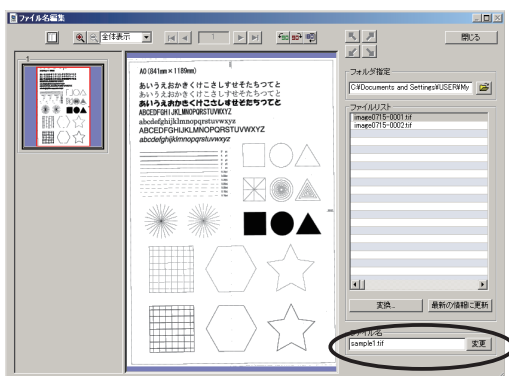


- (4) 指定したフォルダ内の TIFF/PDF/JPEG/
XDW ファイルをファイルリストに表
示し、プレビュー画面に画像が表示さ
れます。



- (5) 表示倍率・位置を指定して画像の表題欄を表示させることができます。複数ページのファイルの場合はページ移動を行えます。また、サムネイルを表示させることも可能です。

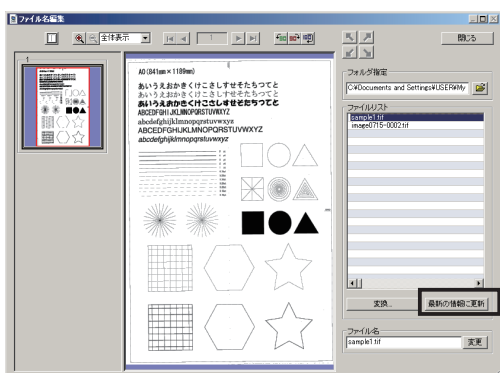
Note: 指定した表示倍率・位置は次の画像を表示するときにも適用されます。



- (6) ファイル名欄に変更したい新しいファイル名を入力して、" 変更 " ボタンをクリックします。

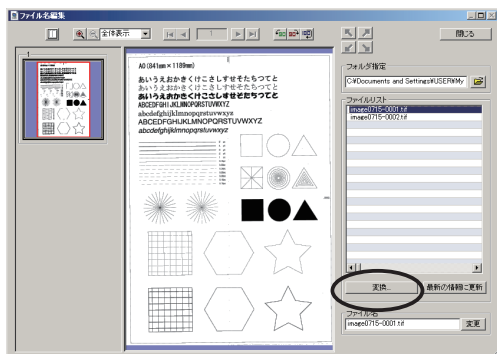
ファイル名の変更が行われて、次の画像が開いて表示されます。

Note: ファイル名を入力後、Enter キーを押下することでもファイル名の変更が行えます。



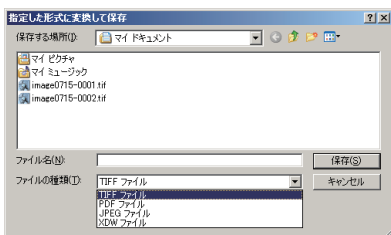
Note: ファイル名編集ツール起動中に、指定フォルダの内容を変更した場合 (ファイルの追加や削除等) は必ず " 最新の情報に更新 " ボタンをクリックしてファイルリストの表示を更新してください。更新せずに " 変更 " ボタンをクリックすると、保存できないことがあります。

3.14.2 ファイル名編集ツールを使ってファイル変換する



(1) 変換したい、ファイルリストのファイル名を選択します。

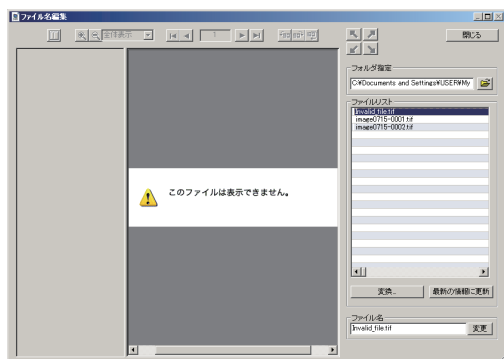
(2) "変換" ボタンをクリックします。



(3) ファイル名を入力し、ファイルの種類 (TIFF ファイル / PDF ファイル / JPEG ファイル / XDW ファイル) を選択してください。

Note: XDW ファイルに変換を行うには、DocuWorks が設置されている必要があります。

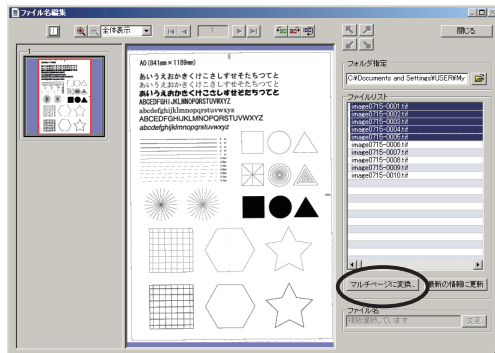
Note: DW-Scan III Service 以外で作成または保存された TIFF/PDF/JPEG/XDW ファイルは、表示及び他ファイルに変換する保証はできません。



Note: XDW ファイルに変換できる画像のサイズには制限があります。

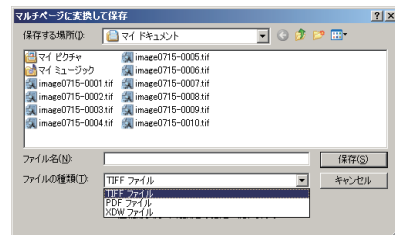
「5.1.13 XDW 形式を扱う場合の注意」を参照してください。

3.14.3 ファイル名編集ツールを使ってマルチページに変換する



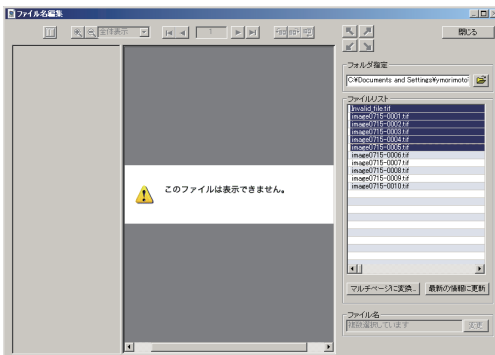
(1) マルチページにしたい、ファイルリストのファイル名を複数選択します。

Note: 複数選択を行う場合は、リスト上でクリックアンドドラッグを行うか、Shift キーを押しながら選択することで範囲選択が可能です。また、Ctrl キーを押しながらクリックすることで、個別に追加できます。



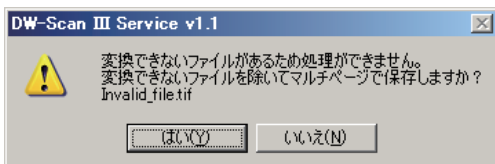
(2) "マルチページに変換" ボタンをクリックします。

(3) ファイル名を入力し、ファイルの種類 (TIFF ファイル / PDF ファイル / XDW ファイル) を選択してください。



Note: TIFF、PDF、XDW のファイルが混在していてもマルチページに変換することが可能です。グレイ多値、24 ビットカラー、JPEG 形式のファイルについては変換できません。

Note: DW-Scan III Service 以外で作成または保存された TIFF/PDF/XDW ファイルは、表示及び他ファイルに変換する保証はできません。



Note: 最大ページ数は、65535(XDW は 10000) ページ までです。

Note: 変換できない TIFF、PDF、XDW ファイルを混在させ、マルチページに変換を行った場合は、ダイアログが表示され、"はい" を選択すると、変換できないファイルを除く、選択されたファイルをマルチページに変換します。"いいえ" を選択した場合はマルチページ変換は行われません。

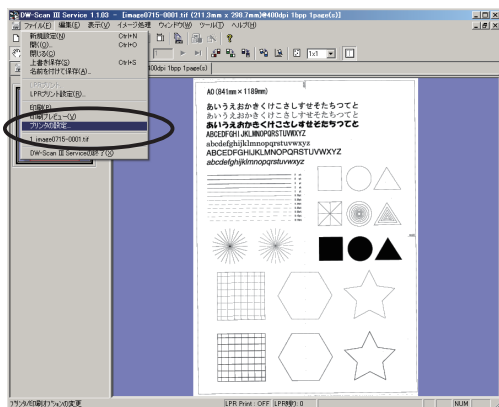
Note: XDW ファイルに変換できる画像のサイズには制限があります。
「5.1.13 XDW 形式を扱う場合の注意」を参照してください。

3.15 印刷

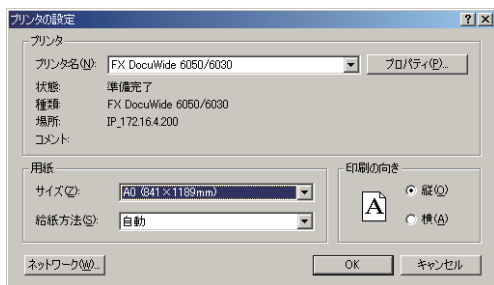
印刷の内容と操作方法について記述します。

3.15.1 プリンタの設定

印刷を使用するには、お使いになっている PC のプリンタ設定が必要です。お使いになるプリンタの取扱説明書などを参照して、プリンタを予め設定してください。



- (1) 印刷する TIFF/PDF/JPEG/XDW ファイルを開きファイルメニューの " プリンタの設定 " を選択します。

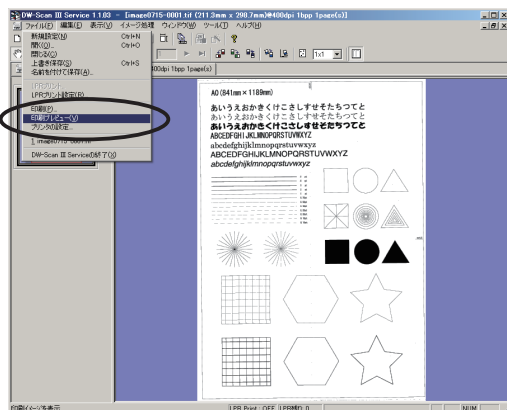


- (2) 用紙サイズ／印刷の向きなどを必要に応じて設定します。

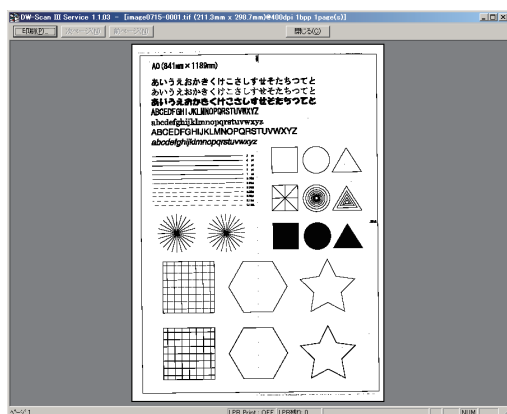
Note: 用紙サイズ / 印刷の向きの設定は保存され、次回印刷を行うときの既定値になります。

3.15.2 印刷プレビュー

印刷プレビューの操作について記述します。



- (1) 印刷する TIFF/PDF/JPEG/XDW ファイルを開きファイルメニューの "印刷プレビュー" を選択します。

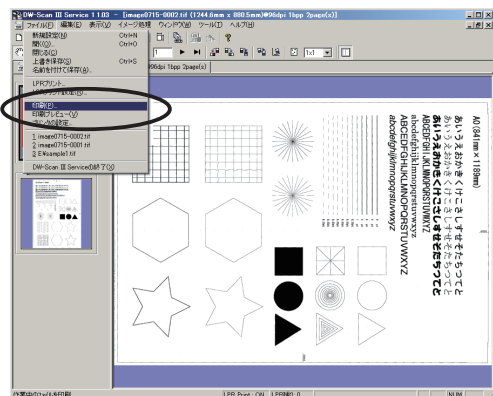


- (2) 印刷プレビューが表示されます。
"印刷" ボタンをクリックすると、印刷を行うことができます。

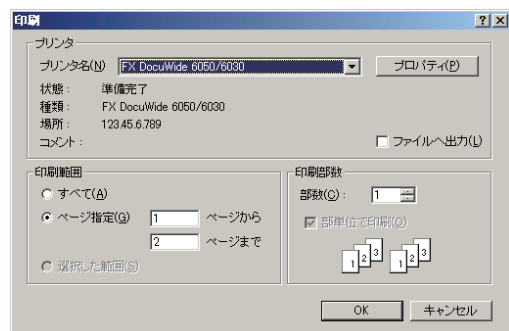
Note: 領域を指定している場合、その領域だけの印刷プレビューになります。
「3.15.4 指定した領域の印刷」を参照してください。

3.15.3 印刷の実行

印刷の操作について記述します。



- (1) 印刷する TIFF/PDF/JPEG/XDW ファイルを開きファイルメニューの "印刷" を選択します。



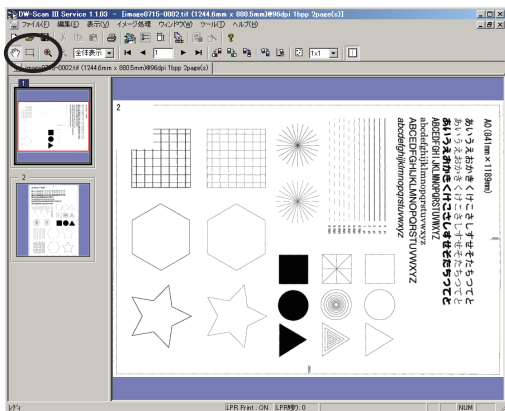
- (2) 印刷の設定を行います。
マルチページの場合は、印刷するページを選択することもできます。
"OK" ボタンをクリックすると、プリンタに印刷されます。

Note: 用紙サイズに合わせて自動的に拡大縮小されます。

Note: 縦横の比率が合わない場合、最適なサイズで縮小され、用紙中央に印刷されます。(どのように印刷されるかは、印刷プレビューで確認できます)

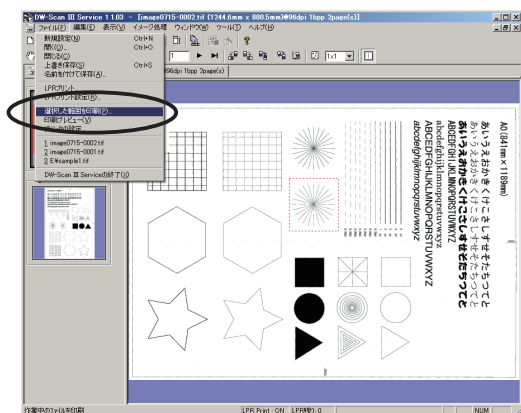
3.15.4 指定した領域の印刷

領域選択ツールで矩形領域を指定すると、その領域だけを印刷することができます。



(1) 印刷する TIFF/PDF/JPEG/XDW ファイルを開きます。

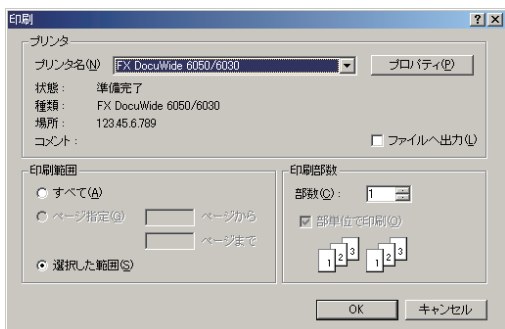
(2) 領域選択ツールに切り替えて、印刷したい領域を選択します。



(3) ファイルメニューから "指定した範囲を印刷" を選択します。

Note: 領域が指定されているときは、"印刷" のメニュー表示になりません。

(4) 印刷の設定を行います。"OK" ボタンをクリックすると、プリンタに印刷されます。



Note: "すべて" を指定した場合は、そのページ全体が印刷されます。

Note: 領域を指定している場合は、指定した領域を用紙サイズに合わせて自動的に拡大縮小します。（どのように印刷されるかは、印刷プレビューで確認できます）

第 4 章 エラーメッセージ

- 4.1 エラーメッセージ一覧
- 4.2 ログファイル

4.1 エラーメッセージ一覧

4.1.1 起動時・設定ファイルを開いたとき

- ◆ LPR プリントが設定されています。LPR プリントを開始しますか。

[対処]

以前に LPR プリントの設定が行われています。LPR プリントを使用するのであれば、LPR サーバーが正しく稼働しているかどうか確認後、"はい" のボタンをクリックしてください。

LPR プリントを使用しないのであれば、"いいえ" のボタンをクリックします。再び LPR プリントを使用する場合は、ファイルメニューの LPR プリントの設定で "LPR プリントを行う" をチェックすれば、開始することができます。

- ◆ データ実行防止機能 (DEP) などの理由で DW-Scan III Service を起動することができません。

起動可能にするには、データ実行防止機能の監視対象から DW-Scan III Service を外すように設定してください。

[対処]

データ実行防止機能 (DEP) が有効になっています。

"2.2 データ実行防止機能 (DEP) への対応" を参照し、設定を行ってください。

4.1.2 読み取り

- ◆ スキャナが接続されていないか、他のアプリケーションで使用中です。

[対処]

(1) DocuScan C1500 / DocuWide 6055 の電源が投入されているかどうか確認してください。

(2) DocuScan C1500 / DocuWide 6055 が立ち上げ起動中でないか確認し、コピー可能になるまで待ってください。

(3) USB ケーブルの接続が正しいかどうか確認してください。

正しく接続されていたのに、スキャナが認識されない場合は、別の USB ポートに接続してください。スキャナドライバのインストールが始まった場合は、デバイスドライバのインストールを行ってください。

(4) 他のアプリケーションで使われていないか確認して下さい。

- ◆コンパネのメニュースイッチを押して下さい。読み取りを開始しますか？

[対処]

DocuWide6055 のコンパネにある " メニュー " スwitchを押して、初期画面に戻して下さい。
コピーなどのモードにしているときは、読み取りを開始することができません。

- ◆節電中を解除して下さい。読み取りを開始しますか？

[対処]

DocuWide6055 のコンパネにある " 節電解除 " スwitchを押して下さい。
節電中になっているときは、読み取りを開始することができません。

- ◆保存先の空き容量が少ないため読み取り開始できません。

[対処]

読み取り開始するためには、保存先の空き容量が 512KB 以上必要です。不要なファイルを削除するか、保存先を変更してください。

- ◆スキャナの読み取り部に原稿が詰まっているか、スキャナのカバーが開けられました。
詰まっている原稿を取り除いてから操作してください。読み取りを続けますか？

[対処]

DocuScan C1500 / DocuWide 6055 の読み取り部の原稿を取り除いてから、" はい " をクリックすると読み取りを再開します。" いいえ " をクリックすると読み取りを終了します。
原稿詰まり等が発生していないのにメッセージが表示された場合は、スタンプ転送ツールがスキャナデバイスに接続されている可能性があります。

- ◆読み取るためのメモリが足りません。次の原稿を読み込みますか。

[対処]

メモリの空き容量が不足しています。不要なアプリケーションがあれば終了させてください。"はい"をクリックするとそのファイルの保存は行わず、次の読み取りから再開します。"いいえ"をクリックすると読み取りを終了します。

- ◆保存に失敗しました、保存先の空き容量が不足しています。

[対処]

保存先のディスクの空き容量が不足しています。不要なファイルを削除するか、保存先を変更してください。

- ◆"XXX"をビュー確認するためのメモリが足りません。

[対処]

メモリの空き容量が不足しています。不要なアプリケーションがあれば終了させてください。その読み取りのビュー確認無しで読み取りを続行します。

- ◆ファイル "XXX" はすでに存在します。上書きしてよろしいですか。

[対処]

読み取り保存するとき、指定したファイル名と同名のファイルが既に存在します。"はい"をクリックすると上書き保存されます。"いいえ"をクリックすると読み取ったイメージは保存されません。

- ◆ファイル "XXX" はすでに存在します。
読み取り中に保存した同名のファイル名で保存できません。

[対処]

読み取り開始から終了までの間、読み取ったファイルは他のシステムとの競合防止のためロックされます。ロックされたファイルと同じ名前で保存することはできません。別の名前を指定して保存してください。

4.1.3 その他

◆スキャナが異常です。確認してください。

[対処]

- (1) DW-Scan III Service の原稿読み取りを中止してください。
- (2) DocuScan C1500 / DocuWide 6055 を起動し直してください。
- (3) DW-Scan III Service の原稿読み取りを再開してください。

◆編集に必要なディスクの空き容量が足りません。

[対処]

複数ページの編集は、一時ファイルを作成するために Windows がインストールされているハードディスクの空き容量が必要になります。不要なファイルを削除して、ハードディスクの空き容量が、編集を行っている TIFF/PDF/JPEG/XDW ファイルの 2 倍以上あるようにしてください。

◆ファイルを開くために必要なメモリが不足しています。
他のアプリケーションを終了させてください。

[対処]

保存したファイルを開くために必要なメモリの空き容量が不足しています。不要なアプリケーションがあれば終了させてください。

◆画像を編集するためのメモリが不足しています。

[対処]

画像処理や編集を行うために必要なメモリの空き容量が不足しています。不要なアプリケーションがあれば終了させてください。
400dpi A0 サイズ以上の 24 ビットカラー画像を回転させる際には、PC に少なくとも 2GB 以上のメモリを搭載する必要があります。

4.2 ログファイル

DW-Scan III Service が作成するログファイルについて記述します。

4.2.1 ジョブログ

設定ウィンドウのログ表示と同様のものがテキストファイル形式で保存されます。読み取り終了または読み取り一時中止する度に設定ウィンドウで指定した保存先フォルダに " 設定ファイル名 +.log " の名前のファイルを作成します。

Note: 設定ウィンドウを閉じてしまったり、DW-Scan III Service を終了させてしまった場合でもこのログをメモ帳などで開けば先ほどの作業結果や保存された TIFF ファイルの名前などを確認することができます。

Note: インストール直後はログファイルを作成しない指定になっています。指定の方法については 3.11.2 環境設定（ログファイルの作成）を参照してください。

4.2.2 作業履歴ログ

原稿を読み取りする度にその作業履歴が保存されます。通常は内容を確認する必要はありませんが、トラブル発生時の解決や発生原因などを調べるために使用します。

作業履歴ログは、使用している OS 別で、下記フォルダに "joblog1.log" と "joblog2.log" の名前で保存されています。

- Windows XP / Windows Server 2003 R2 の場合
C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\
YouthEngineering\DW-Scan III Service1.0\log
- Windows Vista / Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows
Server 2008 R2 の場合
C:\ProgramData\YouthEngineering\DW-Scan III Service1.0\log

第 5 章 注意 / 制限事項

5.1 注意 / 制限事項

5.1 注意 / 制限事項

5.1.1 最大読み取り長について

イメージタイプ・解像度の設定によって読み取り可能な最大長が変化します。

白黒 2 値・白黒擬似階調

15,000mm 以内

グレイ多値

65,500 画素以内かつ 15,000mm 以内

24 ビットカラー

65,500 画素以内かつ 7,500mm 以内

イメージタイプがグレイ多値または 24 ビットカラーで、倍率 100% の場合、主な解像度における最大読み取り長は、次の通りです。

解像度	グレイ多値	24 ビットカラー
600dpi	2,772mm	2,772mm
400dpi	4,159mm	4,159mm
200dpi	8,318mm	7,500mm

読み取りサイズ設定で「自動判定（シンクロ）」を指定した場合、読み取り可能な最大長を超えるデータは作成されません。「任意サイズ指定」の場合、読み取り可能な最大長を超える長さを設定できません。

※ファイルフォーマット・圧縮形式によっては、メモリ不足により最大読み取り長以内であっても保存できないことがあります。

5.1.2 フォルダ・ファイル名の長さ

DW-Scan III Service で使用できるファイル名の長さは 256 文字以内です。

Windows では、ファイル名の長さが 256 文字まで使用可能ですが、そのファイルの置かれるフォルダによって、使用可能な長さが変わります。

例えば、"C:\sample\test" というフォルダの中では指定できるファイル名の長さは $256 - 14$ （フォルダ名の長さ） $= 242$ になります。

ここに 242 文字のファイル名を持つファイルを置いた場合、11 文字 "sample\test" より長い名前のフォルダにはそのファイルを移動できません。また "C:\sample\test" というフォルダは、242 文字のファイルが入っている限り、他の階層下のサブフォルダにも移動できません。

運用される時に幾つものフォルダに階層化してファイルを保存していくときは、フォルダ名やファイル名の長さをなるべく短いもので作成することをお勧めします。

5.1.3 自動傾き補正

自動傾き補正は、端から上下左右 50mm の範囲に枠線のある原稿が対象です。

枠線のない図面や、写真画像等の原稿は、手動で行ってください。

自動傾き補正可能な範囲は、最小 0.063 度、最大 4.30 度です。

-0.063 ～ +0.063 度以下の時、-4.30 ～ +4.30 度以上の時は手動で行ってください。

自動傾き補正可能な画像のサイズは横 65,500 画素以内のものに限られます。これは 400dpi 換算で横が 4,159mm (3.5A0) になります。600dpi 換算では、横が 2,772mm (2.3A0) になります。

※グレイ多値、24 ビットカラー及び JPEG ファイルは自動傾き補正できません。また、他のアプリケーションで作成または保存された TIFF/PDF/XDW ファイルの表示及び自動傾き補正は、できない場合があります。

※ネガポジ反転を行い、枠が白線になっている場合は正常に自動傾き補正を行えない場合があります。その場合も手動で行ってください。

5.1.4 ゴミ取り

ゴミ取り可能な画像のサイズは横 65,500 画素以内のものに限られます。これは 400dpi 換算で横が 4,159mm (3.5A0) になります。600dpi 換算では、横が 2,772mm (2.3A0) になります。

※グレイ多値、24 ビットカラー及び JPEG ファイルはゴミ取りできません。また、他のアプリケーションで作成または保存された TIFF/PDF/XDW ファイルの表示及びゴミ取りは、できない場合があります。

※ネガポジ反転を行った画像については、ネガポジ反転後の黒い点をゴミと見なし、ゴミ取りを行います。

5.1.5 画像の編集

画像の編集（切り取り / コピー / 貼り付け）は白黒 2 値のときに有効です。
画像の編集を行うときは、以下に示す利用可能な空きメモリ（Windows の利用可能なメモリ）が必要です。

原稿サイズ	400dpi	600dpi
A0	60 MB	135 MB
A1	30 MB	67.5MB
A2	15 MB	33.8MB
A3	7.5MB	16.9MB
A4	3.8MB	8.5MB

また、広い領域をコピー・貼り付けを行うためには、上記の 1/2 ほどのメモリがさらに必要になることがあります。

※グレー多値、24 ビットカラー及び JPEG ファイルは編集できません。
また、他のアプリケーションで作成または保存された TIFF/PDF/XDW ファイルの表示及び編集は、できない場合があります。

5.1.6 画像の回転

右へ 90 度 / 左へ 90 度回転は、回転後の横画素が 65500 画素以内のものに限られます。これは 400dpi 換算で横が 4,159mm (3.5A0) になります。600dpi 換算では、横が 2,772mm (2.3A0) になります。

またグレイ多値、24 ビットカラーの回転処理を行う場合、画像メモリサイズの 2 倍の空きメモリがないと、回転処理に時間がかかったり、回転できない場合があります。

各原稿サイズに対する画像メモリサイズは、およそ以下の通りです。

400dpi のとき

原稿サイズ	白黒 2 値	グレイ多値	24 ビットカラー
A0	30 MB	240 MB	720 MB
A1	15 MB	120 MB	360 MB
A2	7.5MB	60 MB	180 MB
A3	3.8MB	30 MB	90 MB
A4	1.9MB	15 MB	45 MB

※ 400dpi の A0 サイズ、24 ビットカラーの画像を回転するには、PC に少なくとも 2GB 以上のメモリを搭載することが必要となります。

600dpi のとき

原稿サイズ	白黒 2 値	グレイ多値	24 ビットカラー
A0	67.5MB	540 MB	1600 MB
A1	33.8MB	270 MB	800 MB
A2	16.9MB	135 MB	400 MB
A3	8.5MB	67.5MB	200 MB
A4	4.2MB	33.7MB	100 MB

※ 600dpi の A0 サイズ、24 ビットカラーの画像を回転するには、PC に少なくとも 4GB 以上のメモリを搭載することが必要となります。

※ 32bit OS の場合、利用可能な空きメモリは最大 2GB のため、回転可能な画像メモリサイズも最大 1GB となります。

但し、他のアプリケーションがメモリを使用している場合は、利用可能な空きメモリも小さくなります。

※他のアプリケーションで作成または保存された TIFF/PDF/JPEG/XDW ファイルの表示及び回転は、できない場合があります。

5.1.7 自動傾き補正・手動傾き補正の画質

自動傾き補正・手動傾き補正を行った場合、処理は移動元から移動先への座標変換を行います。デジタルデータであるため座標変換には誤差が発生する可能性があります。この誤差が要因となって画像に乱れが発生し、回転後の直線等が波打つような画質になることがあります。

5.1.8 プレビューにおける制限のまとめ

読み取り後のプレビュー中に画像の編集や回転を行うことができますが、その場合に必要な PC の空きメモリは、およそ以下の通りです。

400dpi のとき

原稿サイズ	白黒 2 値	グレイ多値	24 ビットカラー
A0	60 MB	480 MB	1440 MB
A1	30 MB	240 MB	720 MB
A2	15 MB	120 MB	360 MB
A3	7.5MB	60 MB	180 MB
A4	3.8MB	30 MB	90 MB

600dpi のとき

原稿サイズ	白黒 2 値	グレイ多値	24 ビットカラー
A0	135 MB	1080 MB	3200 MB
A1	67.5MB	540 MB	1600 MB
A2	33.8MB	270 MB	800 MB
A3	16.9MB	135 MB	400 MB
A4	8.5MB	67.5MB	200 MB

読み取りの確認だけをするときは、保存した画像ファイルサイズの 2 倍程度、空きメモリがあればプレビューを行うことができます。

※一般的に緻密な原稿ほど画像ファイルのサイズは大きくなり、その分プレビューに必要な空きメモリも大きくなります。また、画面に表示するために画像中の細かなノイズを除去等、画像処理を行うため、より多くのメモリが必要になります。

※右へ 90 度 / 左へ 90 度回転は、回転後の横画素が 65,500 画素以内のものに限られます。これは 400dpi 換算で横が 4,159mm (3.5A0) になります。600dpi 換算では、横が 2,772mm (2.3A0) になります。

※グレイ多値、24 ビットカラー及び JPEG ファイルは編集できません。

5.1.9 保存先

保存先に MO などのリムーバブルメディアは使用できません。

5.1.10 LPR プリントが行えない場合

LPR プリントが行えない場合は、LPR 設定のサーバー名 (IP) とプリントキューを確認してください。正しく設定されていないと LPR プリントを行えません。

また、ご使用の OS が Windows Vista / Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 の場合、OS の設定が行われていない可能性があります。3.12.4 ～ 3.12.6 を参照して設定を行ってください。

5.1.11 LPR プリントのサイズ別振り分けについて

LPR プリントが有効で、更にサイズ別振り分けが有効の場合、読み取りサイズの短い辺を基準に振り分けが行われます。

振り分けは以下の幅判定で行われ、振り分け設定の部数が 1 以上なら LPR プリントが行われます。

短い辺の幅		振り分け設定
A0 以上	――>	A0 指定
A1 以上 A0 未満	――>	A1 指定
A2 以上 A1 未満	――>	A2 指定
A3 以上 A2 未満	――>	A3 指定
A4 以上 A3 未満	――>	A4 指定
A4 未満	――>	A4 指定

サイズ別振り分けなしの場合は、全て LPR プリントが行われます。

5.1.12 MS-DOS デバイス名

MS-DOS デバイス名 (con、aux、prn、clock\$、lpt1 ～ 9、com1 ～ 9、nul) はファイル名として使用できません。

指定を行った場合は「指定されたファイル名は、MS-DOS デバイス名です。MS-DOS デバイス名は、予約語であり、ファイル名として使用できません。」とエラーメッセージが表示され保存を行う事ができません。

また、CSV ファイルからファイル名の指定を行った時、MS-DOS デバイス名が含まれている場合は、以下の様に「image-」が付加されファイル名が生成されます。

CSV ファイル	ファイル名リスト
con	image-con
aux	image-aux
prn	image-prn
clock\$	image-clock\$
lpt1	image-lpt1
com1	image-com1
nul	image-nul

5.1.13 XDW 形式を扱う場合の注意

XDW 形式で保存、表示、編集を行うには、DocuWorks Ver.6.0 以上の設置が必要です。また XDW 形式のファイルには、以下の制限があります。

①設置されている DocuWorks のバージョンと環境設定によって、XDW 形式での制限が異なります。

Ver.6.x、Ver. 7.x（「DocuWorks6.0 互換形式で保存する」が ON）の場合
・ A3 サイズ (297mm × 420mm) を越えるサイズの保存を行った場合は、DocuWorks で表示を行うと以下のように縮小されます。

定形サイズ

A3 サイズ (297mm × 420mm) を越えるサイズは A3 サイズに縮小されます。

< 例 >

- ・ A0/A1/A2 → A3 に縮小
- ・ A3/A4 → 縮小なし

シンクロ

縦、横の縮比率を保持したまま、A3 サイズに収まるように縮小されます。

< 例 >

- ・ 2A0(841mm × 2378mm) → 148.5mm × 420mm

任意サイズ

指定サイズの短辺が 297mm を越えた場合、縦横の縮比率を保持したまま 297mm に収まるように縮小されます。

さらに長辺が 420mm を越えている場合は、さらに縦横の縮比率を保持したまま 420mm に収まるように縮小されます。

< 例 >

- ・ 1 辺が 297mm を越える正方形 → 297mm × 297mm
- ・ 300mm × 500mm → 252mm × 420mm

・ 変換元のイメージファイルサイズが 50MB を超える場合は、XDW ファイルを作成できません。

・ 縦または横のサイズが 65500 ピクセルよりも大きい場合、XDW ファイルは作成できません。

・ A3 サイズに縮小を行う際、縦横いずれかの縮小率が 8% 以下になる場合は XDW 形式で保存できません。

Ver. 7.x (「DocuWorks6.0 互換形式で保存する」が OFF) の場合

- ・ 2A0 サイズ (841mm × 2378mm) を越えるサイズの保存を行った場合は、DocuWorks で表示を行うと以下のように縮小されます。

定形サイズ

2A0(841mm × 2378mm) に収まるサイズまで、縮小されます。

設定によって、Ver 6.x と同様に、A3 より大きいサイズを A3 に収まるように縮小することもできます。詳細は "3.11.4 環境設定 (保存ファイルフォーマット)" を参照してください。

シンクロ

縦、横の縮拡大比を保持したまま、2A0 サイズに収まるように縮小されます。

任意サイズ

指定サイズの短辺が 2400mm を越えた場合、縦横の縮拡大比を保持したまま 2400mm に収まるように縮小されます。

さらに長辺が 2400mm を越えている場合は、さらに縦横の縮拡大比を保持したまま 2400mm に収まるように縮小されます。

- ・変換元のイメージファイルサイズが 1GB を超える場合は、XDW ファイルを作成できません。

- ・縦または横のサイズが 65500 ピクセルよりも大きい場合、XDW ファイルは作成できません。

制限	Ver.6.x	Ver.7.x
定形最大サイズ	A3 サイズに収まるサイズ (279mm × 420mm)	2A0 サイズに収まるサイズ (841mm × 2378mm)
非定形最小サイズ	30mm × 30mm	30mm × 30mm
非定形最大サイズ	500mm × 500mm	2400mm × 2400mm

※ DW-Scan III Service にて表示する場合は、元の状態で表示されます。

② DW-Scan III Service 以外のアプリケーションを使用して作成または保存した XDW ファイルの表示・編集は、保証できません。

③ DW-Scan III Service にて定形サイズでスキャンした XDW ファイルは、サイズによっては DocuWorks で定形と認識するサイズより若干大きくなっています。(誤差範囲 0.5mm 前後) そのためサイズ表示が定形サイズ表記にならない場合があります。

④ XDW 形式のファイルで作成可能なマルチページファイルの最大ページ数は 10000 ページまでです。

⑤ Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 で XDW 形式を扱う場合は、対応したバージョンの DocuWorks をご使用ください。

5.1.14 PDF/XDW マルチページ作成時の注意事項

PDF/XDW 形式のマルチページファイルを保存する場合は、ページごとに TIFF ファイルを保存し、" 読み取り中止 " ボタンを押すと PDF/XDW マルチページへ変換が行われるようになっています。そのため、以下の空き容量が必要です。

- Windows ディスクに保存するデータファイルサイズの 3 倍以上
- 保存先ディスクに保存するデータファイルサイズの 3 倍以上
- Windows ディスクと保存先が同じ場合は、保存するデータファイルサイズの 6 倍以上

読み取り中または、PDF/XDW マルチページ変換中にアプリケーションエラーなどで不正終了した場合は保存先「MULTIPAGETEMP」フォルダ内に、ページごとの TIFF ファイルが保存されています。この TIFF ファイルを、ファイル名編集ツールを使用して PDF/XDW マルチページに変換してください。

「Windows ディスク空き容量、または保存先ディスク空き容量が足りません。...」というメッセージが出た場合は、読み取りを中止してから、容量を確保してください。

このメッセージが表示された時に、読み込んだページは保存できません。

また、エクスプローラーのサムネイル表示と競合し、保存に失敗する場合があります。詳しくは「5.1.23 ファイル保存処理とサムネイル表示処理の競合」を参照してください。

5.1.15 連番最大値を超える読み取り

連番最大値を超えて読み取りを行うと、アプリケーションがスキャナを停止するようになっていますが、「前の原稿を転送中」、「エラーダイアログ表示中」または、「プレビュー表示中」に連番最大値を超えてしまった場合は、スキャナを停止することができないため、連番最大値を超えて読み取られる事がありますが連番最大値を超えて読み取ったデータは保存されません。

読み取る原稿の枚数と連番最大値を確認の上、読み取りを開始してください。

5.1.16 CSV ファイルからファイル名を指定する際の注意事項

CSV ファイルに「.tif」が含まれていると、列確認ダイアログが表示され、1 行目にあるファイル名の中に「.tif」が含まれている最初の列を選択するようになっていきます。（「.pdf」「.xdw」「.jpg」では、このようになりません。）

ファイルフォーマットの拡張子「.tif/.tiff」「.pdf」「.xdw」「.jpg/.jpeg」が CSV ファイルに記載されていた場合、CSV ファイル読み込み時に拡張子部分が削除されます。

設定ファイルのファイル名リストには「.tif」「.pdf」「.xdw」「.jpg」は表示されません。

画像ファイルの保存フォーマット（「.tif」「.pdf」「.xdw」「.jpg」）を CSV ファイルで指定することはできません。指定された保存フォーマットに応じて、拡張子は付与されます。

設定ウィンドウもしくは、環境設定で設定を行ってください。

5.1.17 白黒擬似階調を扱う場合の注意事項

原稿を白黒擬似階調で読み取った場合、画像に斑点のような模様が入ることがあります。

原稿全体に斑点のような模様があった場合、画面に表示するために、画像中の細かなノイズを除去する等、画像処理を行うため、より多くのメモリが必要になります。そのため、例えば 600dpi で A0 サイズを超える大きな原稿を白黒擬似階調で読み取った時に、原稿全体に斑点のような模様が入っていた場合、読み取り後のプレビューを行えない場合や、編集や回転等画像処理が行えない場合があります。

5.1.18 定形サイズ補正を行う場合の注意事項

定形サイズ補正の解像度と読み取り時の解像度が等しくないときや、読み取り時の拡大縮小率が 100%以外のときは定形サイズ補正は機能しません。

24 ビットカラーでサイズの大きい読み取りの場合（例えば 600dpi、A0 サイズの場合）、メモリが不足するために、定形サイズ補正が機能しない場合があります。

この時、読み取った原稿は定形補正なしのサイズで保存されます。

5.1.19 スキャナデバイスが認識されない場合

スキャン読み込み中、プレビュー中に、以下の様な状態が発生した場合、スキャナデバイスを認識できなくなる場合があります。

- (1) Windows の「システムスタンバイ」及び「スリープ」の使用
DW-Scan III Service を使用する際は、Windows の「システムスタンバイ」及び「スリープ」を使用しないでください。
- (2) USB ケーブルが抜けてしまった場合
- (3) DocuScan C1500 / DocuWide 6055 の電源断が発生した場合

スキャナデバイスを認識できなくなった場合、

「スキャナが異常です。確認してください。」

「スキャナが接続されていないか、他のアプリケーションで使用中です。」

等のメッセージが表示され、以降、原稿の読み取りが行えません。

DW-Scan III Service を終了し、Windows を再起動し、DocuScan C1500 / DocuWide 6055 を再起動してから、DW-Scan III Service を再開してください。

5.1.20 メモリ不足が発生する場合

以下の場合、メモリが断片化され、アプリケーションで利用可能なメモリが不足します。

- 画像ファイルを繰り返し開いたり閉じたりした場合
- 画像ファイルの編集等を繰り返した場合
- 画像ファイルをプリンタに印刷した場合
- 画像ファイルのファイルフォーマットを変換した場合

メモリが不足すると、開くことができていた画像ファイルを開くことができなくなったり、画像の編集が行えなくなったり、印刷プレビューや印刷ができなくなることがあります。

一旦、DW-Scan III Service を終了して、再度起動することで、メモリ不足状態が改善され、希望する処理が行えるようになります。

※画像ファイルのサイズ・解像度・ファイルフォーマット・圧縮形式によっては、上記の操作を行っていないに関わらず、メモリが不足することもあります。

5.1.21 64bit OS で使用する場合

一般的に 64bit OS では、32bit OS と比べ大容量のメモリ空間が利用可能です。

例えば Windows Vista Ultimate / Business の場合、実装可能な最大メモリは 32bit OS では 4GB ですが、64bit OS では 128GB です。

しかし、DW-Scan III Service を対応する 64bit OS で使用する場合、DW-Scan III Service は WOW64 (Windows-On-Windows 64) 上で動作するため、アプリケーションで利用可能なメモリの上限は 32bit OS と同程度の制限を受けます。

そのため大容量のメモリを実装していても、メモリ不足が発生し、画像表示、画像処理や印刷等が機能しない場合があります。

5.1.22 アップデートインストールする場合の注意事項

(1) アップデートインストールの実行

システム管理者の権限で、DW-Scan III Service のアップデートインストーラ "DW-Scan3_1_1_03_Update_JP.exe" を実行します。

DW-Scan III Service のインストール方法については、"2-1 インストールの方法" を参照してください。

パソコンや OS の変更により、以前のバージョンがインストールされていない PC にインストールする場合、シリアル番号の入力が必要になります。シリアル番号は、以前のバージョンと同じ値を入力してください。

(2) オプション製品「CSV 連携 KIT」について

DW-Scan III Service のオプション商品である「CSV 連携 KIT」のバージョンが Ver.1.0 の場合、DW-Scan III Service Ver.1.1 との連携が出来ません。DW-Scan III Service Ver.1.1 の環境下で「CSV 連携 KIT」をご使用になる場合は、必ず「CSV 連携 KIT」も Ver.1.1 にしてください。

また、以前のバージョンで作成したスキャン進捗情報ファイル、ラベル、テンプレートを継続して利用する場合、アンインストール時に手動で以下のフォルダを削除しないでください。

- Windows XP / Windows Server 2003 R2 の場合

"C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\
YouthEngineering\DW-Scan III Service1.0\log"

- Windows Vista / Windows 7 / Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 の場合

"C:\ProgramData\YouthEngineering\DW-Scan III Service1.0\log"

5.1.23 ファイル保存処理とサムネイル表示処理の競合

保存先のフォルダをエクスプローラーで開いている状態で、かつ、ファイルのサムネイルや詳細表示が行われている場合、画像ファイルの保存を行うと、保存に時間がかかったり、保存に失敗する場合があります。この現象は、エクスプローラーが実行するサムネイルのキャッシュ作成処理と DW-Scan III Service が行う保存処理が競合することが原因で発生します。

サムネイルのキャッシュ作成はエクスプローラーから行われますが、ファイルに含まれる縮小版表示の画像を抽出する際に予期しない変更による問題を防止するために、他のプロセスからのファイルの更新および削除を禁止した状態でファイルを開きます。

そのため、エクスプローラーがサムネイルを作成中に、DW-Scan III Service が、作業用の一時フォルダやファイルの操作や、保存するファイルの更新処理を行うと、一時フォルダやファイルの削除ができなかったり、更新しようとしたファイルの保存に失敗する場合があります。

PDF/XDW 形式のマルチページファイルを保存する場合、保存先のフォルダ内に「MULTIPAGETEMP」フォルダを作成してその中に、ページごとの TIFF ファイルを作成するため、エクスプローラのサムネイル表示との競合が発生しやすくなります。

ファイルを読み取り保存する場合や、ビューワにて編集後保存する場合、サムネイル表示との競合を防ぐため、保存先のフォルダをエクスプローラーでサムネイル表示しないよう変更してください。

- ・[詳細]ウィンドウや[プレビュー]ウィンドウに、保存を行うファイルの詳細を表示中のまましないこと。
- ・"中アイコン"、"大アイコン"など、アイコン表示を指定しないこと。
- ・"縮小版"、"並べて表示"または"コンテンツ"表示を行わないこと。

※ Windows Vista / Windows 7 では、デスクトップは既定でアイコン表示になるため、上記の変更による対応は行えません。

また、エクスプローラ以外のサムネイル表示を行うビューワを起動して保存先フォルダを表示している場合でも、同様にファイルのサムネイル表示と保存処理が競合し、正常に保存できないことがあります。

索引

数字

180度回転	63
2値化しきい値	43
24ビットカラー	2,42
32bit OS	118,127
64bit OS	127

アルファベット

A

Administrator	8,27
---------------------	------

C

CSVファイル	71,73,125,126,127
CSV連携設定	77
CSV連携KIT	21,73,77,128

D

DEP機能	22
DocuScan C1500	2,4,8,13,32,108,109,111
DocuWide 6055	2,4,8,13,32,108,109,111
DocuWorks	2,3,4,35,81,100,122,123,124
DocuWorks6.0互換形式で保存する	81
DW-Scan III Service	1,2,4
DW-Scan III Serviceの起動	32
DW-Scan III Serviceの終了	33

G

Group 3 FAX	81
Group 3 Modified Huffman	81
Group 4 FAX	81

J

JPEG	2,35
------------	------

L

LPRステータス	37
LPRプリント	3,35,88,89,90,91,92,93,120
LZW	81

M

MS-DOSデバイス名	121
-------------------	-----

P

Pack Bits	81
PDF	2,35,124

R

RLE	81
-----------	----

T

TIFF	2,35
TWAIN	37

W

Windows 7	5,92
Windows Server 2003 R2	6
Windows Server 2008	6,27,93
Windows Server 2008 R2	6,27,93
Windows Vista	5,91,127
Windows XP	5
Windowsロゴの認定テスト	11,14
WOW64	127

X

XDW	2,35,122,124
-----------	--------------

かな

あ

アンインストール	17,19
圧縮なし	81
圧縮形式対応表	81
青焼き原稿	42

い

イメージタイプ	42
イメージタイプパネル	42
インクと手書きサービス	28
インストール	8,13
インテル形式	80
印画紙写真	42
印刷	102
印刷の実行	104
印刷プレビュー	103
印刷写真	42
色別濃度指定	44
色別濃度調整パネル	44

え

エイリアス名	88
--------------	----

か

解像度	41
回転指定	36
拡大縮小	41
拡張子	72
角度を指定	66
環境設定	77,78,79,80,82,83,84,85
画素数指定欄	95
画像の回転	63
画像ファイリング	2
画像処理	2,3,35
外部ビューワ	38,84

き

鏡像	43
----------	----

く

グレー多値	2,42
-------------	------

け

原稿サイズ 画素数リスト	95
--------------------	----

こ

コントラスト	43
コントロールパネル	17
ゴミ取り	35,49,52,55,67,68,79,116

さ

サーバー名 (IPアドレス)	88
サブフォルダに保存	35
サムネイル表示切り替え	59
"再度読み取り"	47,50,53,56
最大読み取り長	114
作業履歴ログ	112

し

システム管理者	8,15,19,27
シャープネス	43
シリアル番号	11
指定した領域の印刷	105
手動傾き補正	64,65,66
出荷時設定に戻す	95
詳細設定パネル	37,38,39,42,44
白黒2値	2,42
白黒擬似階調	42,125,126,127
ジョブログ	112
自動ファイル名	69
自動傾き補正	35,64,79,116,119
自動読み取り	2
自動判定 (シンクロ)	39,49,52
自動判定 (定形サイズ)	39,45,46

地肌除去.....	43	の	
システムスタンバイ	126	濃淡表示初期設定	82
す		濃度ムラ原稿.....	42
スキャナ.....	2,4	は	
スキャナ情報.....	86	ハードウェア検索ウィザード.....	13
水平線を指定.....	65	バージョン情報	87,88
スリープ.....	126	ひ	
せ		左へ90度回転.....	63
設定ウィンドウ	34	標準設定として保存	58
設定ファイル.....	2,34,57,74	標準設定を初期値に戻す	58
設定を読み込む	95	ビュー表示.....	3
設定を保存.....	95	ふ	
た		ファイル変換機能	3
タイトル.....	34	ファイル名に使用できない文字	76
つ		ファイル名リスト	36
ツールバー	34	ファイル名編集	3
て		ファイル名編集ツール	98,100,101
定形サイズ.....	96	フィルタタイプ	42
定形サイズ補正	95,126	フォルダ・ファイル名の長さ	115
適用解像度.....	95	プリンタの設定	102
データ実行防止機能	22,32,108	プリントキュー	88
デスクトップエクスペリエンス機能... ..	27,29	プレビュー.....	119
デバイスドライバ	14	プレビューあり	36
と		プレビュー自動保存	85
特定サイズ指定	39	プレビュー表示倍率	83
に		へ	
任意サイズ指定	39,54	ページの削除.....	61
ね		ページの追加.....	60
ネガポジ反転.....	43	ページの入れ替え	62
		ほ	
		保証規定.....	10
		保存しない.....	47,50,53,56
		保存する.....	36,47,50,53,56

保存ファイルフォーマット	80	ろ	
保存フォーマット	35		
保存先フォルダ	35	ログ	38
ま		ログパネル	38
マルチページ	124	ログファイル	112
マルチページファイル名	74,75	ログファイル作成	78
マルチページモード	74	わ	
み		枠消し	43
右へ90度回転	63		
め			
メインウィンドウ	34		
メニューバー	34		
も			
モトローラ形式	80		
文字写真	42		
文字線画	42		
ゆ			
ユーザーアカウント制御	10,15,19		
よ			
読み込み開始行	72		
読み込み速度	41		
読み取りサイズ	39		
読み取りサイズパネル	39		
読み取り開始	37		
読み取り開始位置	40		
読み取り開始方法	41		
読み取り設定	2		
読み取り中止	36,47,50,53,56		
読み取り濃度	43		
れ			
連番最大値	70,71,125		

